

男女共同参画意識に関する調査
報 告 書

平成25年11月
一宮市

目次

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	5
III	調査結果の分析	9
IV	調査結果	13
	＜男女の平等について＞	
1	男女の地位の平等感	16
2	男女の地位について、最も平等または不平等と思う分野	33
3	男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと	35
	＜結婚、家庭・地域生活について＞	
4	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方	37
5	現在、配偶者(またはパートナー)と暮らしていますか	40
6	家庭における家事分担	41
7	子育て経験の中での悩み	50
8	介護経験の中での悩み	52
9	仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方	54
10	地域活動への参加経験	56
11	今後参加したい活動	57
12	今後、男性が女性とともに家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	59
	＜女性の社会進出について＞	
13	女性が増える方がよいと思う職業や役職	63
14	女性が職業を持つことについての考え	65
15	社会のさまざまな分野において、企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由	68
	＜ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて＞	
16	DVなどに関する認知度	70
17	DVを身近で見聞きしたことの有無	72
18	DVに関する相談窓口の認知度	73
19	知っている相談窓口	74
	＜男女共同参画社会について＞	
20	男女共同参画社会に関する用語の認知度	76
21	男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割	78
V	男女共同参画についての自由意見	81
VI	調査票	95

I 調査の概要

1. 調査目的

第2次一宮市男女共同参画計画～138ハートフルプラン～の計画期間の中間にあたり、市民の皆さんの意識や実態を把握し、計画の改定版の策定および今後の男女共同参画施策の検討の基礎資料とするため。

2. 調査方法

①調査地域	一宮市内全域
②調査対象	市内在住の満20歳以上の男女3,000人
③抽出方法	住民基本台帳登録者から無作為抽出
④調査方法	郵送法
⑤調査期間	平成25年6月7日～7月1日

3. 調査内容

・男女の平等について	(3問)
・結婚、家庭・地域生活について	(9問)
・女性の社会進出について	(3問)
・ドメスティック・バイオレンス(DV)などについて	(4問)
・男女共同参画社会について	(2問)
	計21問

4. 回収結果

調査票配布数	3,000票
有効回収数	1,050票
有効回収率	35.0%

5. 報告書の見方

- ・調査結果の数値は、回答率(%)で表記している。回答率の母数は、その質問項目に該当する回答者数であり、「n」と表記している。
- ・回答率は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、単数回答の合計が100%にならない場合がある。
- ・1人の回答者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人が回答者全体に占める割合を表しており、通常、その比率の合計は、100%を超える。
- ・項目によっては、他調査との比較を行っている。なお、図表中でのこれらの表記はそれぞれ次のとおりとする。また、他調査の詳細は次ページのとおりである。
 - 「平成25年度」：今回調査
 - 「平成21年度」：前回調査「一宮市第6回市政アンケート」
 - 「全国調査」：男女共同参画社会に関する世論調査(内閣府 平成24年度)
 - 「愛知県調査」：男女共同参画意識に関する調査(愛知県 平成20年度)

【前回調査】

「一宮市第6回市政アンケート（平成21年8月）」

- ・調査対象：市内在住の満20歳以上の男女3,000人
- ・調査期間：平成21年8月6日～8月26日
- ・回収率：54.8%
- ・調査方法：郵送法

【全国調査】

内閣府大臣官房政府広報室「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成24年10月）

- ・調査対象：全国20歳以上の男女5,000人
- ・調査期間：平成24年10月11日～10月28日
- ・回収率：62.4%
- ・調査方法：調査員による個別面接聴取法

【愛知県調査】

愛知県県民生活部男女共同参画室「男女共同参画意識に関する調査」（平成20年9月）

- ・調査対象：県内居住の満20歳以上の男女4,000人
- ・調査期間：平成20年9月1日～9月15日
- ・回収率：回収率53.1%
- ・調査方法：郵送法

II 回答者の属性

1. 性別

	性別 (%)		
平成21年度 (n=1,643)	女性, 55.1	男性, 43.0	不明, 1.9
平成25年度 (n=1,050)	女性, 58.5	男性, 39.3	不明, 2.2

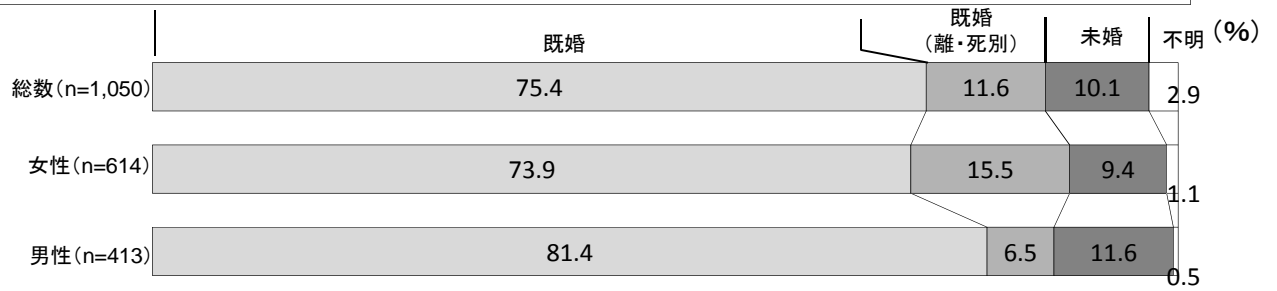
2. 年齢

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	不明	(%)
平成21年度 (n=1,643)	9.3	15.9	17.1	16.7	22.0	17.3	1.7	
平成25年度 (n=1,050)	7.1	15.7	17.8	14.4	20.8	21.9	2.3	
20歳代 (n=75)	女性, 58.7			男性, 41.3				
30歳代 (n=165)	女性, 61.2			男性, 38.8				
40歳代 (n=187)	女性, 69.0			男性, 31.0				
50歳代 (n=151)	女性, 60.3			男性, 39.7				
60歳代 (n=218)	女性, 54.6			男性, 45.4				
70歳以上 (n=230)	女性, 56.1			男性, 43.9				

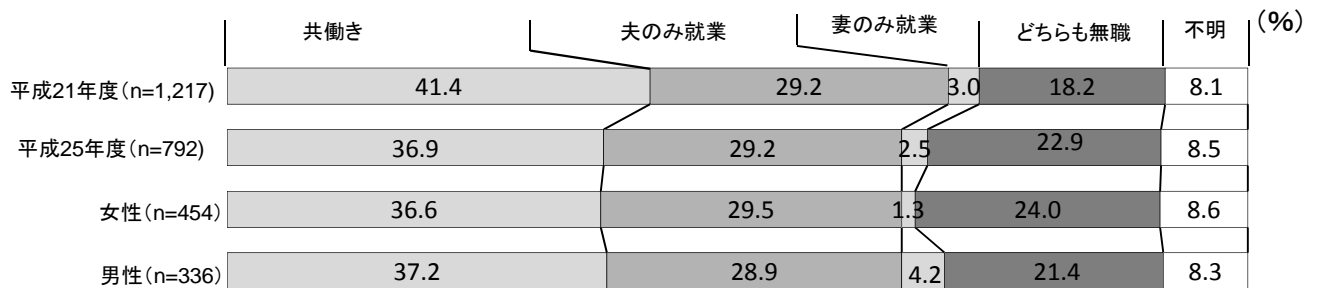
3. 職業

	自営業	家族従事者	非雇用者(常勤)	非雇用者(非常勤)	非雇用者(不明)	主婦	学生	その他の無職	不明	(%)
平成21年度 (n=1,643)	8.4	2.8	28.4	9.9	4.3	26.6	1.5	10.6	7.5	
平成25年度 (n=1,050)	6.2	2.6	20.1	9.3	11.2	27.9	1.4	12.0	9.3	
自営業 (n=65)	男性, 84.2				女性, 15.8					
家事従事者 (n=27)	男性, 21.3		女性, 78.7							
非雇用者(常勤) (n=211)	男性, 66.7				女性, 33.3					
非雇用者(非常勤) (n=97)	男性, 27.3		女性, 72.7							
非雇用者(不明) (n=118)	男性, 73.7				女性, 26.3					
主婦(主夫) (n=293)	男性, 13.1		女性, 86.9							
学生 (n=15)	男性, 56.7				女性, 43.3					
その他 (n=126)	男性, 73.4				女性, 26.6					
不明 (n=98)	男性, 43.8				女性, 56.3					

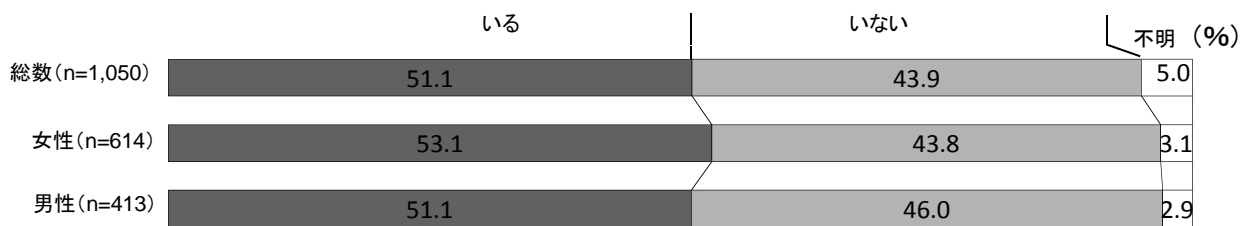
4. 未・既婚



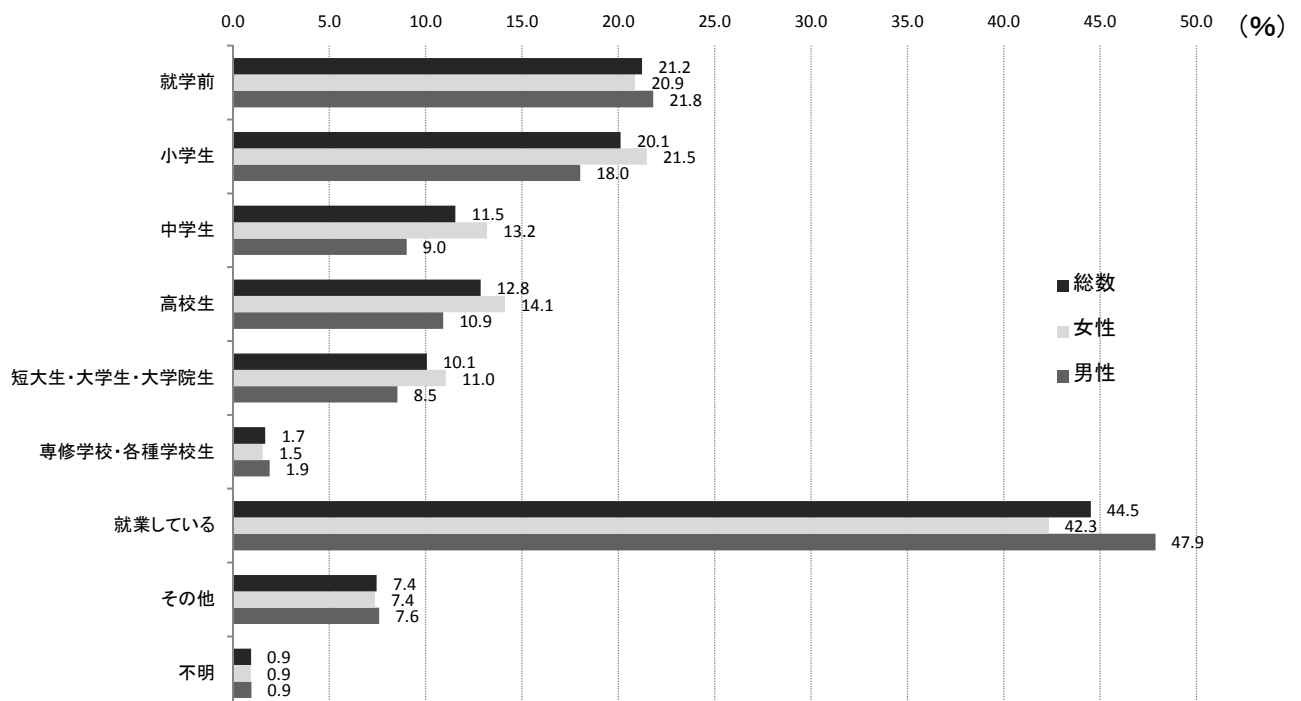
5. 共働き状況



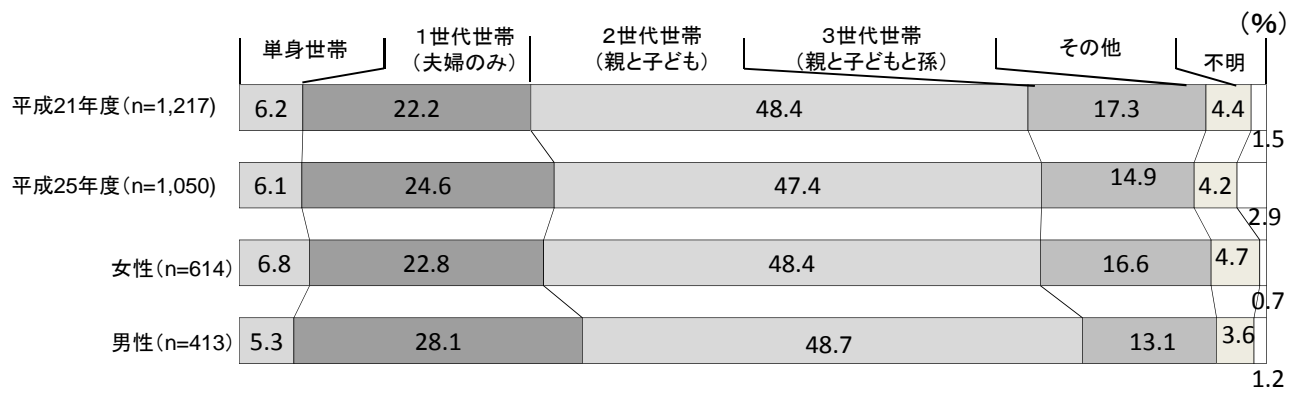
6. 未婚の子どもの有無



7. 未婚の子どもの構成



8. 世帯構成



Ⅲ 調査結果の分析

【男女の平等について】

男女の平等について、8つの分野について調査を行ったが、ほぼ前回同様の結果となった。男性の方が優遇されている意識が高い分野についても変化は見られない。また、男性よりも女性が男性優遇と感じている状況も同様であり、依然として男性優遇の意識が強い結果となっている。

男女の地位が平等と感じるのは、「学校教育の場」(55.6%)が最も高く、比較的平等が進んでいると意識されている。

一方、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」では、不平等感が強く、男性が優遇されているという意識が強い。(p.16 参照)

8つの分野すべてにおいて、「男性の方が優遇」と回答した割合は女性の方が高く、女性を取り巻くさまざまな偏見や男性優位な社会通念等を強く感じていることを示している。一方、男性は「地域活動の場」「法律や制度」で平等と回答する割合が比較的高い。(p.17～32 参照)

分野によっては、男女の意識の差がみられる。最も不平等だと思う分野の中で「職場」と回答した割合は、女性 16.1%、男性 24.0%であり、男女の意識の差が大きい。(p.34 参照)

前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が増加している分野もみられるが、ほとんど差異はない。また、平等になるために必要なこととして、「女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める」が最も高く、前回調査と同様の結果となっている。(p.35 参照)

多くの分野で「男性が優遇されている」という意識が高い傾向や男女の意識の差を踏まえ、男女の地位が平等に近づくよう、あらゆる場合における意識啓発に取り組んでいくことが必要である。

《意見》

○若年層向けの事業を展開し、その事業を通して男女共同参画をどのように伝えていくかが重要になってくると考えられます。男女平等を進めていくには、若い世代の考えや意見を取り入れることが必要であり、その意見等を取り入れる仕組みを考えていくことも大切であると思われま。

[一宮市男女共同参画推進懇話会]

平成 21 年度		順位	平成 25 年度	
男性	女性		男性	女性
社会通念・慣習・しきたりなど(66.9%)	社会全体(76.5%)	1 位	政治の場(69.5%)	政治の場(75.9%)
政治の場(64.1%)	政治の場(75.1%)	2 位	社会通念・慣習・しきたりなど(68.8%)	社会全体(74.8%)
社会全体(62.8%)	社会通念・慣習・しきたりなど(74.1%)	3 位	社会全体(65.6%)	社会通念・慣習・しきたりなど(73.8%)

表 1 男性優遇という回答が高い分野

平成 21 年度	順位	平成 25 年度
女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める(54.7%)	1 位	女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める(54.8%)
女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る(40.8%)	2 位	女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る(43.8%)
行政や企業などの重要な役職に、女性を積極的に登用する制度を採用・充実する(36.4%)	3 位	行政や企業などの重要な役職に、女性を積極的に登用する制度を採用・充実する(41.1%)

表 2 男女が平等になるために必要なこと

【結婚、家庭・地域生活に関する意識について】

性別役割分担意識はわずかながら変化はみられるものの、前回調査結果と同じ傾向であり、根強く残っている現状が調査結果に表れていた。家庭生活における「食事のしたく」や「洗濯」などの家事を圧倒的に妻が分担している状況は前回と変わっていない。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方は、全体で48.7%が賛成と回答している。前回調査と比較すると、「賛成」は減少し、「反対」が増加している。

「賛成」については、女性が42.4%に対し、男性は58.6%で、男性の方が回答した割合が高く、性別によって意識のズレがある。また男性の高齢になるほど「賛成」が高くなっていて、固定的な性別役割分担意識が強いという傾向がみられる。(p.37～38参照)

平成21年度		回答	平成25年度	
男性	女性		男性	女性
59.1%	46.4%	賛成	58.6%	42.4%
30.4%	40.8%	反対	30.3%	43.3%

表3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについて

固定的な性別による役割分担は、性別だけでなく年代によっても賛否がわかれている。根強く残る固定的な意識を改革していくには、継続して多様な啓発活動を進めていくことが求められる。

日常的な家事の分担は、「妻」と回答した割合が高く、全体的に妻が担当している傾向である。特に、「食事のしたく」(88.4%)「洗濯」(80.3%)は「妻」が高くなっている。一方、「夫」と回答した割合は、「家計の管理」が最も高く11.9%であるが、他の項目はいずれも低く、「食事のしたく」(0.9%)「子育て」(0.2%)「介護」(0.9%)ではほとんどみられない。

平成21年度	順位	平成25年度
食事のしたく(83.4%)	1位	食事のしたく(88.4%)
洗濯(78.7%)	2位	洗濯(80.3%)
食事の後片付け、食器洗い(70.2%)	3位	食事の後片付け、食器洗い(70.8%)

表4 家庭で「妻」が担っている家事

夫婦で分担している家事は、回答が多い順に「買い物」(34.2%)「掃除」(22.3%)「家計の管理」(18.6%)となっている。(p.41参照)若い世代では、「子育て」について「夫婦」という回答が高い。(p.48参照)

家庭の役割分担について、「妻」の負担が大きいといえる。「自由な時間がもてない」「子育てや介護で出費がかさむ」という悩みもあり、精神的・経済的負担を軽減する支援制度などに取り組んでいく必要がある。また、男女がともに協力しながら豊かな人生を送るという男女共同参画の意識の必要性を啓発していくことが必要である。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の3つの優先度について、全体でみると「家庭生活を優先している」(30.9%)という回答が最も高い。女性は、「家庭生活」(39.6%)と回答した割合が最も高く、男性は「仕事と家庭生活をともに優先している」(29.3%)と回答した割合が最も高い。男性は、「仕事を優先している」と回

平成21年度		順位	平成25年度	
男性	女性		男性	女性
仕事と家庭生活(28.6%)	家庭生活(32.5%)	1位	仕事と家庭生活(29.3%)	家庭生活(39.6%)
仕事(23.8%)	仕事と家庭生活(24.2%)	2位	仕事(20.6%)	仕事と家庭生活(22.0%)
家庭生活(16.0%)	仕事、家庭生活、地域・個人の生活(14.5%)	3位	家庭生活(18.9%)	家庭生活、地域・個人の生活(11.4%)

表5 生活の優先度

答した割合が女性よりも高い。特に40歳代・50歳代の男性は「仕事を優先している」が高いが、「仕事と家庭生活を優先している」の回答も同程度の割合である。(p.54～55 参照)

前回調査と比較すると、若干「家庭生活を優先している」が増加しているが、大きな差異はない。全国調査と比較しても大きな差異はない。

男性が女性とともに家事、子育て、介護等に積極的に参加していくためには、前回の調査結果と同様、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」ことが最も必要だと考えられている。20歳代・30歳代では、「労働時間短縮や休暇制度を普及させ、仕事以外の時間を多く持てるようにする」ことが必要と回答する割合が高く、前回調査よりも増加している。(p.59～61 参照)

生活の優先度は、男女で意識の違いがみられる。女性は家庭中心の生活、男性は仕事と家庭を両立した生活という考えが多いと思われる。仕事と家庭の両立ができている人はまだ少なく、とりまく環境の整備・充実を図り、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを継続的に行っていくことが必要である。

《意見》

○団塊の世代が高齢化していくと、介護問題は非常に大きくなると思われます。女性だけでなく、男性も男女共同参画の視点から、家庭、地域でのサポート等、高齢期の問題を考えていくことが必要になると考えられます。

○男性が女性とともに子育てや介護に積極的に参加していくためには、夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかることが必要と考える人が多いですが、個人のレベルでは難しいと思われる。子育てや介護を個人や家庭に押し付けるのではなく、社会全体で支えていく体制が必要と考えられます。

[一宮市男女共同参画推進懇話会]

【女性の社会進出について】

女性が職業を持つことについて、前回調査と比較すると、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した割合は前回調査よりも増加している。女性が職業を持つことに少しずつ意識の変化がみられる。

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」(45.3%)と回答した割合が最も高く、ついで「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」(35.9%)の順となっている。また、「女性は職業を持たないほうがよい」と回答した割合は減少している。(p.65～67 参照)

男性優位な組織運営や職場における性別役割分担、性差別の意識などにより、女性の参画が進まないと考えられる人が多いと思われる。

	平成21年度		平成25年度	
	男性	女性	男性	女性
子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ	44.1%	50.5%	45.8%	45.6%
ずっと職業を持ち続ける	29.6%	31.4%	31.7%	39.1%
女性は職業を持たない	3.1%	1.3%	1.9%	1.0%

表6 女性が職業をもつことについての考え

現状の改善や意識改革が求められるとともに、女性が働きやすい環境整備、いったん仕事を辞めても、再就職を後押しするような支援や仕事と家庭の両立ができる支援の充

実などを進めていく必要がある。

《意見》

○女性が仕事を続けながら育児と両立していくには、育児休暇取得後に気兼ねなく職場復帰できる職場環境や保育所の整備など社会の中で働きつづけられる環境の整備が求められています。この問題が解決されれば、社会に復帰していく女性は増えていくと思われます。

[一宮市男女共同参画推進懇話会]

【ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて】

DVに関する認知度は高くなっている。前回調査と比較すると、ほとんどの項目において増加していることから、DVに関する理解が深まってきていると思われる。(p.70～71 参照)

言葉の認知度は高いものの、DVの相談窓口については、「知らない」が43.7%も占めている。特に若い世代では、男女ともにその傾向にある。(p.73 参照)

相談窓口を知っている人のうち、その相談先については83.3%の人は「警察」と回答している。「市役所」と回答した人は42.6%と警察のおよそ半分の割合となっている。(p.74 参照)

DVの認知度は高まってきてはいるが、さらに理解を深める啓発活動に取り組んでいくことが必要である。安心して相談できるように、DVに対する相談窓口を広く周知するとともに、相談体制の整備・充実などが求められている。

《意見》

○ドメスティック・バイオレンス（DV）についての認知度が増加していることから、いろいろな取り組みが進んできていると思われます。

[一宮市男女共同参画推進懇話会]

【男女共同参画社会について】

男女共同参画社会の形成にむけて、言葉や制度の認知度、行政の役割について、前回と同じ内容で調査したところ、ほぼ同様の結果で大きな差異はなかった。

男女共同参画に関する言葉や制度の認知の状況は、男女ともに「男女雇用機会均等法」(52.6%)と回答した割合が最も高く、ついで「男女共同参画」(36.4%)となっている。この2項目については、前回調査の割合よりも若干減少しているが、「ワーク・ライフ・バランス」については、前回調査よりも5.7ポイント増加している。一方、「知らない」と回答した割合は、36.5%に及ぶ。年齢別にみても、大きな差異はない。(p.76～77 参照)

	平成 21年度	平成 25年度
男女雇用機会均等法	52.8%	52.6%
男女共同参画	36.9%	36.4%
ワーク・ライフ・バランス	10.2%	15.9%
男女共同参画情報紙 「いーぶん」	3.7%	8.2%
いちのみやし 男女共同参画計画	4.3%	5.2%

表7 言葉や制度の認知度

知らない人の割合が比較的高いところからみても、男女共同参画についてはまだ認知度が低いことがうかがえる。また、市の事業である、「男女共同参画情報紙『いーぶん』」を知ってい

ると回答した割合は、前回より増加したが 8.2%で、市の計画については、5.2%にとどまっている。男女共同参画に関する取り組みなどについて、さらに市民への周知を図ることが必要である。

行政に期待する役割としては、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(57.9%)が最も高く、ついで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」(52.5%)「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(50.2%)の順となっている。ほとんどすべての項目において、前回調査よりもわずかであるが増加している。

	平成 21年度	平成 25年度
再就職を支援する	57.3%	57.9%
子育て・介護を支援する	50.9%	52.5%
保育・介護サービスの充実	50.0%	50.2%
働き方の見直し	42.4%	46.1%
女性を積極的に登用する	34.3%	37.5%

表8 行政に期待する役割

(p.78～79 参照)

若い世代では、再就職の支援のほか、「労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」(61.3%)を回答した割合も高い。(p.80 参照)

子育てや介護をしながら働いている人々が仕事と両立できる支援を望んでいることが分かる。仕事と家庭の両立のための取り組みをよりいっそう進めていくことが必要である。

《意見》

○男女共同参画に関する用語や市の取り組みなどについて、さらに市民に周知を図り、男女共同参画社会に向けた意識の向上に努める必要があります。

[一宮市男女共同参画推進懇話会]

IV 調査結果

男女の平等について

1 男女の地位の平等感

- 8つの分野について、「男性の方が優遇」（「男性の方が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」以下同じ）と回答した人の割合は、「政治の場」（72.9%）が最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなど」（71.3%）、「社会全体」（70.8%）の順となっている。
- 「学校教育の場」を除くすべての分野で、「男性の方が優遇」と回答した人の割合が高い。
- 「学校教育の場」では、「平等」と回答した人の割合が55.6%と高い。
- 最も男性が優遇されていると感じられているのは「政治の場」である。
- 女性が優遇されていると感じているのは、「地域活動の場」が最も高い。

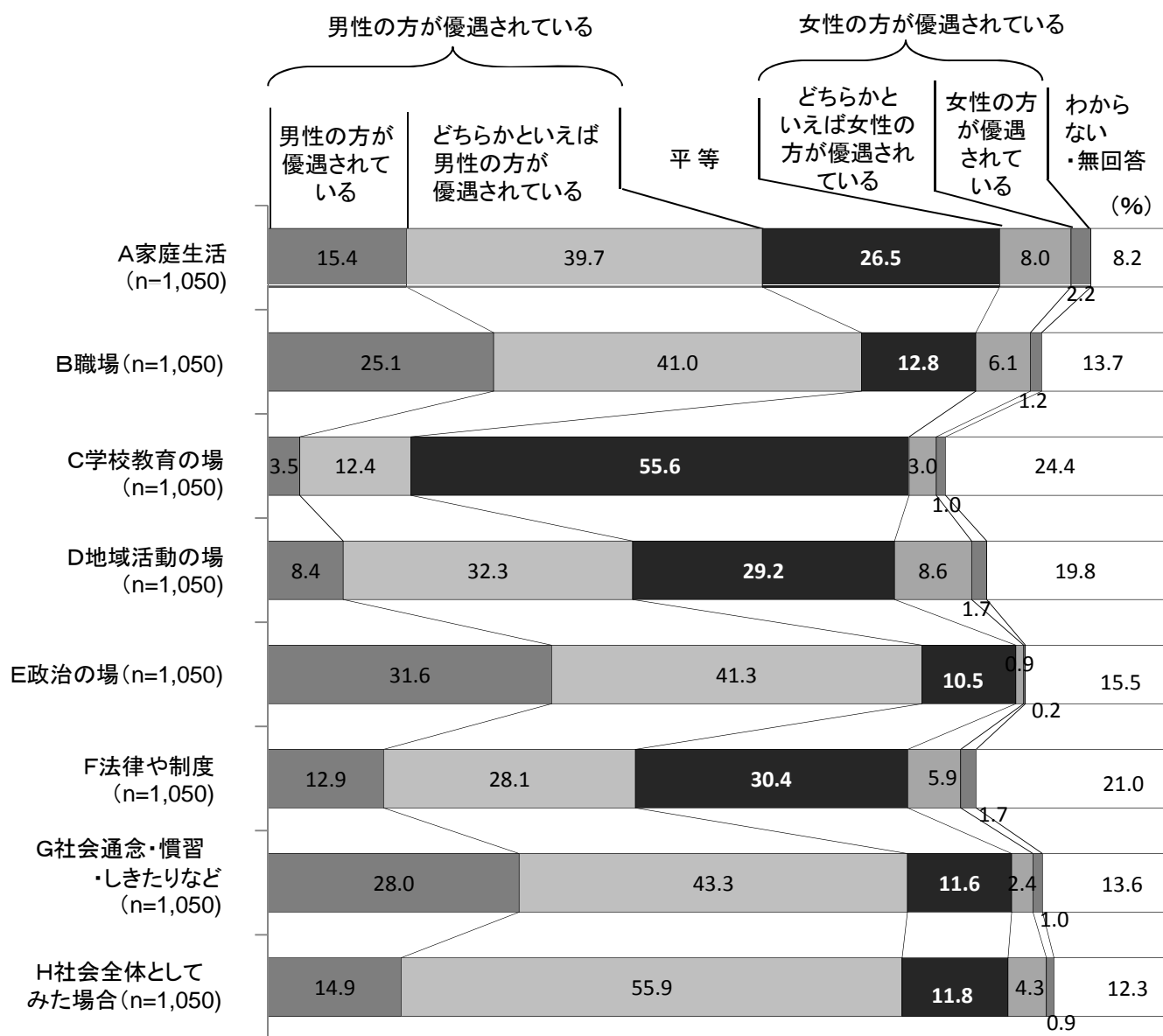


図1-1 男女の地位の平等感 【分野別】

1 男女の地位の平等感 【A 家庭生活】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は、55.1%で高く、「平等」と回答した人の割合は、26.5%である。
- 男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人の割合が最も高い。
- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は女性が63.4%で、男性が44.1%となっている。

【性別×年齢別】

- 20歳代を除くすべての年代で女性は、「男性が優遇」と回答した人の割合が高い。特に、40歳～60歳代では60%を超えている。
- 20歳代女性は、「平等」が最も高い。
- 「平等」は、すべての年代で男性のほうが高い。20歳男性は54.8%で最も高い。

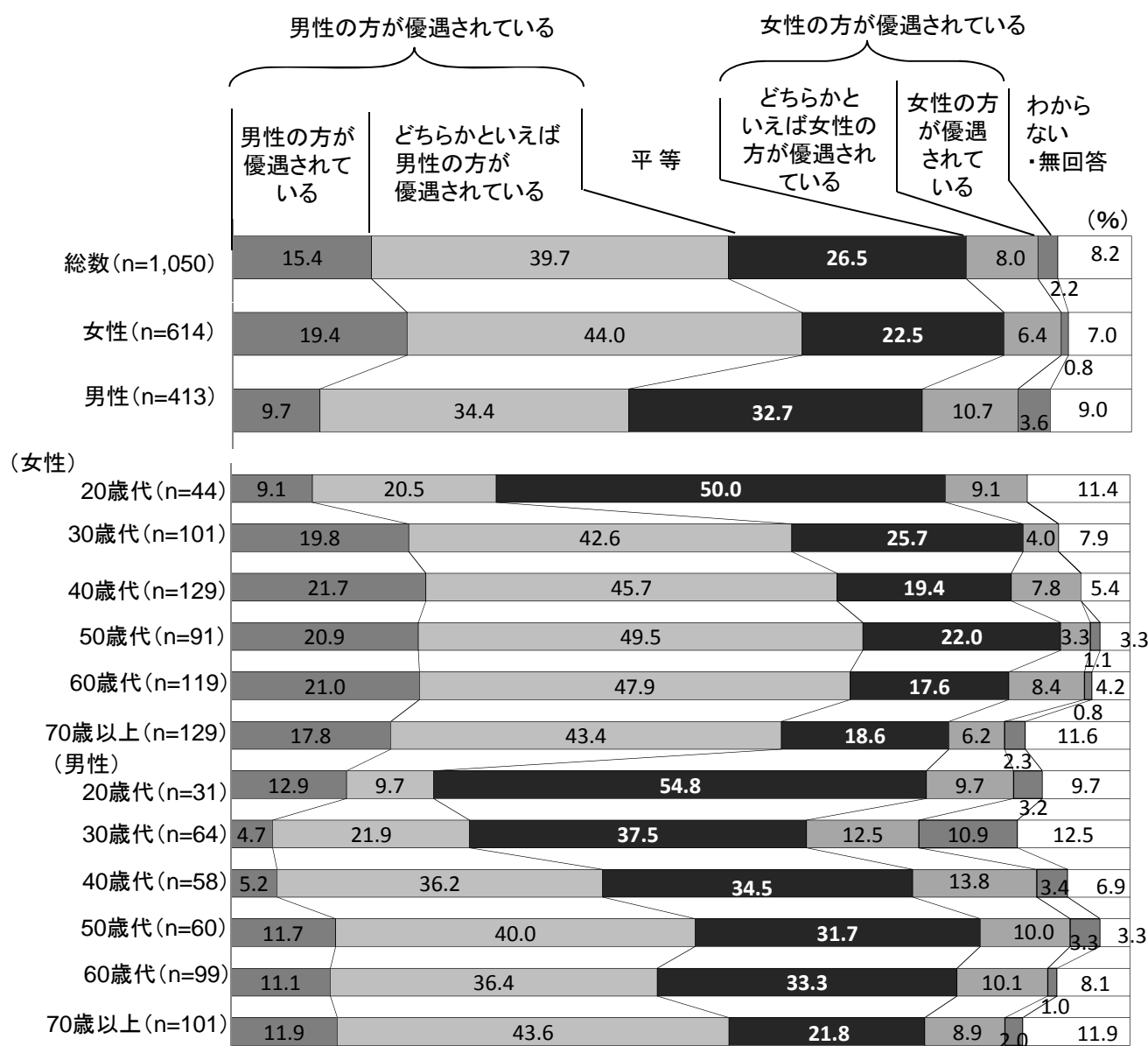


図1-2 家庭生活における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【A 家庭生活】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「男性が優遇」の割合が高く、「平等」が低い。

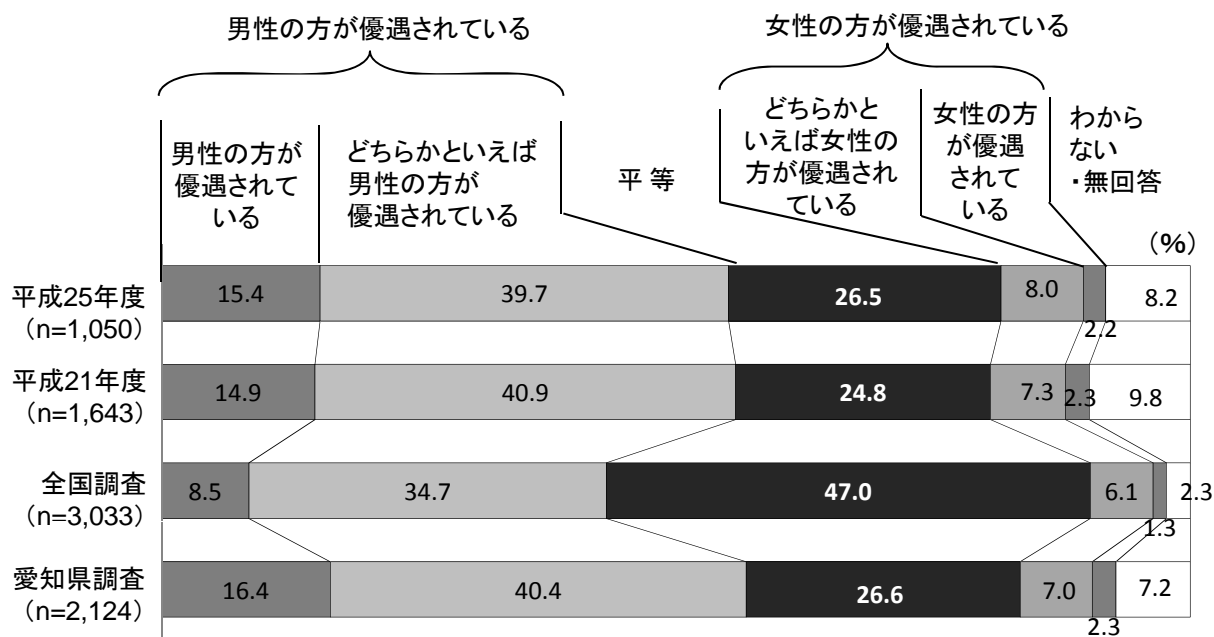


図1-3 家庭生活における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【B 職場】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は、66.1%で高い。
- 男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人の割合が最も高い。

【性別×年齢別】

- すべての年代で「男性の方が優遇」と回答した人の割合が高い。特に、50歳代女性は81.3%で最も高くなっている。
- 70歳代以上は、男女ともに「平等」（女性9.3%、男性9.9%）と回答した割合が低い。

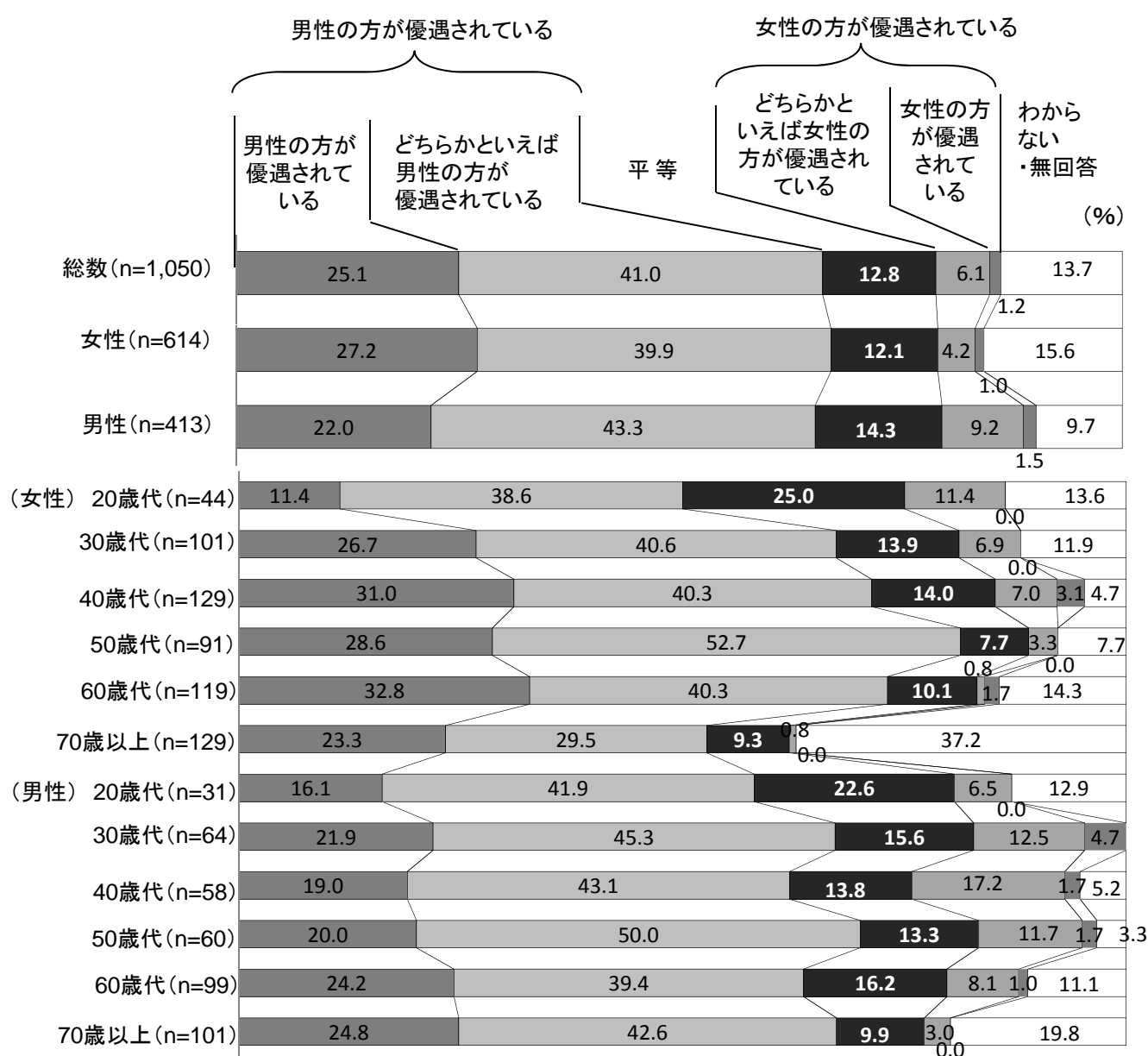


図1-4 職場における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【B 職場】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合が高い。

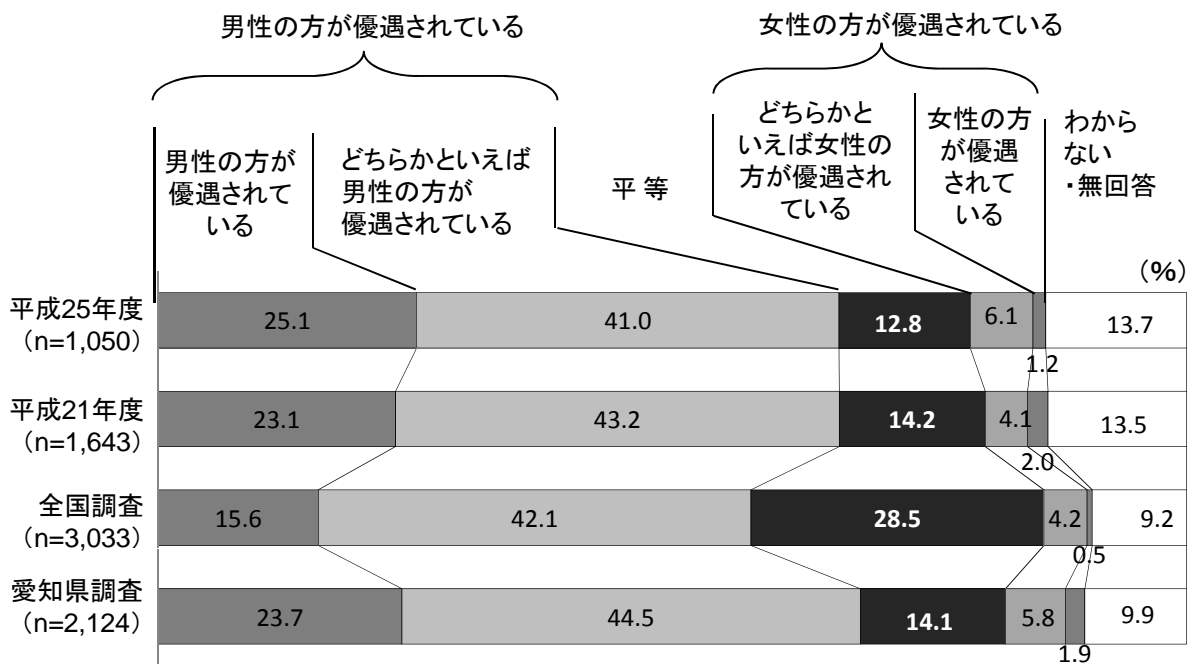


図1-5 職場における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【C 学校教育の場】

【全体・性別】

- 「平等」と回答した人の割合は55.6%と高い。
- 男女ともに「平等」と回答した人の割合が高く、女性が52.1%、男性が61.7%である。
- 女性は、「どちらかといえば男性が優遇されている」(14.7%)も比較的高い。

【性別×年齢別】

- すべての年代で「平等」と回答した人の割合が高い。
- 20歳代男性は、「平等」と回答した人の割合が83.9%で最も高い。

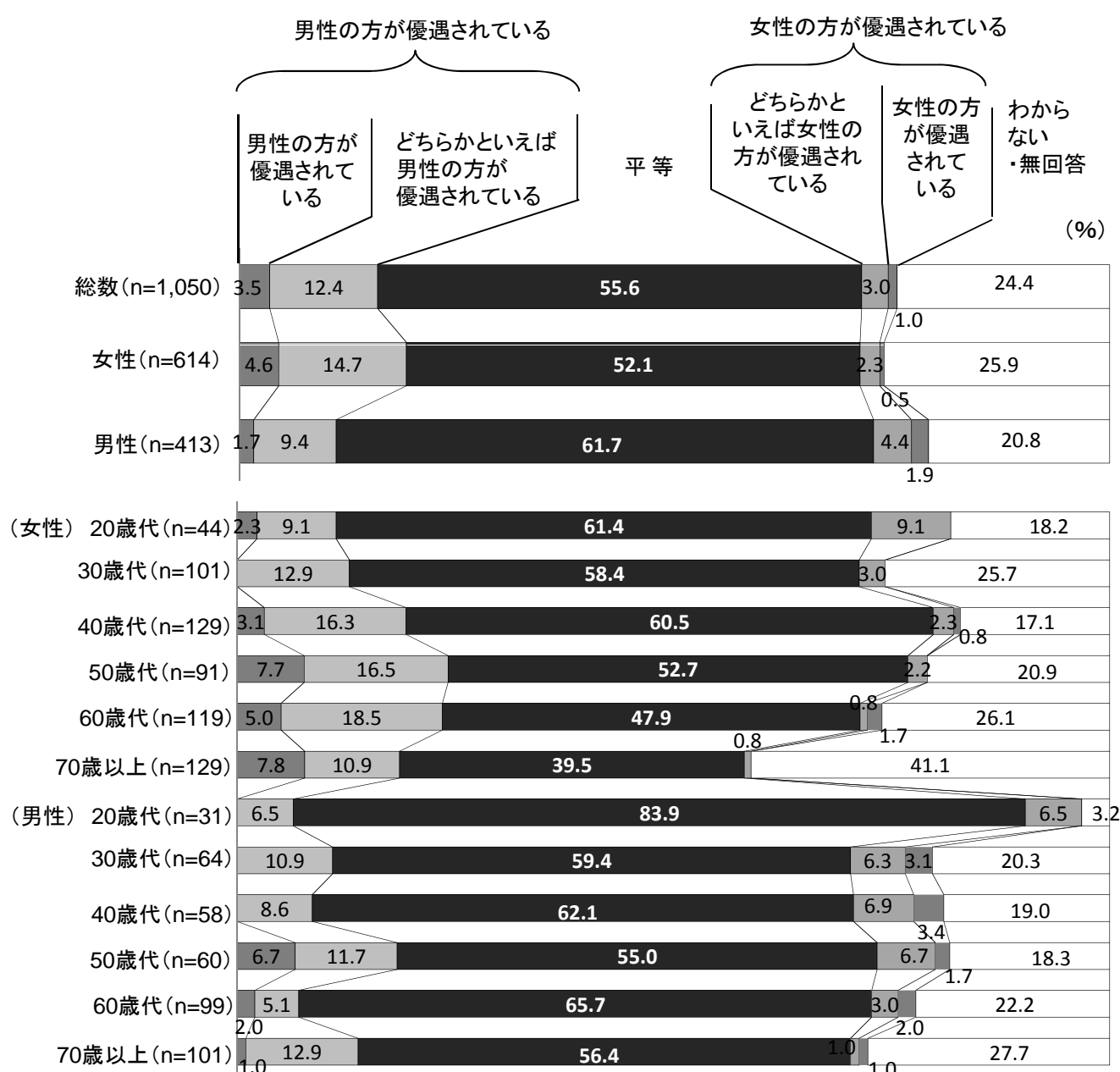


図1-6 学校教育の場における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【C 学校教育の場】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」の割合はほぼ同様であるが、「平等」が11.4ポイント低くなっている。

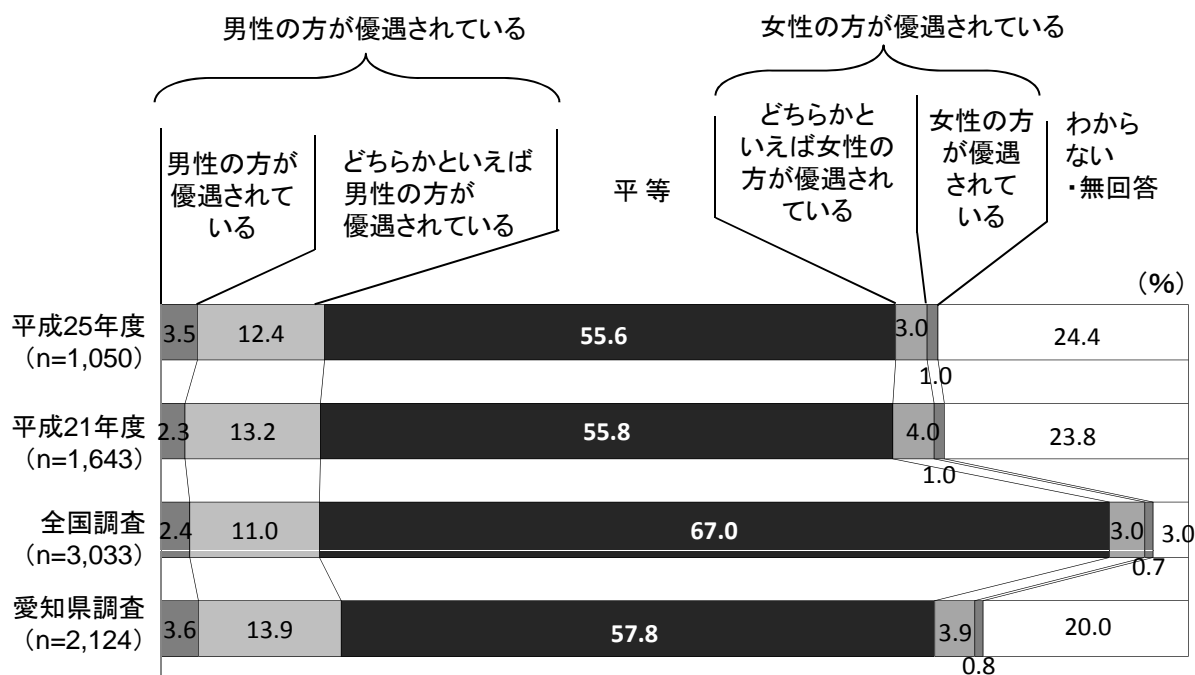


図1-7 学校教育の場における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【D 地域活動の場】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は40.7%
- 「女性の方が優遇（「女性のほうが優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」以下同じ）」と回答した人の割合は10.3%。
- 女性は、「男性の方が優遇」と回答した人の割合が46.4%で高い。
- 男性は、「男性の方が優遇」と「平等」と回答した人が同程度の割合。

【性別×年齢別】

- 20歳代は男女ともに「平等」（女性50.0%、男性58.1%）と回答した人が最も高い。
- すべての年代で男性は「平等」と回答した人の割合が高い。
- 20歳代を除くすべての年代で、「男性の方が優遇」と回答した人の割合は女性が高い。
- 20歳代男性は「平等」と回答した人の割合が58.1%で最も高い。

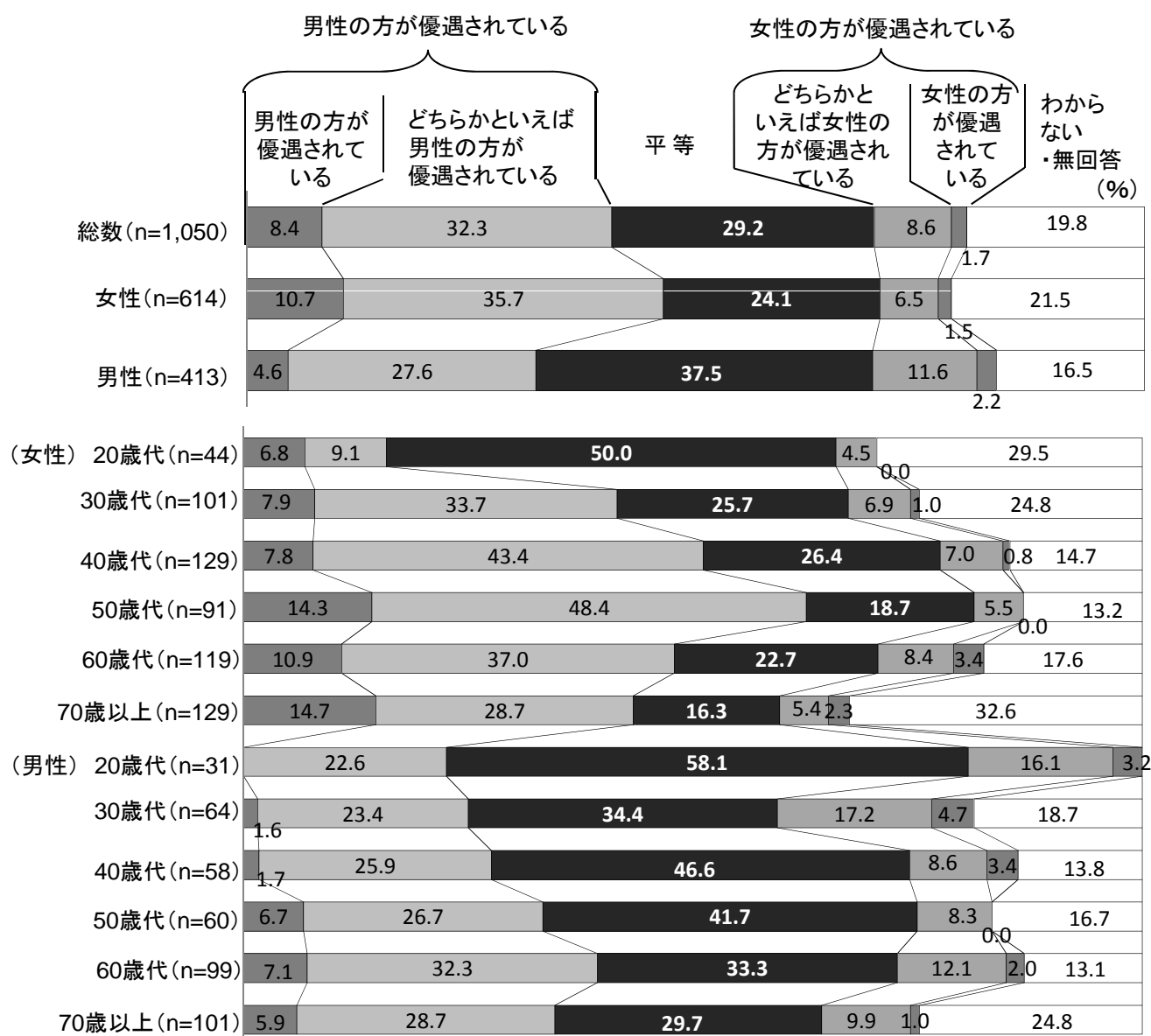


図1-8 地域活動の場における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【D 地域活動の場】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 「男性の方が優遇」「どちらかといえば女性の方が優遇」と回答した人の割合が若干増加し、「平等」は若干減少している。
- 全国調査と比較すると、「平等」が22.9ポイント低い。

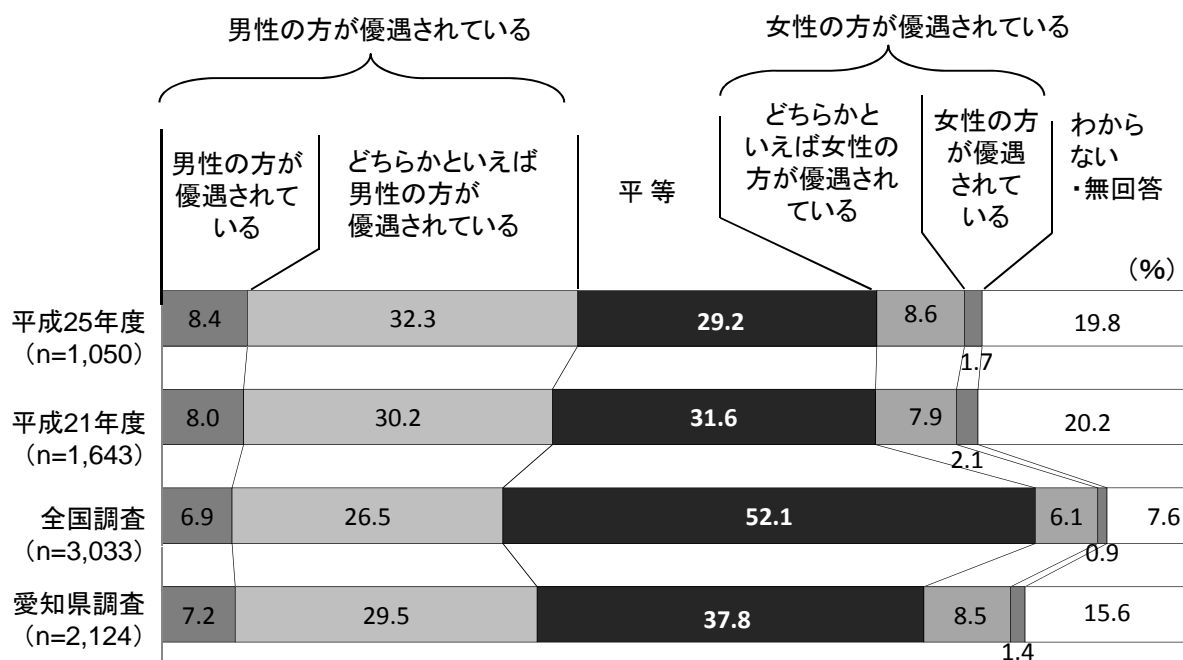


図1-9 地域活動の場における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【E 政治の場】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は女性が75.9%、男性は69.5%で女性の方が高い。
- 男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答した人の割合が最も高い。

【性別×年齢別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は、40歳代女性が82.9%、50歳代女性が84.7%と高くなっている。

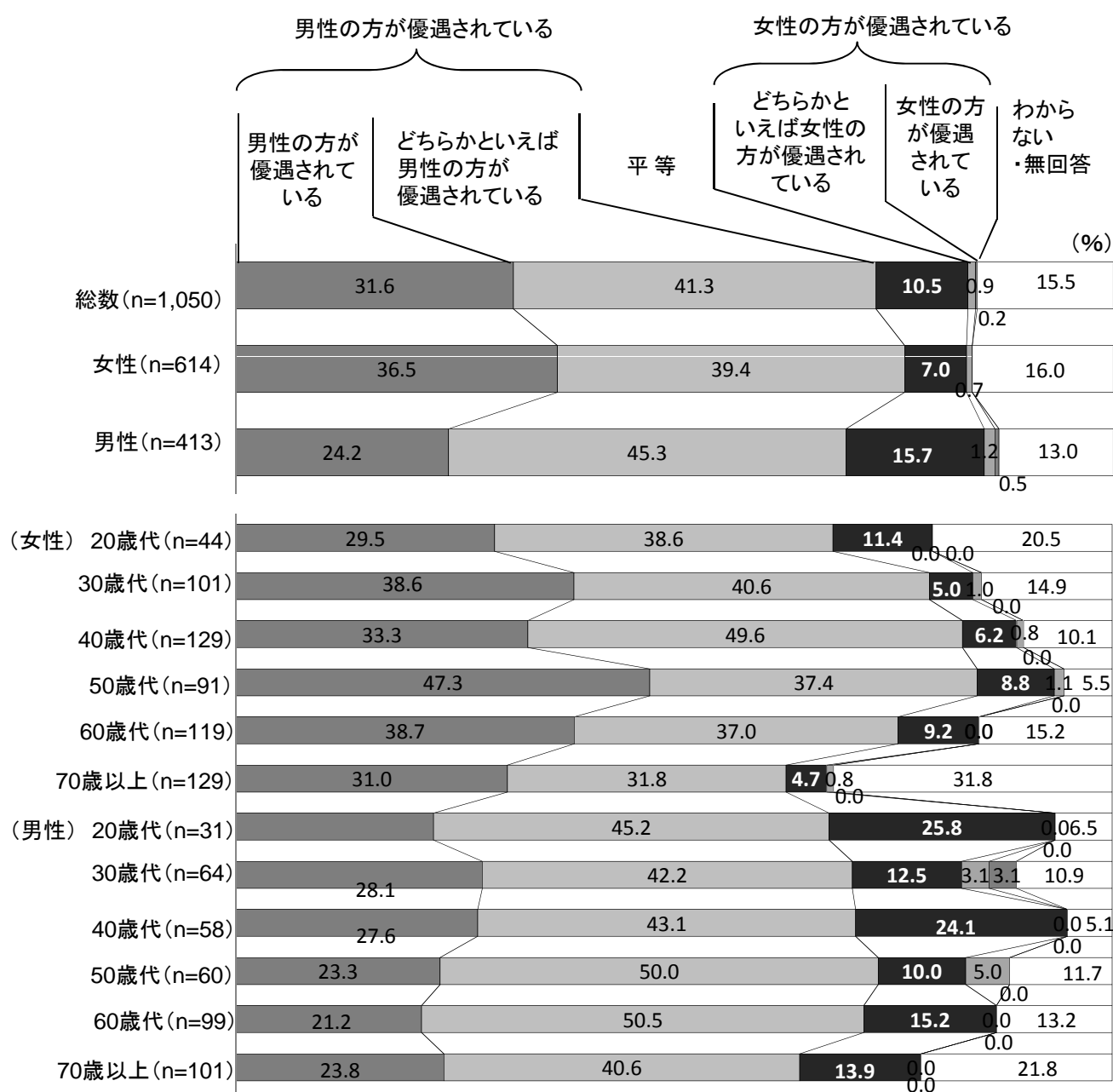


図1-10 政治の場における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【E 政治の場】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合が若干増加し、「平等」は減少している。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」はほぼ同様の結果である。

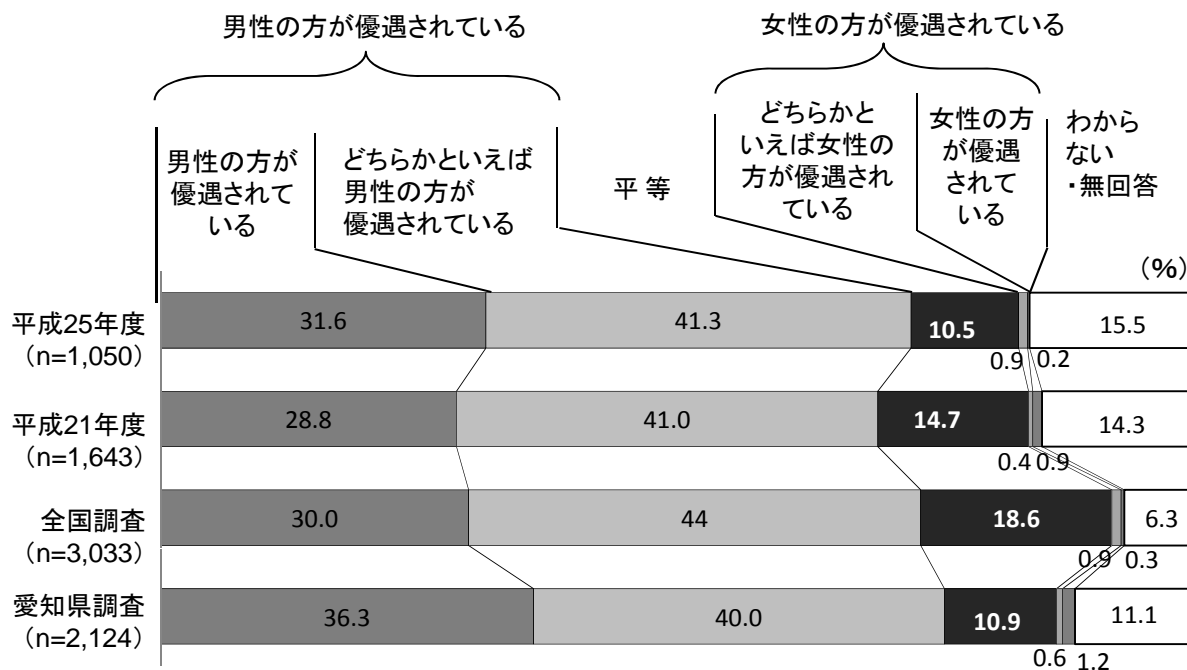


図1-11 政治の場における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【F 法律や制度】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合が高い。
- 女性は「男性の方が優遇」（48.9%）と回答した人の割合が最も高く、男性は「平等」（42.1%）と回答した人の割合が最も高い。
- 「男性の方が優遇」と回答した割合は、男性（30.3%）より女性（48.9%）が高い。

【性別×年齢別】

- 男性はすべての年代で「平等」と回答する人の割合が高い。
- 男性は年齢が若くなるほど、「女性が優遇」と回答する人の割合が高くなっている。
- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は、40歳代女性が59.7%、50歳代女性が57.2%と高くなっている。

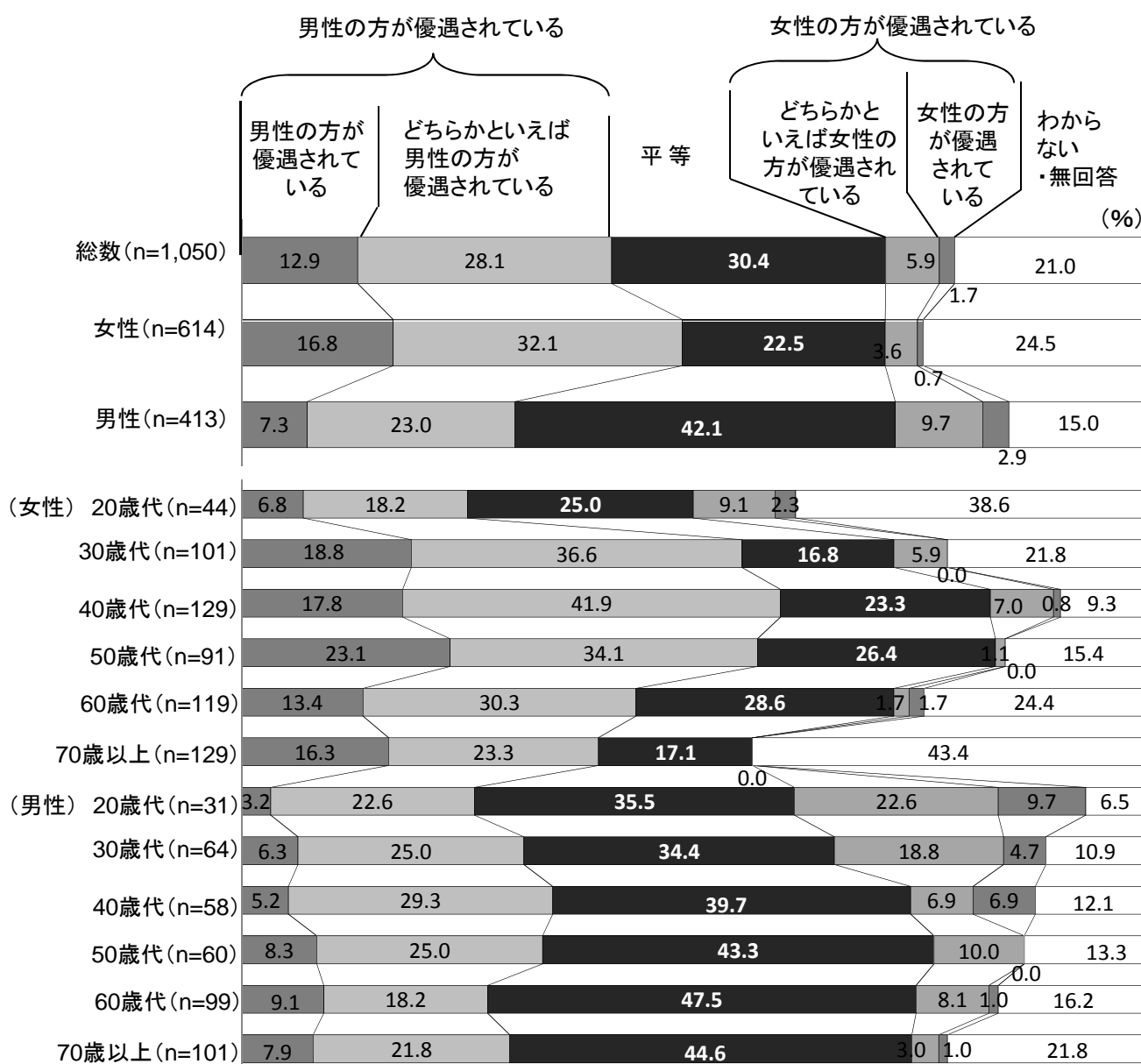


図1-12 法律や制度における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【F 法律や制度】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合が若干増加し、「平等」は減少している。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」はほぼ同様の結果であるが、「平等」が15.0ポイント低い。

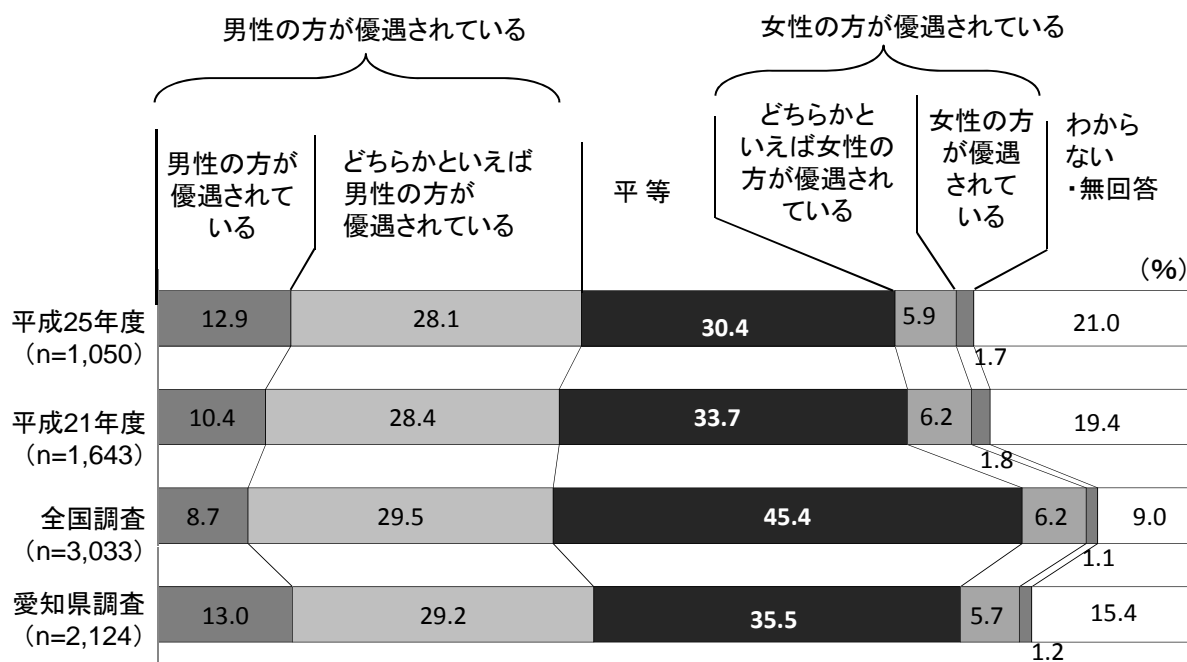


図1-13 法律や制度における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【G 社会通念・慣習・しきたりなど】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は71.3%で高くなっている。「平等」と回答した人の割合は11.6%で、「女性の方が優遇」と回答した人の割合は3.4%と低い。
- 男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答する人の割合が最も高い。

【性別×年齢別】

- すべての年代において、「男性の方が優遇」と回答する人の割合が高い。男女ともに40歳～50歳代が高い。
- 男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答する人の割合が最も高い。

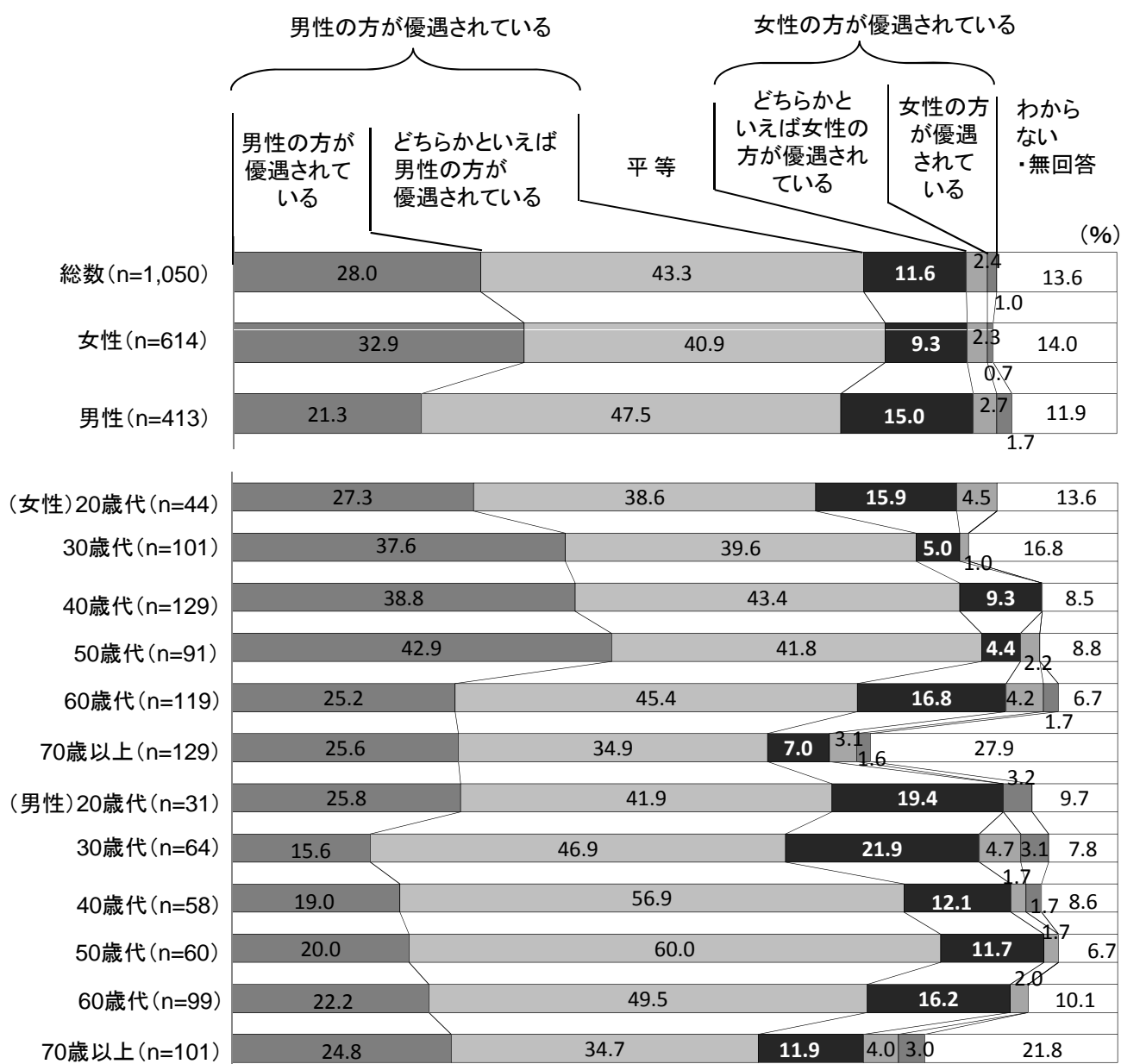


図1-14 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【G 社会通念・慣習・しきたりなど】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」はほぼ同様の結果である。

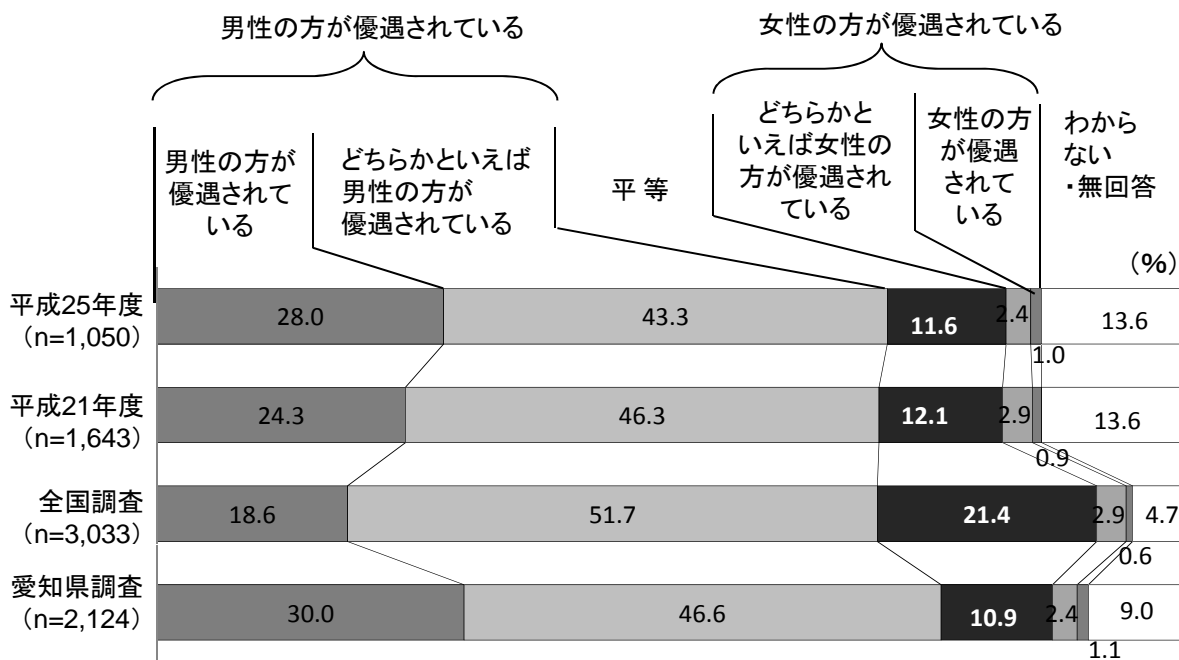


図1-15 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感 【他調査との比較】

1 男女の地位の平等感 【H 社会全体としてみた場合】

【全体・性別】

- 「男性の方が優遇」と回答した人の割合は、女性が74.8%、男性が65.6%となっている。
- 男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答する人の割合が最も高い。

【性別×年齢別】

- 20歳代を除くすべての年代で、「男性の方が優遇」と回答した人の割合は女性が高い。特に、50歳代女性は86.8%で最も高くなっている。
- すべての年代で「平等」と回答している人の割合は男性が高い。
- 70歳以上の男女では、「わからない・無回答」の割合が高くなっている。

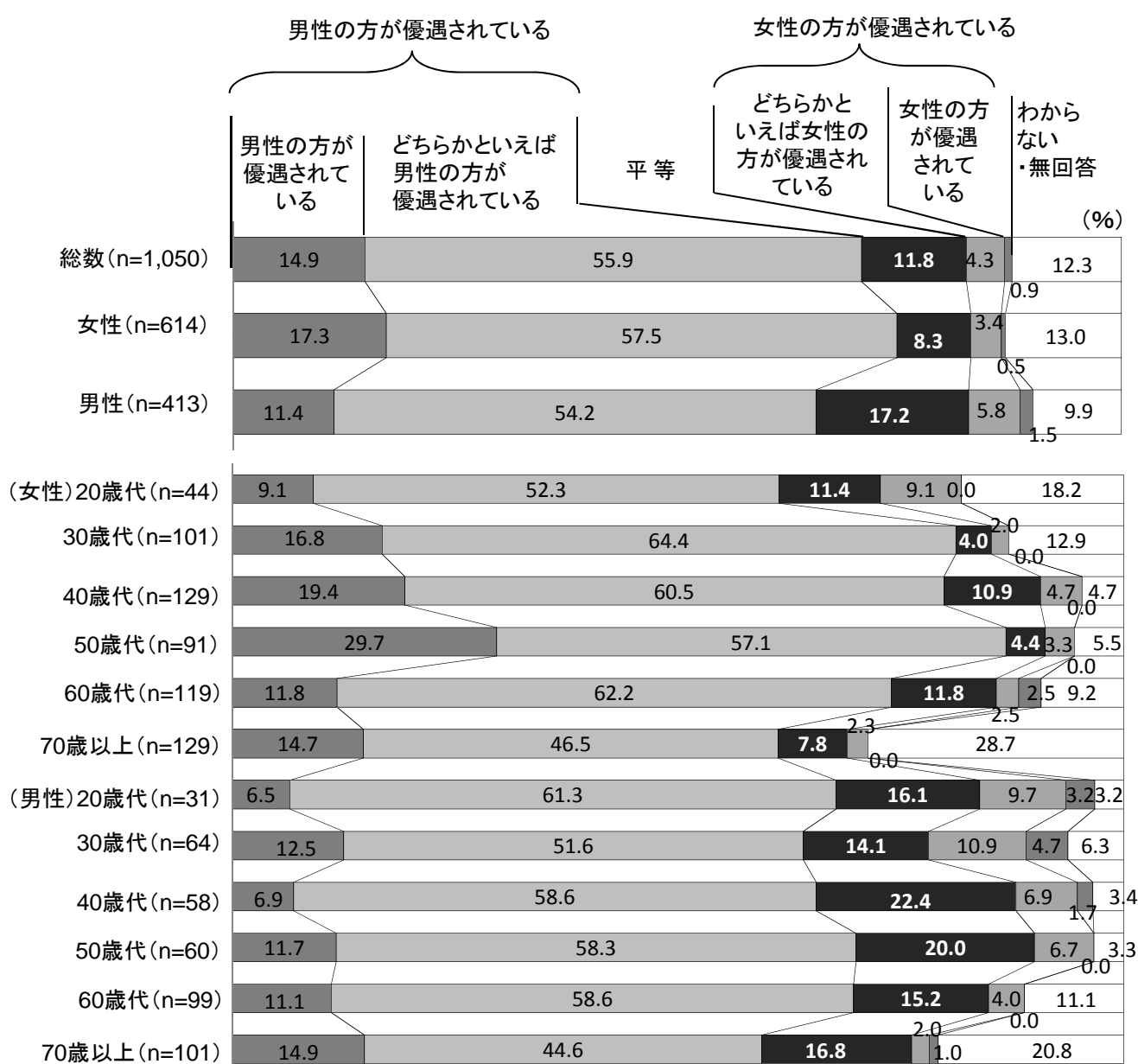


図1-16 社会全体としてみた場合における男女の地位の平等感
【総数、性別、年齢別】

1 男女の地位の平等感 【H 社会全体としてみた場合】

【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっている。大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「男性の方が優遇」はほぼ同様の結果であるが、「平等」が12.8ポイント低い。

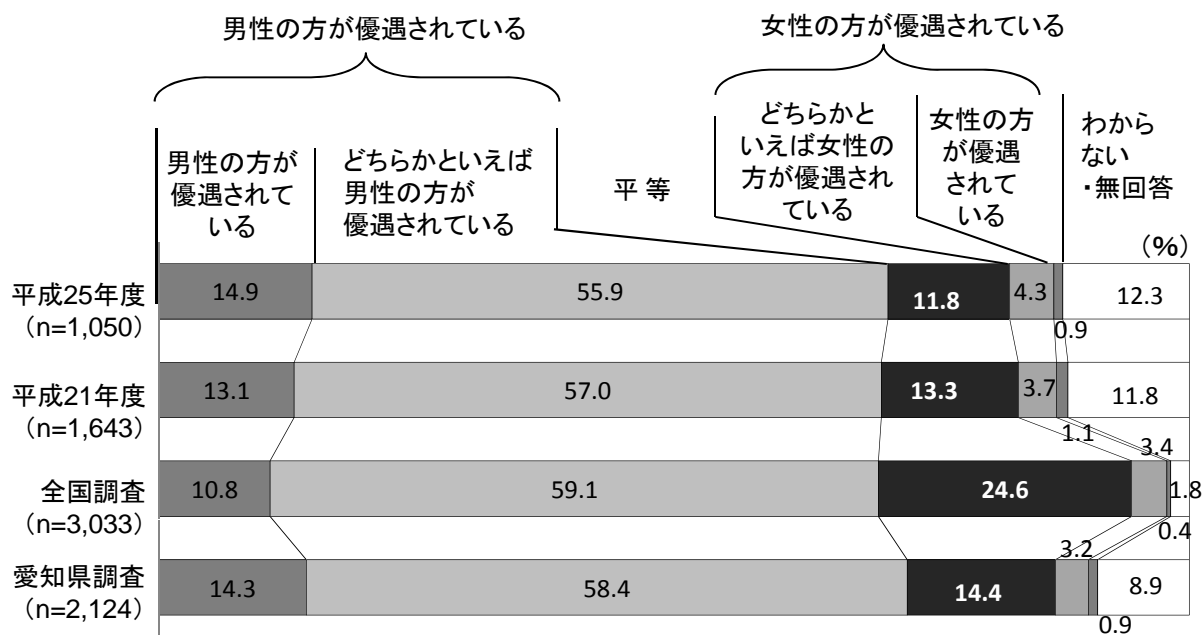


図1-17 社会全体としてみた場合における男女の地位の平等感 【他調査との比較】

2 男女の地位について、最も平等または不平等だと思う分野

【最も平等だと思う分野 全体・性別】

- 最も平等だと回答した人の割合は、「学校教育の場」（42.9%）で最も高く、ついで「家庭生活」（17.8%）、「法律や制度」（10.8%）の順となっている。
- 男女の意識の差があるのは、「法律や制度」（女性7.8%、男性15.3%）、「政治の場」（女性1.5%、男性3.1%）、「学校教育の場」（女性45.3%、男性39.5%）である。
- 男女ともにすべての世代で「学校教育の場」と回答する人の割合が最も高い。

【最も平等だと思う分野 性別×年齢別】

- 20歳代と70歳以上の女性は、「家庭生活」を最も平等であると回答した人の割合が高い。
- 20歳を除く世代の男性は、「法律や制度」と回答した人の割合が女性より高い。

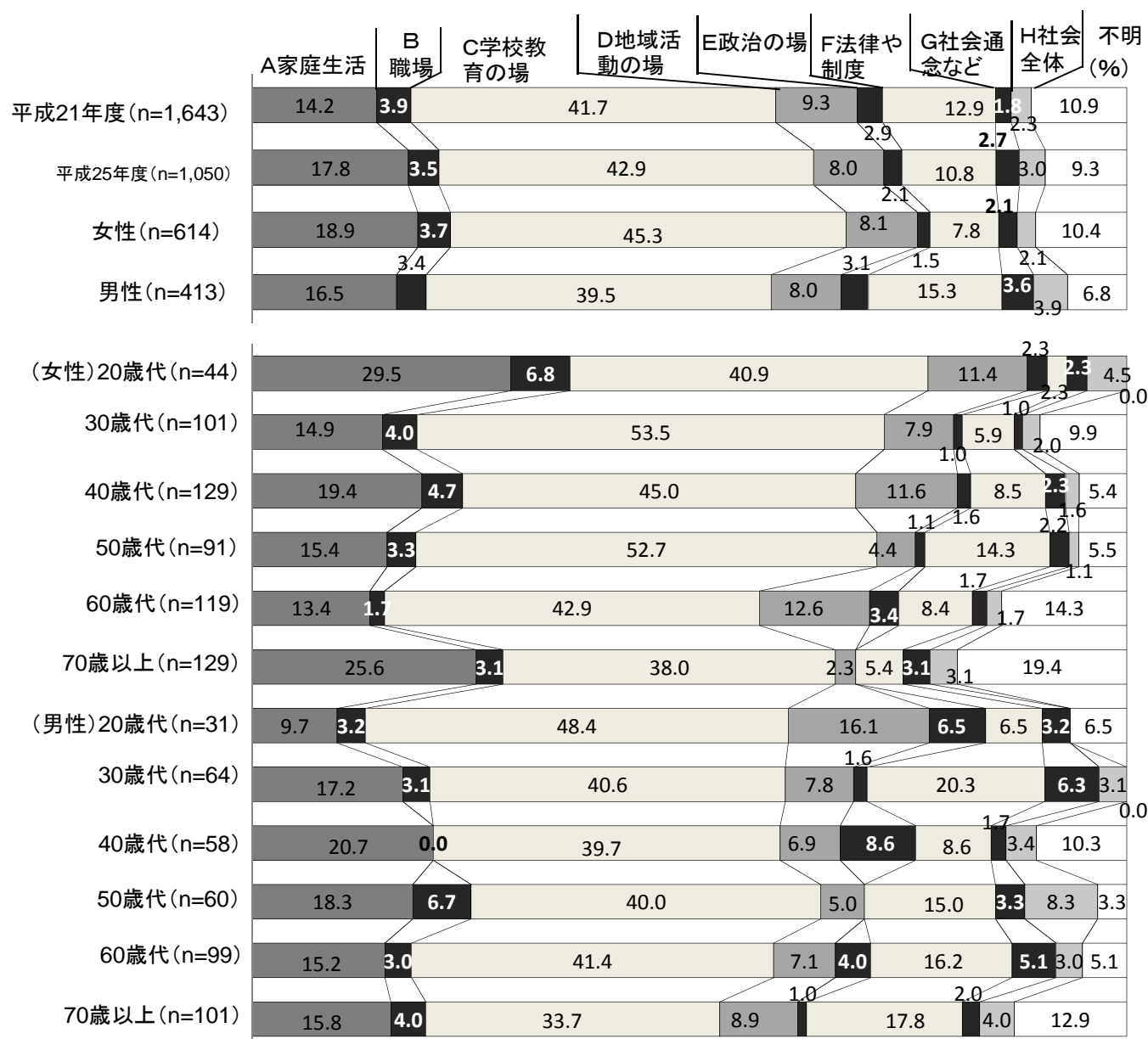


図2-1 男女の地位が最も平等 【総数、性別、年齢別】

【最も不平等だと思う分野 全体・性別】

- 最も不平等だと回答した人の割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」(28.9%)で最も高く、ついで「職場」(19.3%)、「政治の場」(15.4%)の順となっている。
- 男女の意識の差が大きいのは、「職場」(女性16.1%、男性24.0%)である。

【最も不平等だと思う分野 性別×年齢別】

- 男女ともに「社会通念・慣習・しきたりなど」と回答した人の割合は、40歳代、50歳代が高くなっている。

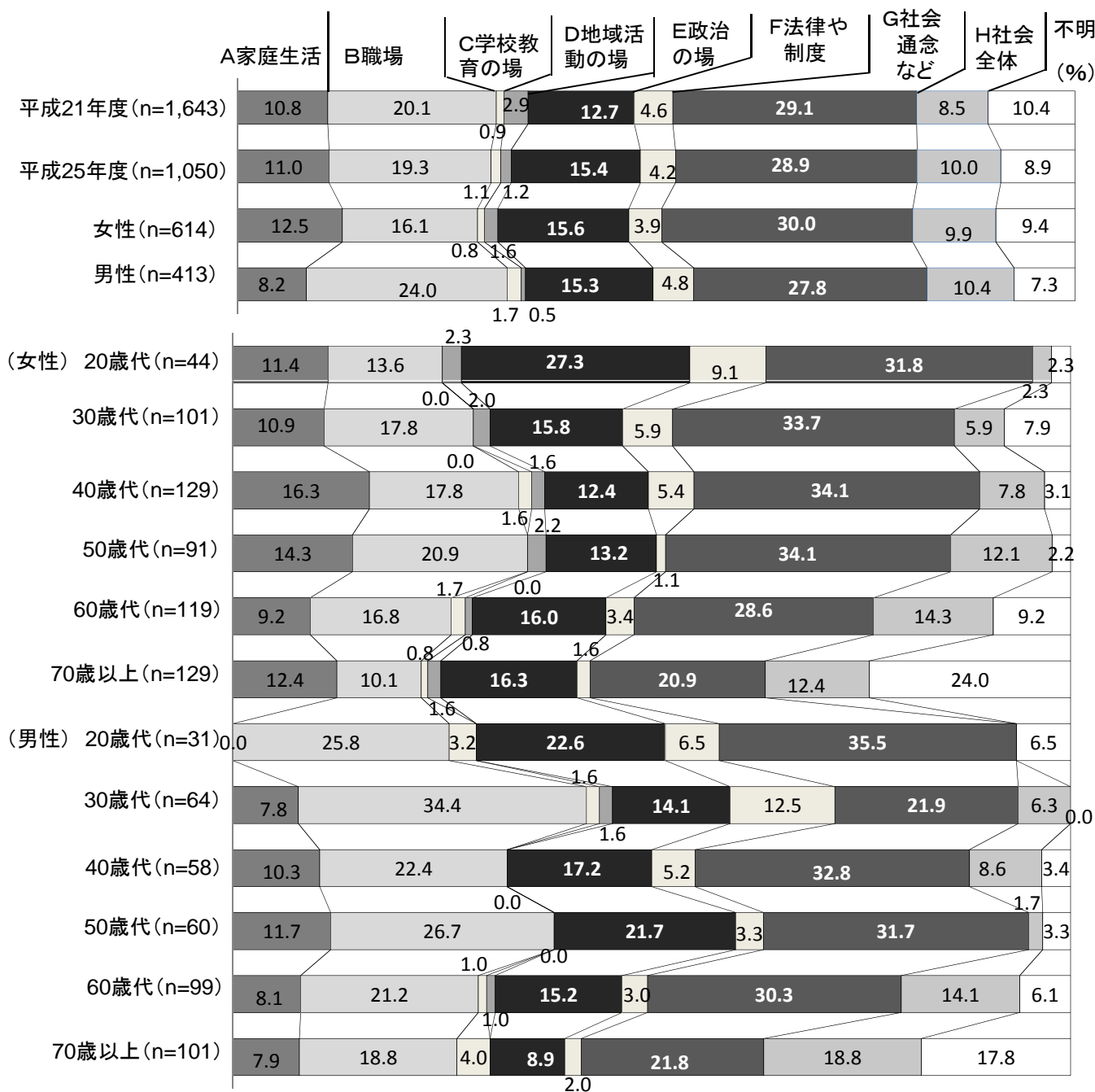


図2-2 男女の地位が最も不平等 【総数、性別、年齢別】

3 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと（複数回答）

- 「女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める」と回答した人の割合が54.8%と最も高く、前回調査と同様の結果となっている。
- 「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」を除いた項目について回答した人の割合は、前回調査よりも高くなっている。
- すべての年代において、「女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める」を回答した人の割合が高い。特に、40歳代で高くなっている。
- 「女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」については、他の年代に比べて70歳以上で低くなっている。
- 「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図る」については、他の年代に比べて20歳代で低くなっている。

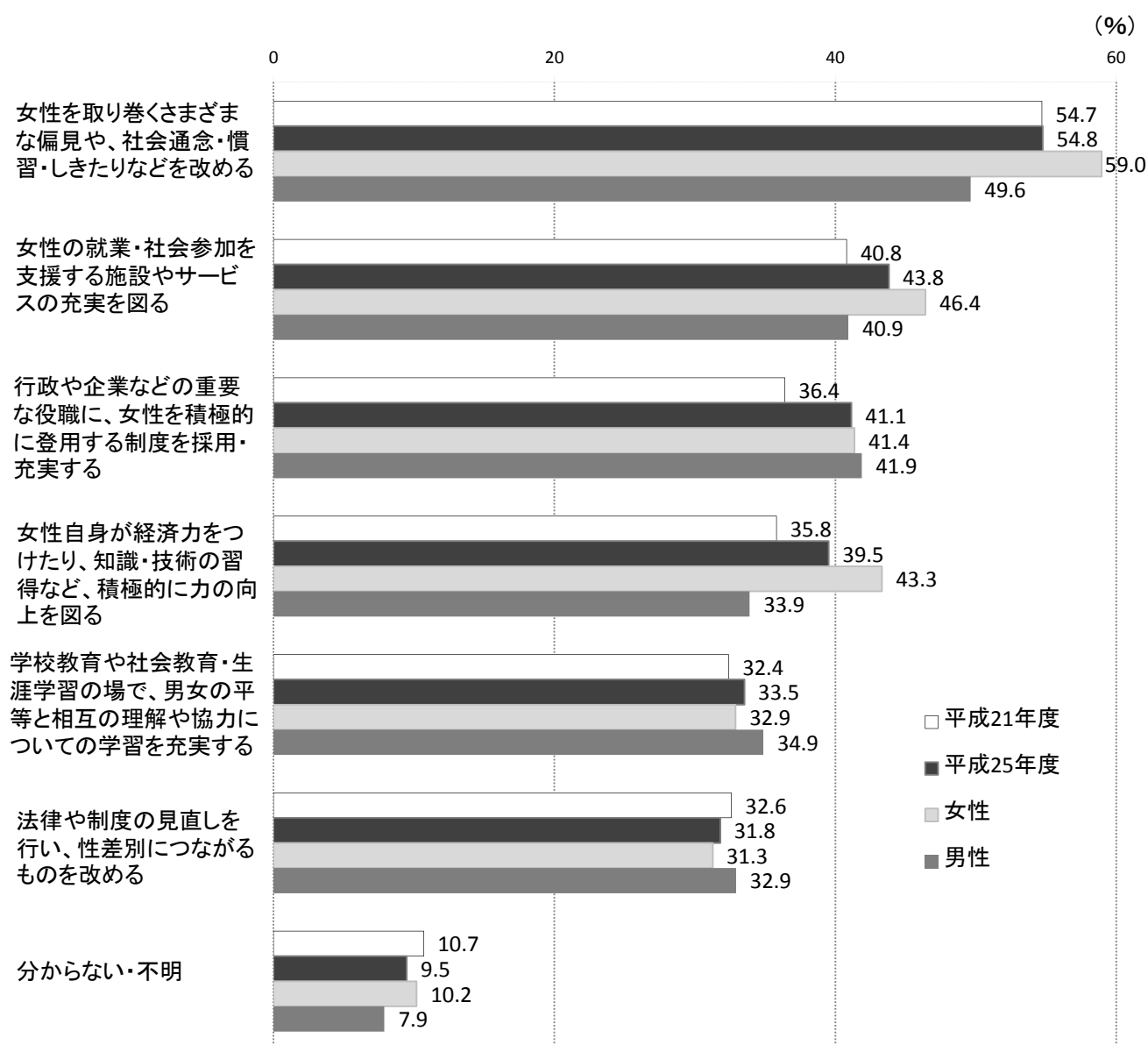


図3-1 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと
【総数、性別、年齢別】

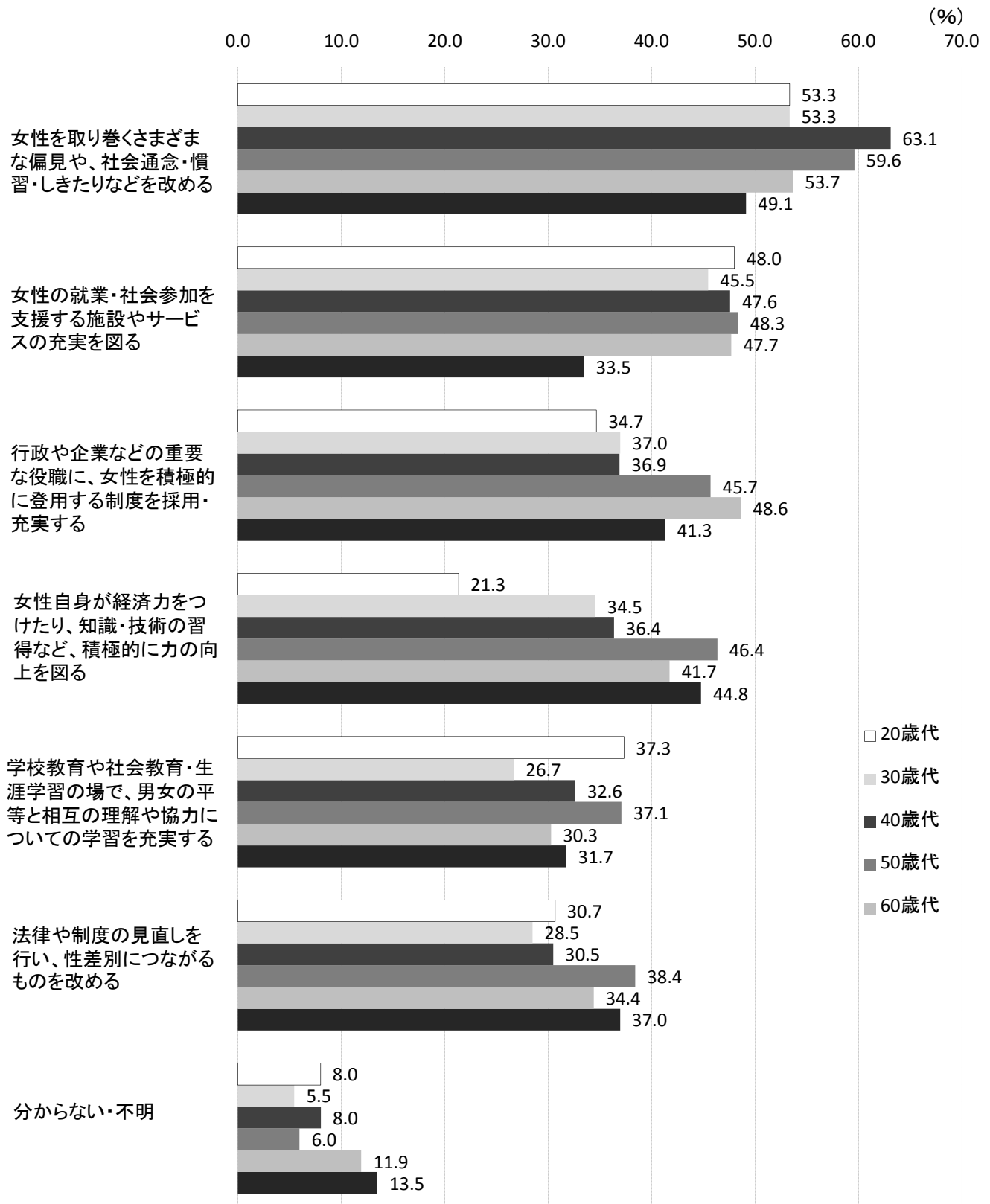


図3-2 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために必要なこと【年齢別】

結婚、家庭・地域生活について

4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

【全体・性別】

- 「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」以下同じ）と回答した人の割合は48.7%、「反対」（「反対」＋「どちらかといえば反対」以下同じ）と回答した人の割合は37.8%となっており、賛成が上回っている。
- 女性は「賛成」「反対」がほぼ同数の割合。男性は、「賛成」の割合が高く、女性より16.2ポイント高い。

【性別×年齢別】

- 女性は、60歳以上を除き、「反対」が「賛成」を上回っている。
- 男性は、若い世代ほど「賛成」と回答した割合が低い。
- 30歳代男性は、「反対」が「賛成」を上回っている。

【既婚・未婚別】

- 既婚者では、「賛成」と回答した人（50.8%）の割合が「反対」と回答した人（37.4%）の割合を上回っている。
- 未婚者では、「反対」と回答した人（41.5%）の割合が「賛成」と回答した人（33.9%）の割合を上回っている。
- 未婚者では、「分からない・無回答」の割合が高くなっている。

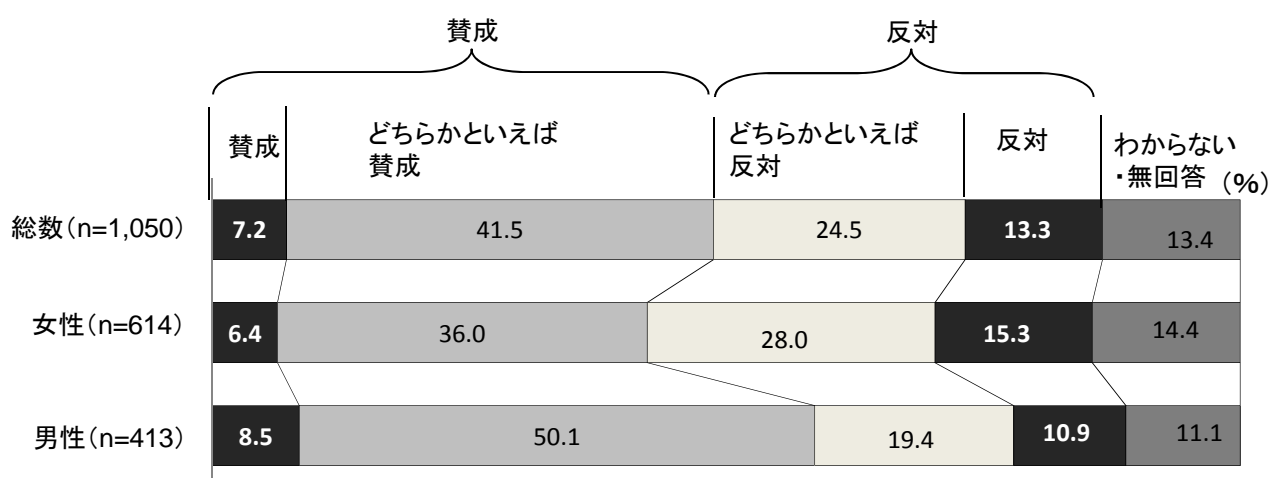


図4-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方
【総数、性別】

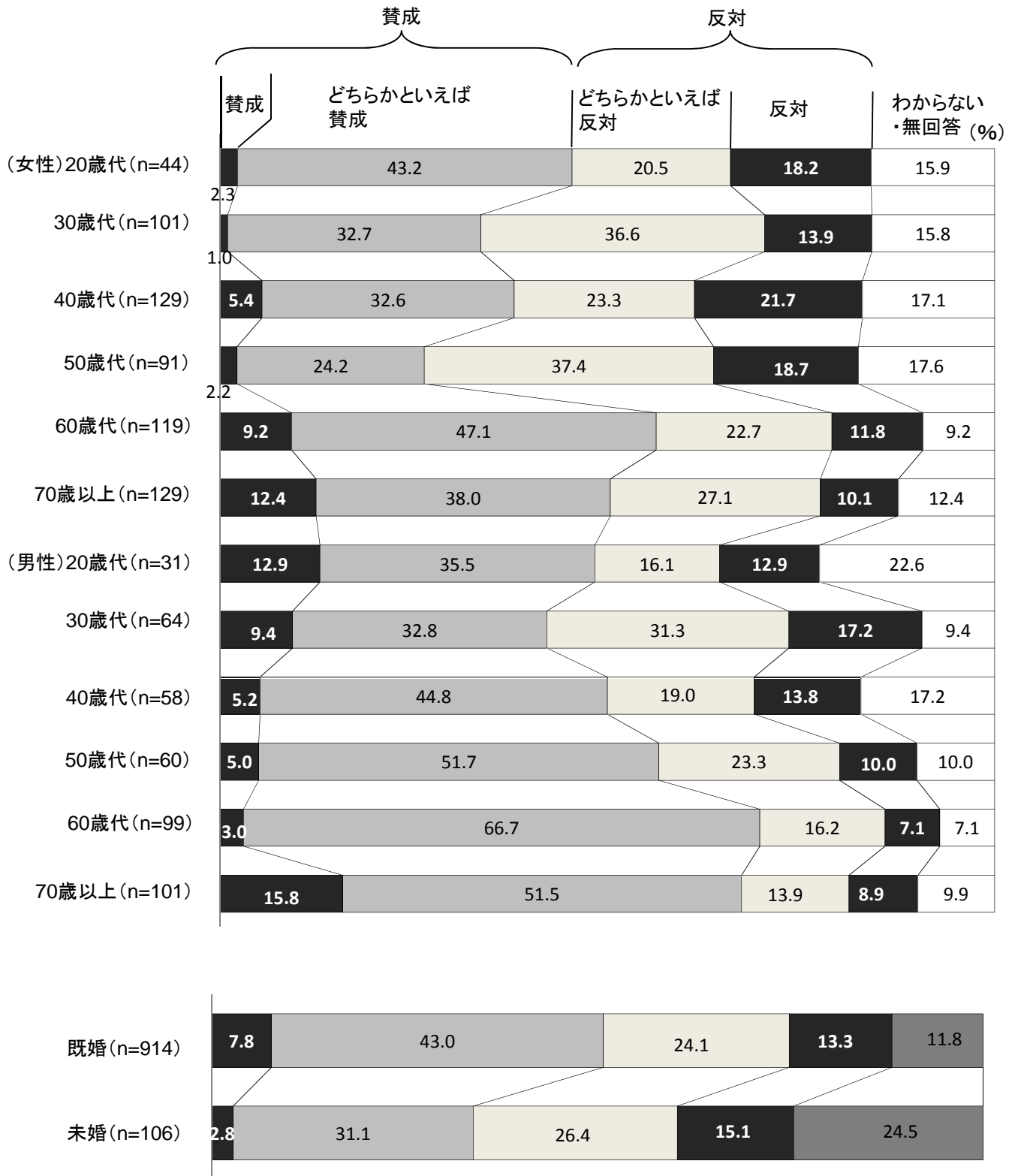


図4-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方
【年齢別、既婚・未婚別】

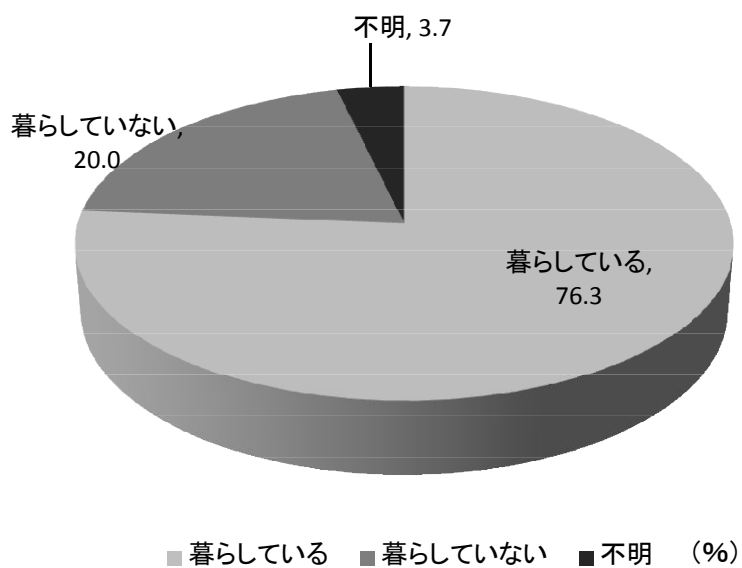
【他調査との比較】

- 前回調査とほぼ同様の結果となっているが、若干「賛成」が減少し、「反対」が増加している。

	賛成		反対		わからない ・無回答 (%)
	賛成	どちらかといえば 賛成	どちらかといえば 反対	反対	
平成25年度 (n=1,050)	7.2	41.5	24.5	13.3	13.4
平成21年度 (n=1,643)	10.5	41.8	23.1	12.8	11.9
全国調査 (n=3,033)	12.9	38.7	27.9	17.2	3.3
愛知県調査 (n=2,124)	8.3	39.7	25.2	14.8	12.0

図4-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方
【他調査との比較】

5 現在、配偶者（またはパートナー）と暮らしていますか



6 家庭における家事分担

- 配偶者（またはパートナー）と暮らしている人に聞いたところ、8つの項目について、「妻」と回答した人の割合は、「食事のしたく」（88.4%）が最も高く、ついで「洗濯」（80.3%）、「食事の後片付け、食器洗い」（70.8%）の順に高くなっている。
- 「子育て」については、「妻」「夫婦」が同程度の割合となっている。
- 「夫」が最も低いのは、「子育て」（0.2%）で、「家計の管理」を除くすべての項目で10%未満となっている。
- 「買い物」については、「夫婦」（34.2%）の割合がやや高い。

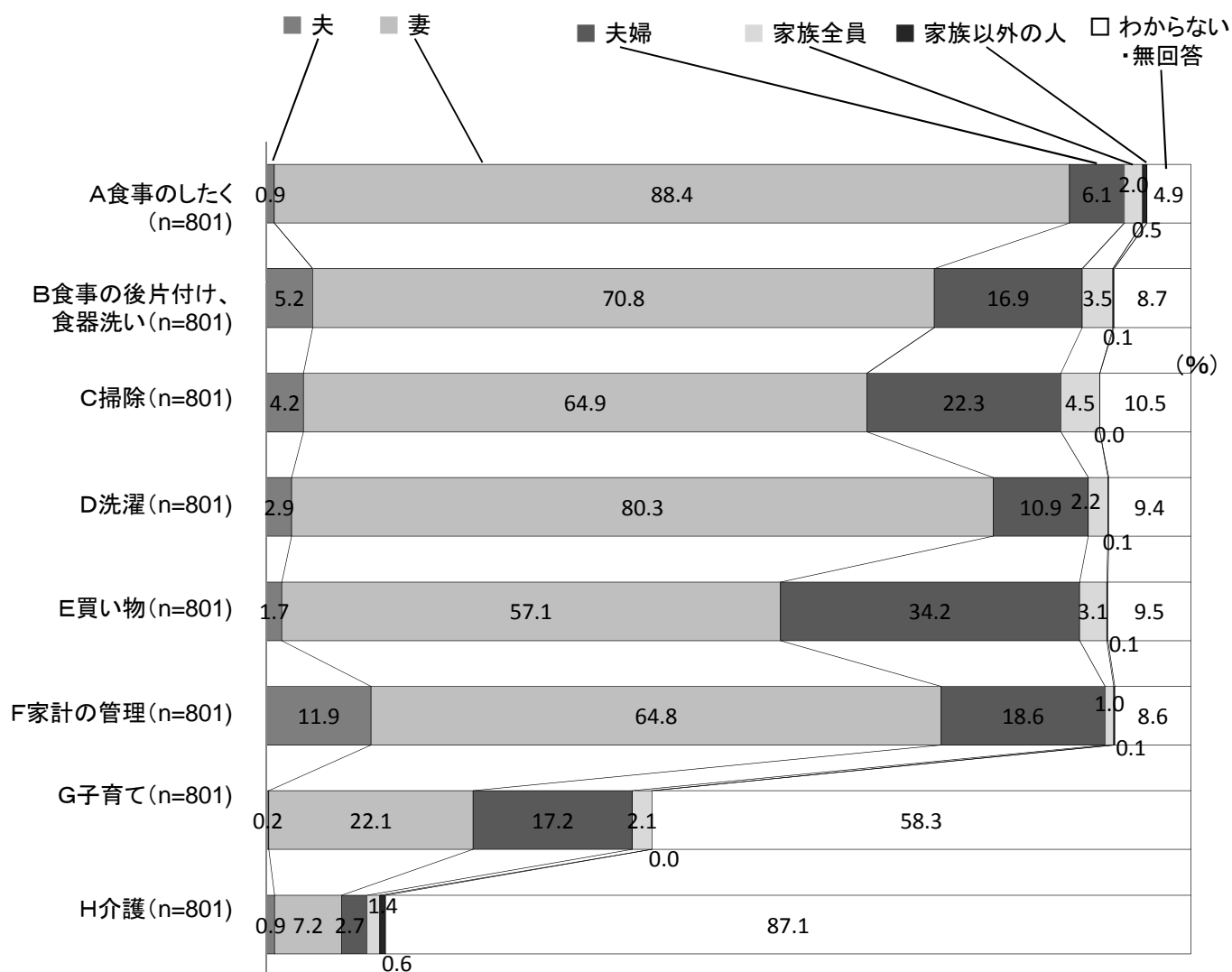


図6-1 家庭における家事分担 【項目別】

6 家庭における家事分担 【A 食事のしたく】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が88.4%と高くなっている。前回調査と比べて若干増加している。
- 「夫婦」と回答した人の割合は、6.1%で前回調査より低くなっている。また、「夫」と回答した人の割合は、0.9%で、前回より減少している。

【性別×年齢別】

- 男女ともすべての年代で「妻」と回答した人の割合が高く、年代による大きな差異はみられない。

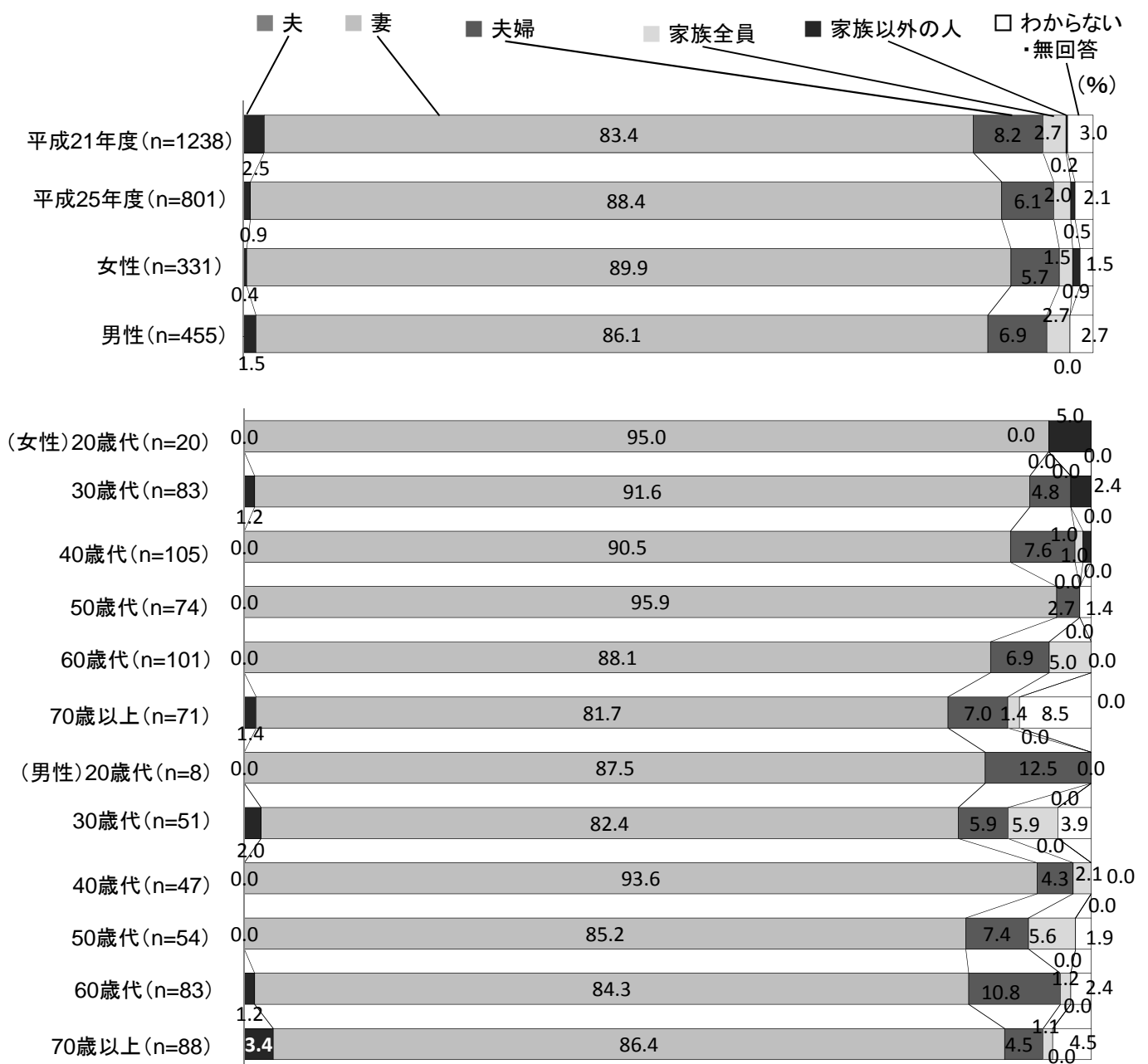


図6-2 家庭における家事分担 (A 食事のしたく) 【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【B 食事の後片付け、食器洗い】

【全体・性別】

- 男女とも「妻」と回答した人の割合が最も高くなっている。
- 男性は、「夫婦」と回答した人の割合が比較的高い。
- 前回調査との大きな差異はみられない。

【性別×年齢別】

- 男性の20歳代を除くすべての年代で「妻」が最も高くなっている。
- 20歳代男性は、「夫婦」と回答した人の割合が最も高い。
- 「妻」と回答した人の割合は、20歳代男性を除き、すべての年代で女性が高い。
- 「夫婦」と回答した人の割合は、すべての年代で男性が高くなっている。

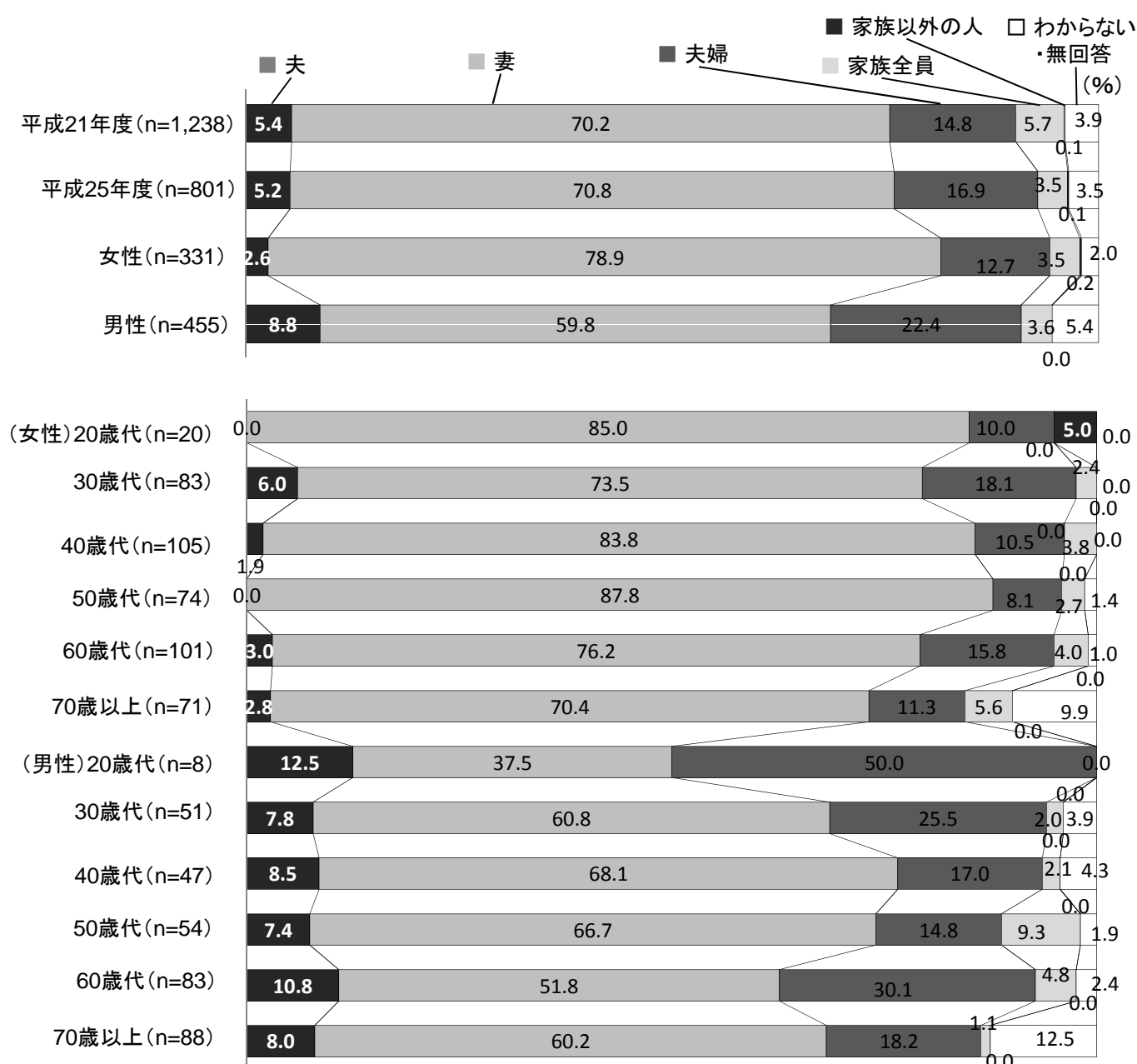


図6-3 家庭における家事分担 (B 食事の後片付け、食器洗い)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【C 掃除】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が64.9%と高くなっている。前回調査とほぼ同様の結果となっている。
- 男女ともに「妻」が最も高く、女性は71.6%、男性は55.3%である。
- 男性は「夫婦」と回答した人の割合が26.3%で比較的高い。
- 「妻」と回答した人の割合は男性より女性が高く、「夫婦」と回答した人の割合は女性より男性が高い。

【性別×年齢別】

- すべての年代において、「妻」と回答した人の割合が最も高い。
- 男女ともに20歳代は、「夫婦」と回答した人の割合が比較的高い。

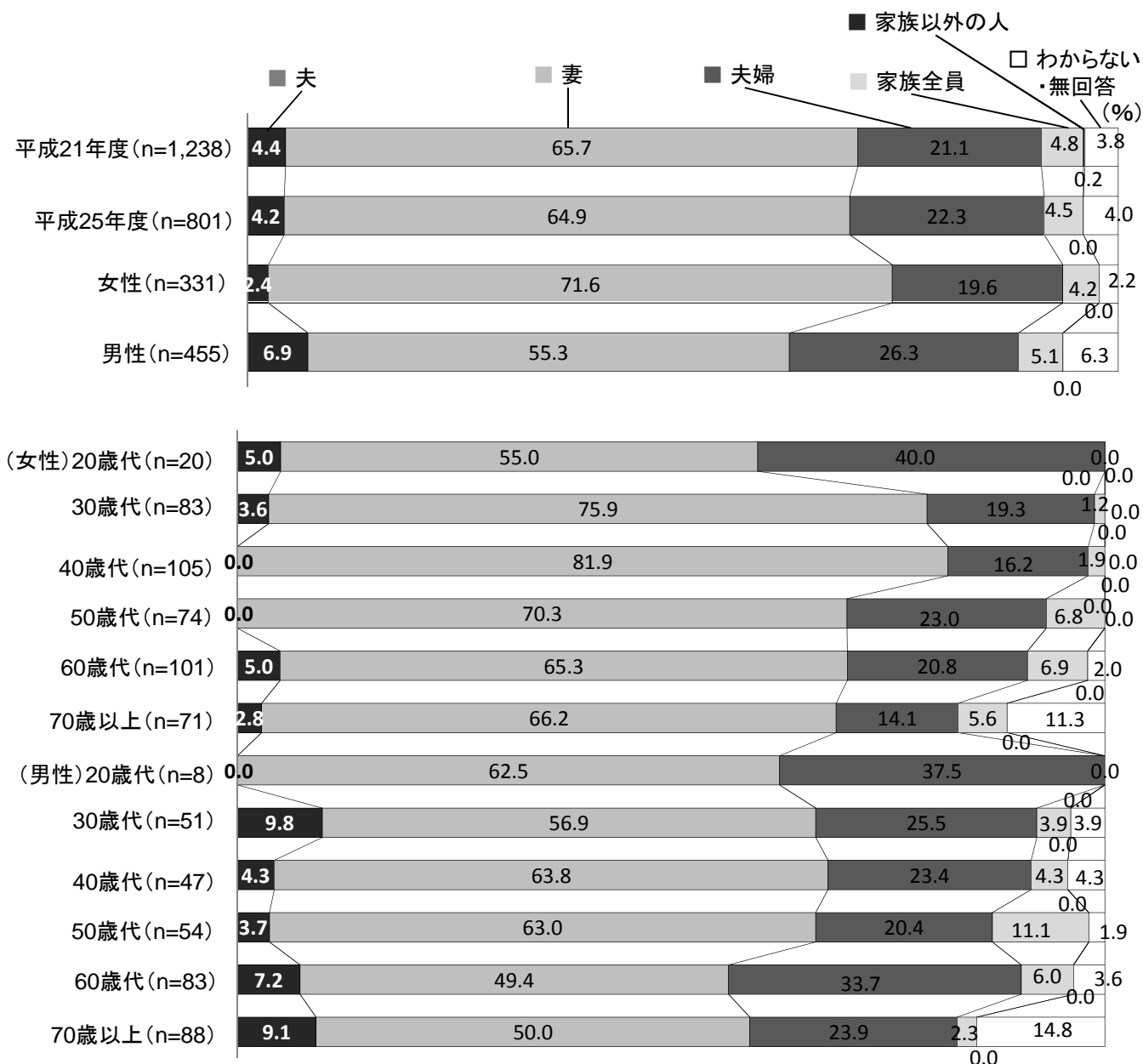


図6-4 家庭における家事分担 (C 掃除)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【D 洗濯】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が80.3%と高くなっている。「夫婦」と回答した人の割合は、10.9%で、「夫」と回答した人の割合は、2.9%と低くなっている。前回調査との大きな差異はない。
- 男女とも「妻」（女性85.5%、男性72.8%）と回答した人の割合が最も高い。

【性別×年齢別】

- すべての年代において、「妻」と回答した人の割合が最も高い。
- 20歳・30歳・40歳代の男性は、「夫婦」と回答した人の割合が比較的高い。

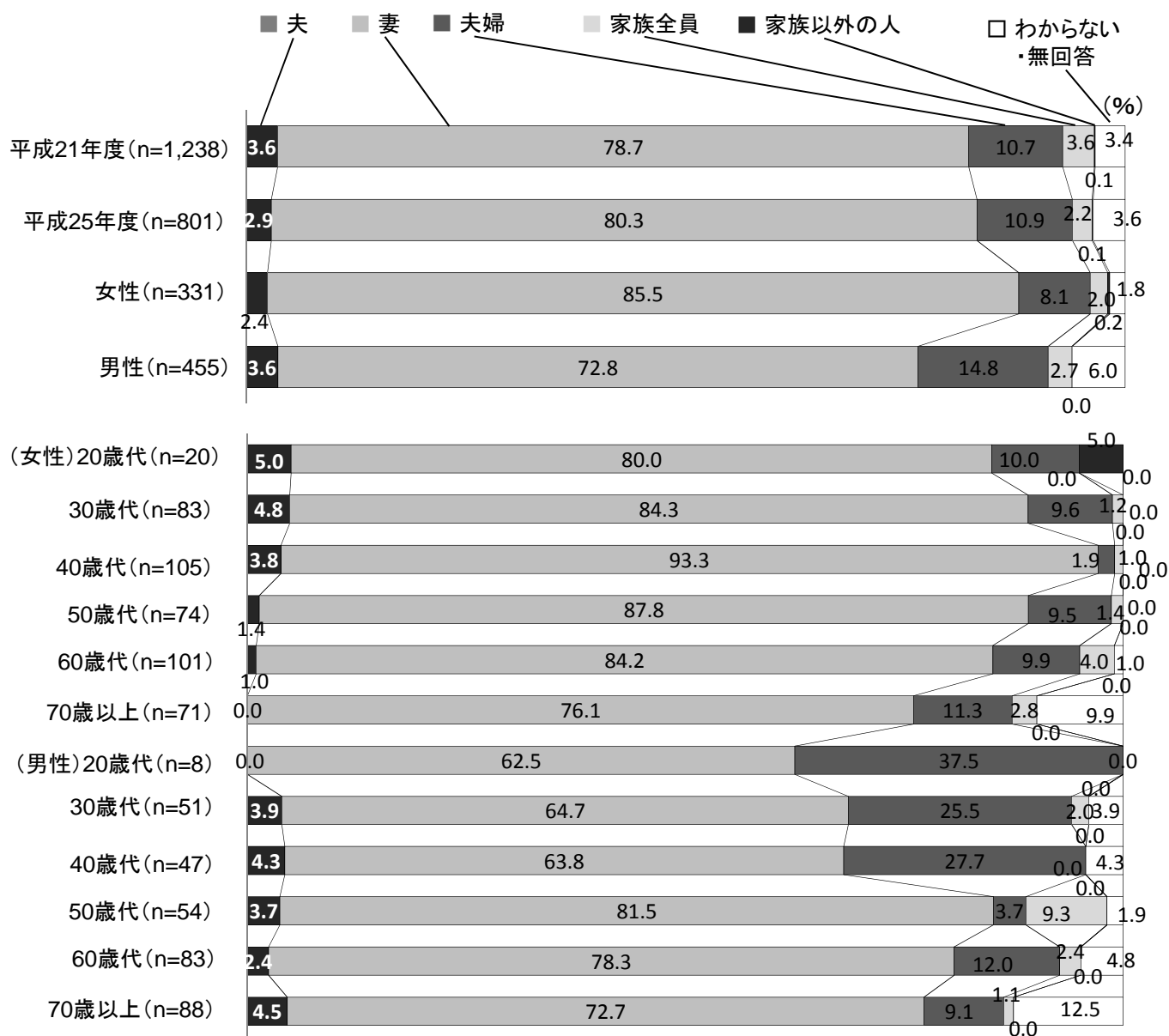


図6-5 家庭における家事分担 (D 洗濯)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【E 買い物】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が57.1%と高くなっている。「夫婦」と回答した人の割合は、34.2%で、「夫」と回答した人の割合は、1.7%と低くなっている。前回調査との大きな差異はない。
- 男女とも「妻」（女性64.4%、男性46.8%）と回答した人の割合が最も高い。
- 男性は、「夫婦」と回答した人の割合が40.5%と比較的高く、女性より高くなっている。

【性別×年齢別】

- 女性は、すべての年代において、「妻」と回答した人の割合が最も高い。一方、「夫婦」と回答した割合が高い年代ほど高くなる傾向である。
- 男性は、すべての年代において「夫婦」と回答した人の割合が比較的高い。
- 20歳・30歳代男性は、「夫婦」が「妻」を上回っている。

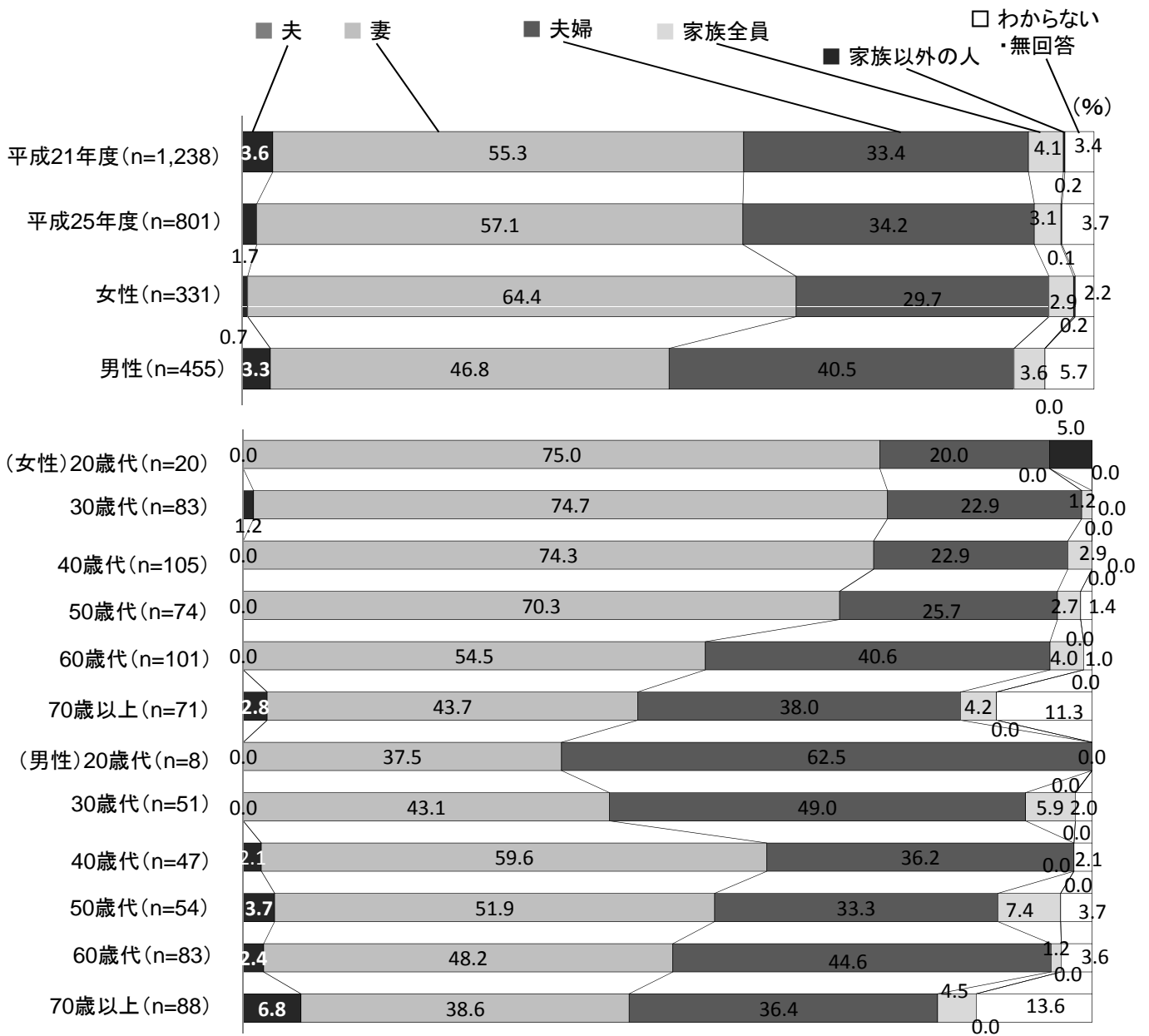


図6-6 家庭における家事分担 (E 買い物)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【F 家計の管理】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が64.8%と高くなっている。また、「夫婦」と回答した人の割合は、18.6%で、「夫」と回答した人の割合は、11.9%と低くなっている。前回調査との大きな差異はない。
- 男女とも「妻」（女性65.9%、男性62.8%）と回答した人の割合が最も高い。
- 性別による大きな差異はない。

【性別×年齢別】

- 20歳代男性を除くすべての年代において、「妻」と回答した人の割合が最も高い。

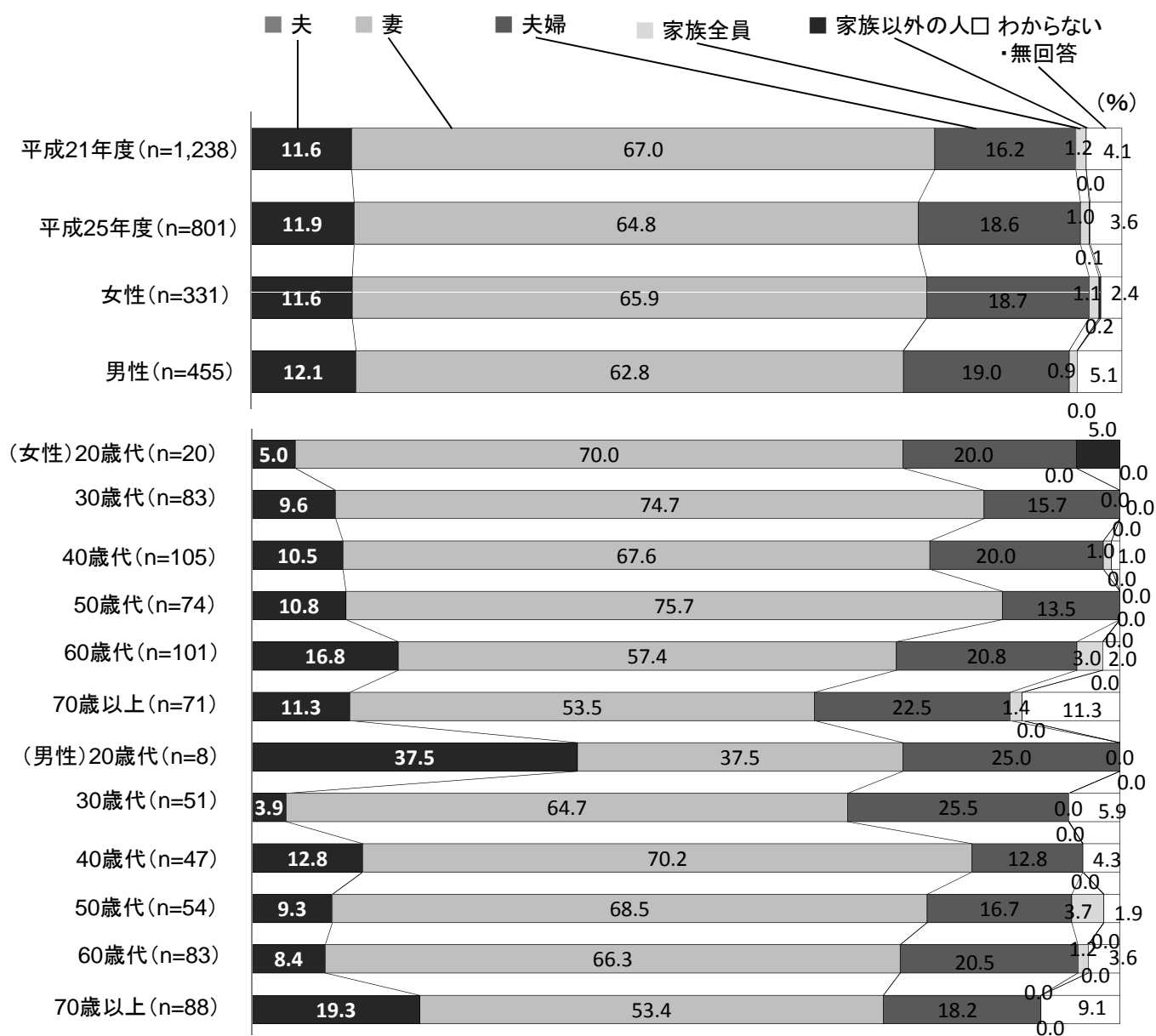


図6-7 家庭における家事分担 (F 家計の管理)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【G 子育て（子どもの世話・教育など）】

【全体・性別】

- 未婚の子どもがいる人のうち、「妻」と回答した人の割合が31.1%と高くなっている。「夫婦」と回答した人の割合は、24.2%で、「夫」と回答した人の割合は、0.4%と低くなっている。
- 男女とも「妻」（女性35.7%、男性24.4%）と回答した人の割合が高いが、「夫婦」と回答した人の割合も比較的高い。

【性別×年齢別】

- 20歳代は、「夫婦」と回答した人の割合が高くなっている。また、30歳代男性は、「夫婦」と回答した人の割合が「妻」を上回っている。

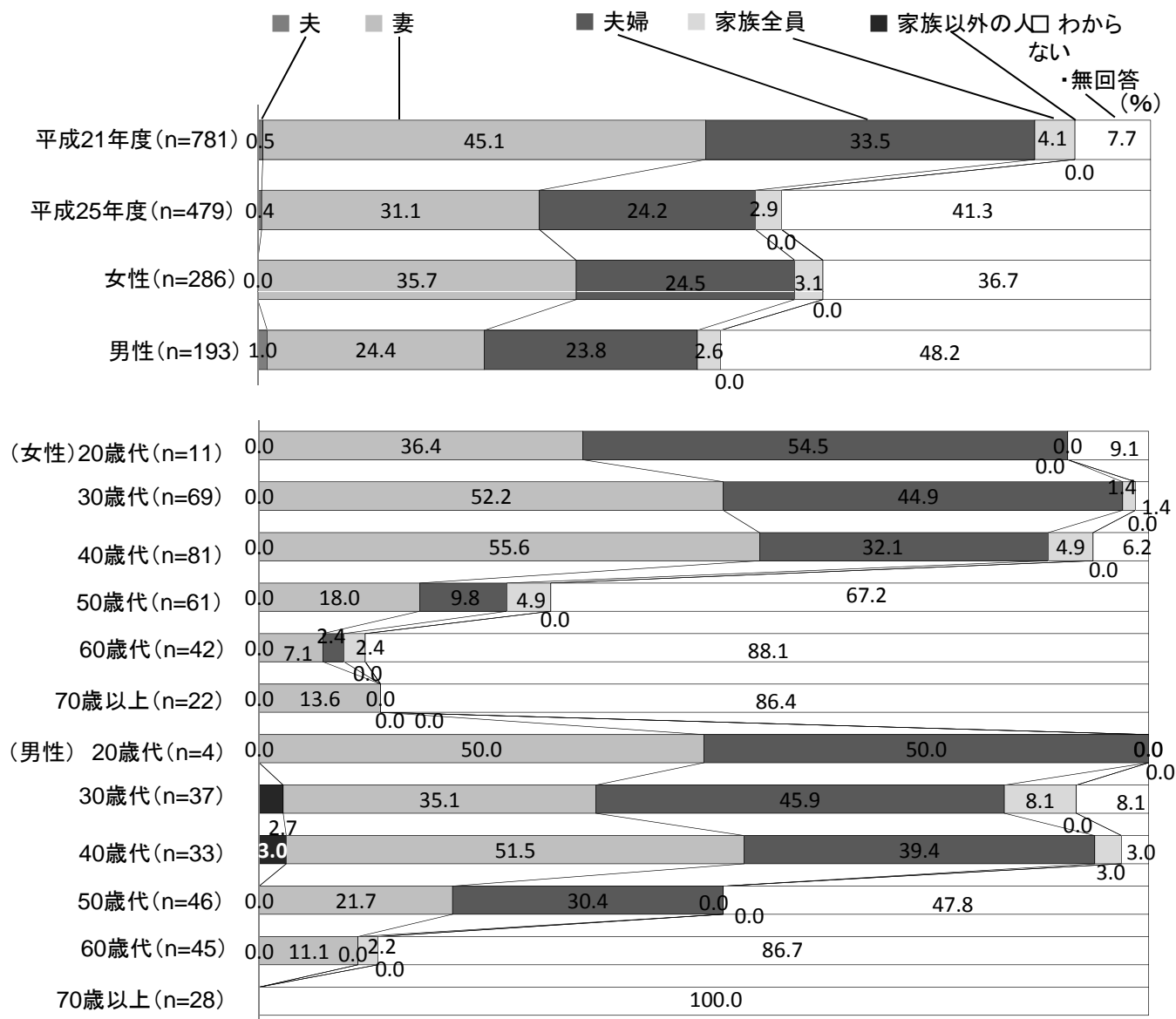


図6-8 家庭における家事分担 (G 子育て)
【総数、性別、年齢別】

6 家庭における家事分担 【H 介護（介護が必要な親・病人の介護など）】

【全体・性別】

- 「妻」と回答した人の割合が7.2 %で最も高い。「夫婦」と回答した人の割合は、2.7%で、「夫」と回答した人の割合は、0.9%と低くなっている。
- 「妻」と回答した人の割合は男性より女性の方が高い。「夫婦」と回答した人の割合は男女で差異はない。

【性別×年齢別】

- 60歳代男性を除き、男女ともすべての年代で、「妻」と回答した人の割合が最も高い。
- 50歳代女性は、「夫婦」と回答した人の割合が比較的高い。

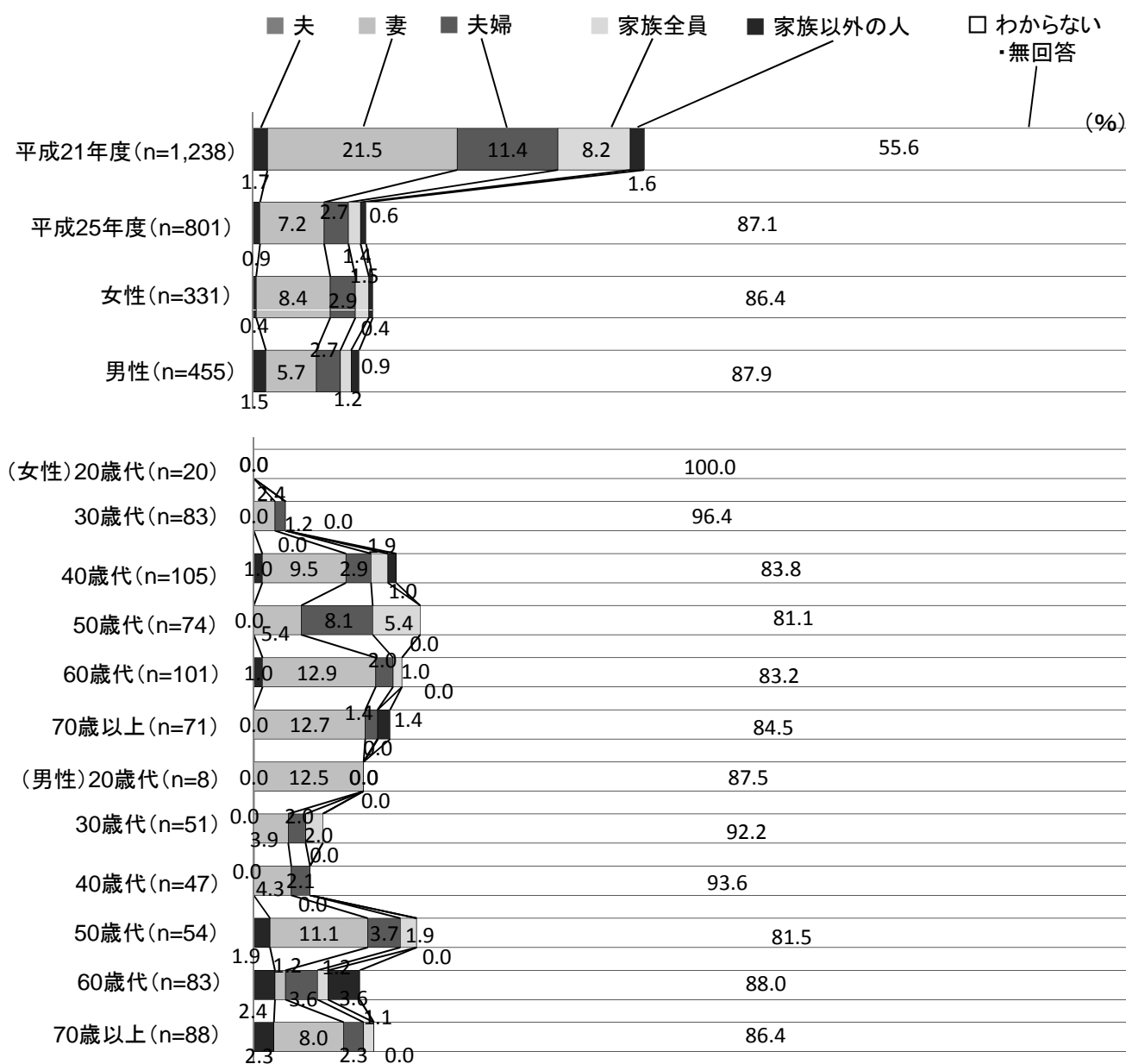


図6-9 家庭における家事分担（H 介護）
【総数、性別、年齢別】

7 子育て経験の中での悩みごと

【全体・性別】

- 「子育てで出費がかさむ」と回答した人の割合が、54.0%で最も高く、ついで「自分の自由な時間が持てない」(46.3%)、「子どもの教育に不安がある」(37.0%)の順となっている。
- ほとんどの項目で男性より女性が高く、特に「自分の自由な時間が持てない」と回答した割合は、58.9%で大幅に高く突出している。
- 男性は、「子育てで出費がかさむ」と回答した人の割合が50.4%で最も高く、ついで「子どもとの時間が十分にとれない」(32.2%)と回答した人の割合が多く、女性より上回っている。

【年齢別】

- 60歳代をのぞきすべての年代で「子育てで出費がかさむ」と回答した人の割合が最も高い。

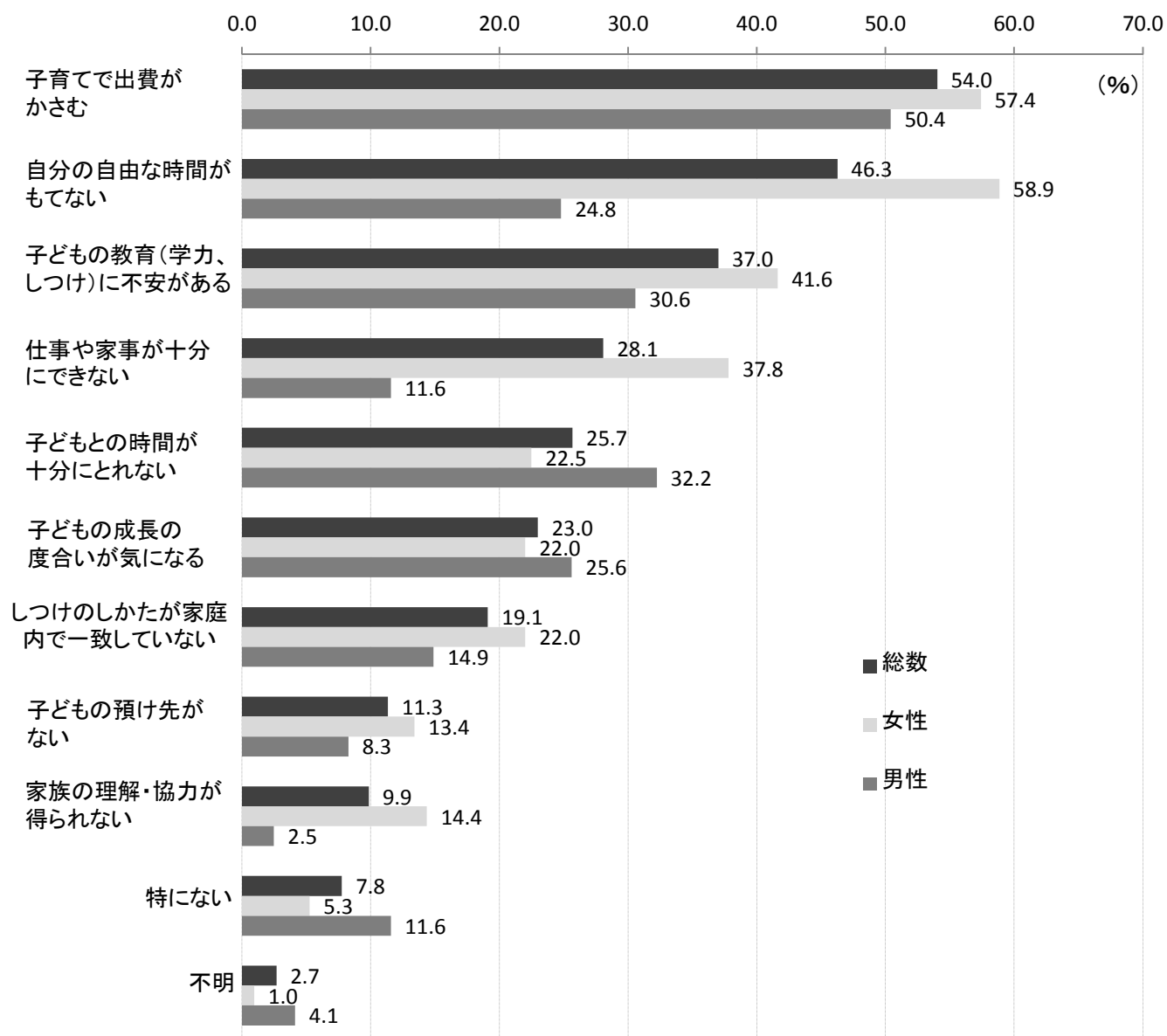


図7-1 子育て経験の中での悩みごと 【総数、性別】

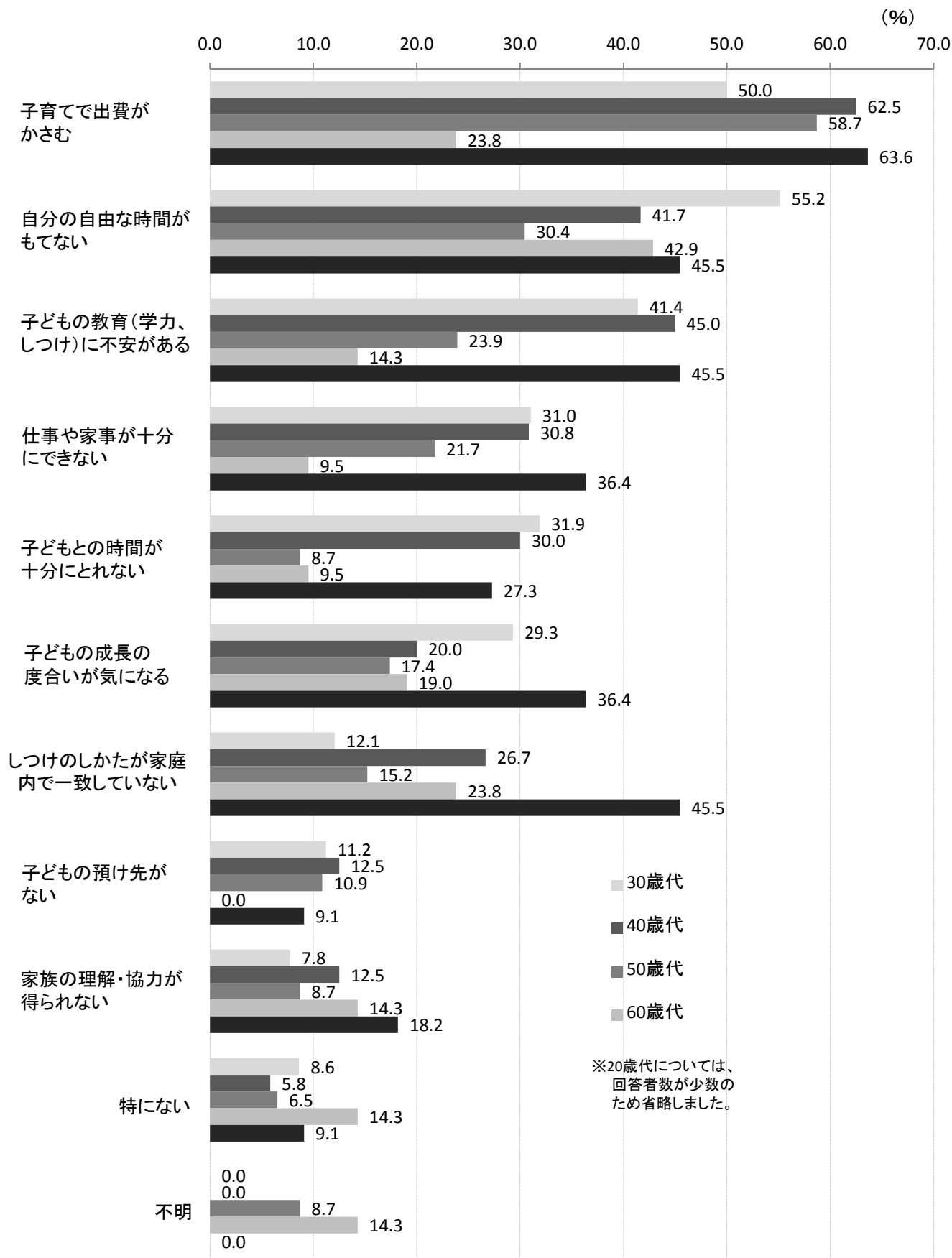


図7-2 子育て経験の中での悩みごと【年齢別】

8 介護経験の中での悩みごと

【全体・性別】

- 「ストレスや精神的負担が大きい」と回答した人の割合が、44.2%で最も高く、ついで「家を留守にできない、自由に行動できない」（40.3%）、「肉体的負担が大きい」（27.1%）の順となっている。
- ほとんどの項目で男性より女性が高く、上回っている。
- 「仕事に出られない、仕事を辞めなければならない」と回答した人の割合は、男性よりも女性の方が大幅に高くなっている。

【年齢別】

- すべての項目において年齢による差がみられる。
- 「ストレスや精神的負担が大きい」については、50歳代以上で高くなっており、年齢が若いほど低い。
- 他の年齢層に比べて70歳以上では、「肉体的負担が大きい」「経済的負担が大きい」「介護サービスについての情報が少ない」が高くなっている。

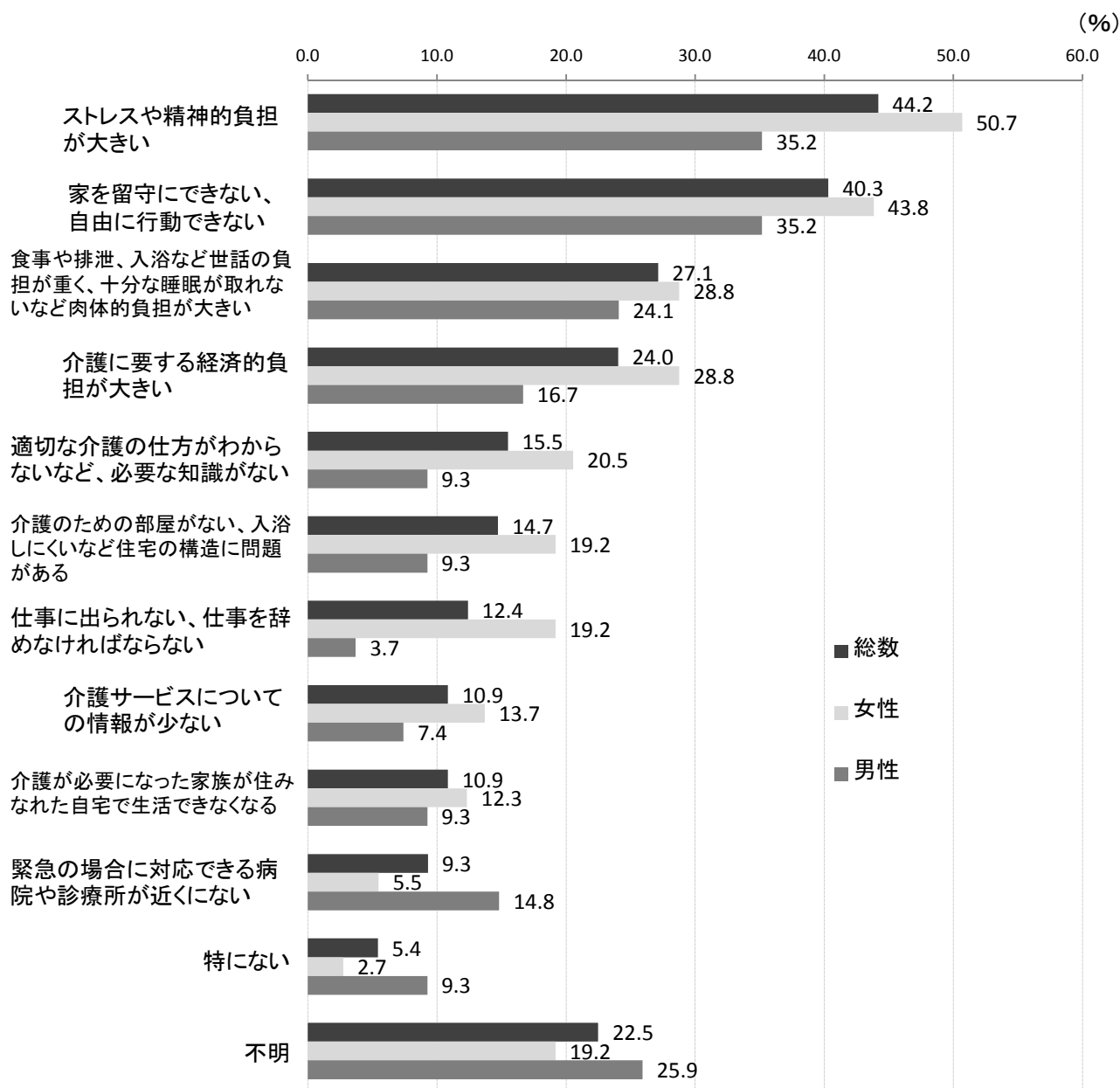


図8-1 介護経験の中での悩みごと 【総数、性別】

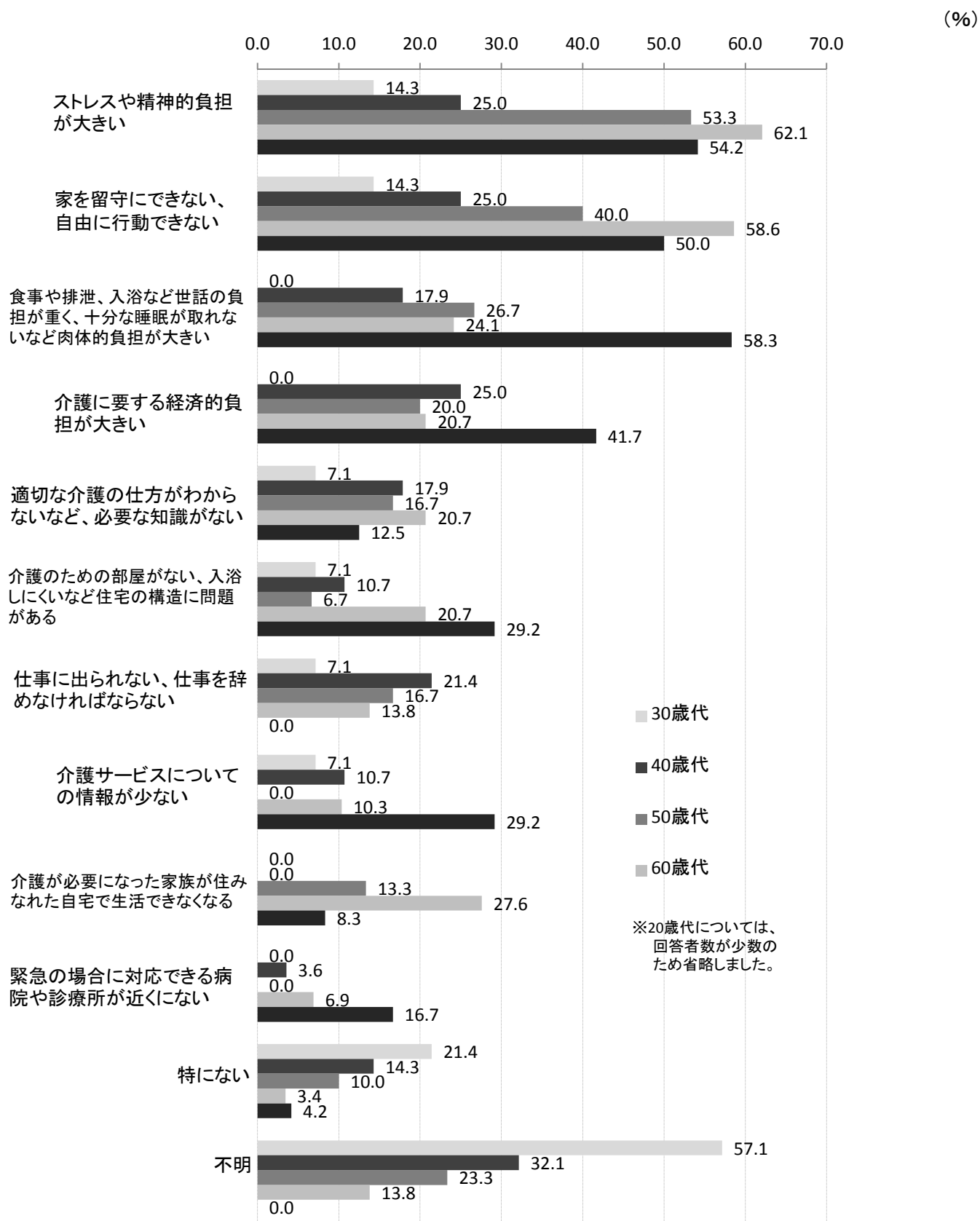


図8-2 介護経験の中での悩みごと 【年齢別】

9 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方

【全体・性別】

- 「家庭生活を優先している」と回答した人の割合が30.9%と最も高く、ついで「仕事と家庭生活をともに優先している」(24.9%)、「仕事を優先している」(12.8%)の順となっている。
- 女性は「家庭生活を優先している」(39.6%)、男性は「仕事と家庭生活をともに優先している」(29.3%)が最も高くなっている。
- 「家庭生活」は男性より女性が大幅に高くなっているのに対し、「仕事」は女性より男性の方が大幅に高くなっている。

【性別×年齢別】

- 女性はすべての年代において、「家庭生活を優先している」と回答した人の割合が最も高い。
- 40歳・50歳代男性は、「仕事を優先している」と回答した人の割合が高い。
- 70歳以上をのぞくすべての年代で男性は、「仕事と家庭生活をともに優先している」が高くなっている。

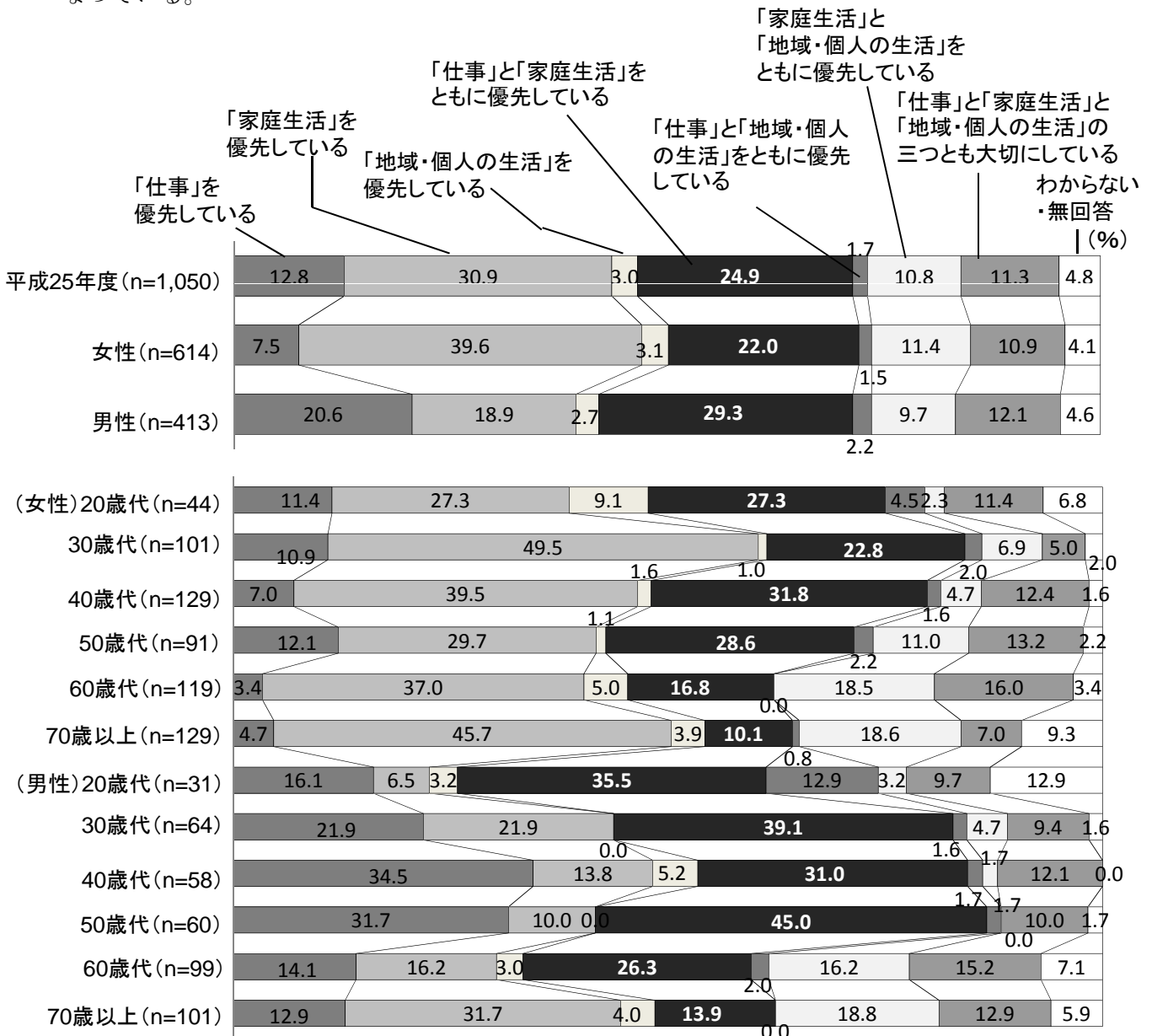


図9-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方
【総数、性別、年齢別】

【他調査との比較】

- 前回調査では、「仕事と家庭生活をともに優先している」が最も高かったが、今回は「家庭生活を優先している」が最も高くなっている。また、「仕事を優先している」の割合が減少している。
- 全国調査と比較すると、「仕事を優先している」「家庭生活を優先している」と回答した人の割合は、やや高くなっている。一方、「仕事と家庭をともに優先している」と回答した人の割合は低く、5.6ポイント差である。

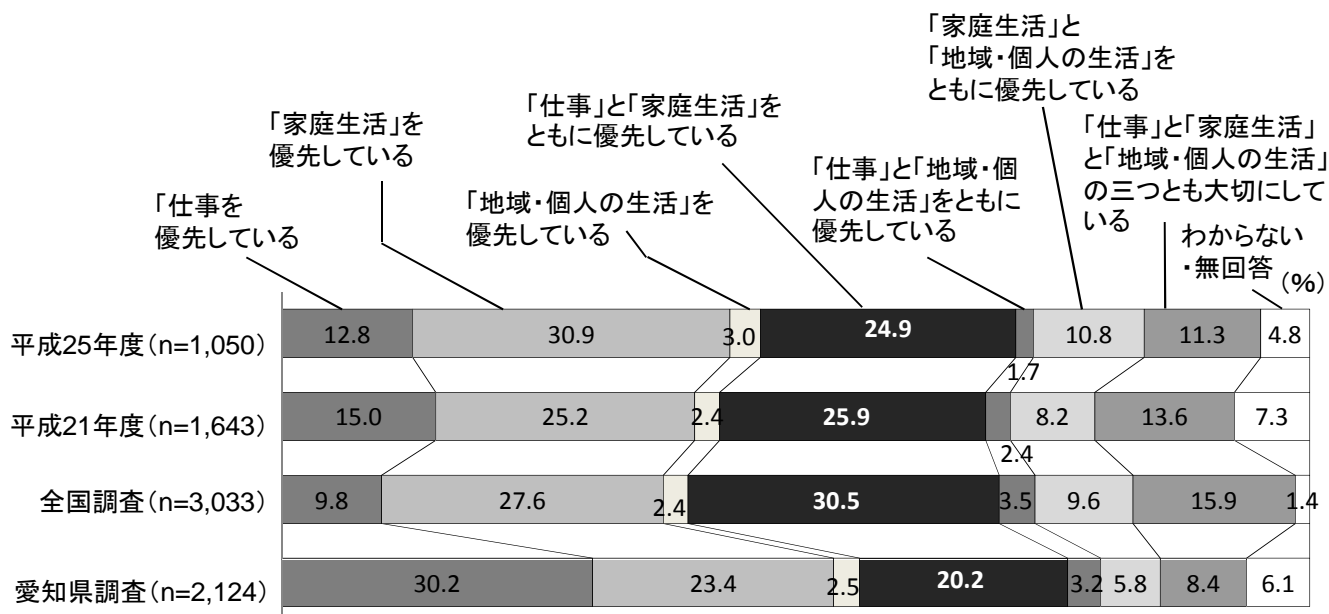


図9-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方
【他調査との比較】

10 地域活動への参加経験

【全体・性別】

- 「地域活動への参加経験がある」（「現在参加している」＋「かつて参加していたが現在は中止している」以下同じ）と回答した人の割合は58.0%で、前回調査より若干増加している。
- 「参加したことはない」と回答した人の割合は、女性（34.5%）より男性（46.0%）が上回っている。

【性別×年齢別】

- 40歳以上の世代において、「地域活動への参加経験がある」と回答した人の割合が高くなっている。
- 20歳代女性、30歳代男性は、「参加したことはない」と回答した人の割合が最も高い。
- 「現在参加している」と回答した人の割合について、女性は40歳代（41.1%）が最も高く、男性は60歳代（34.3%）が最も高い。

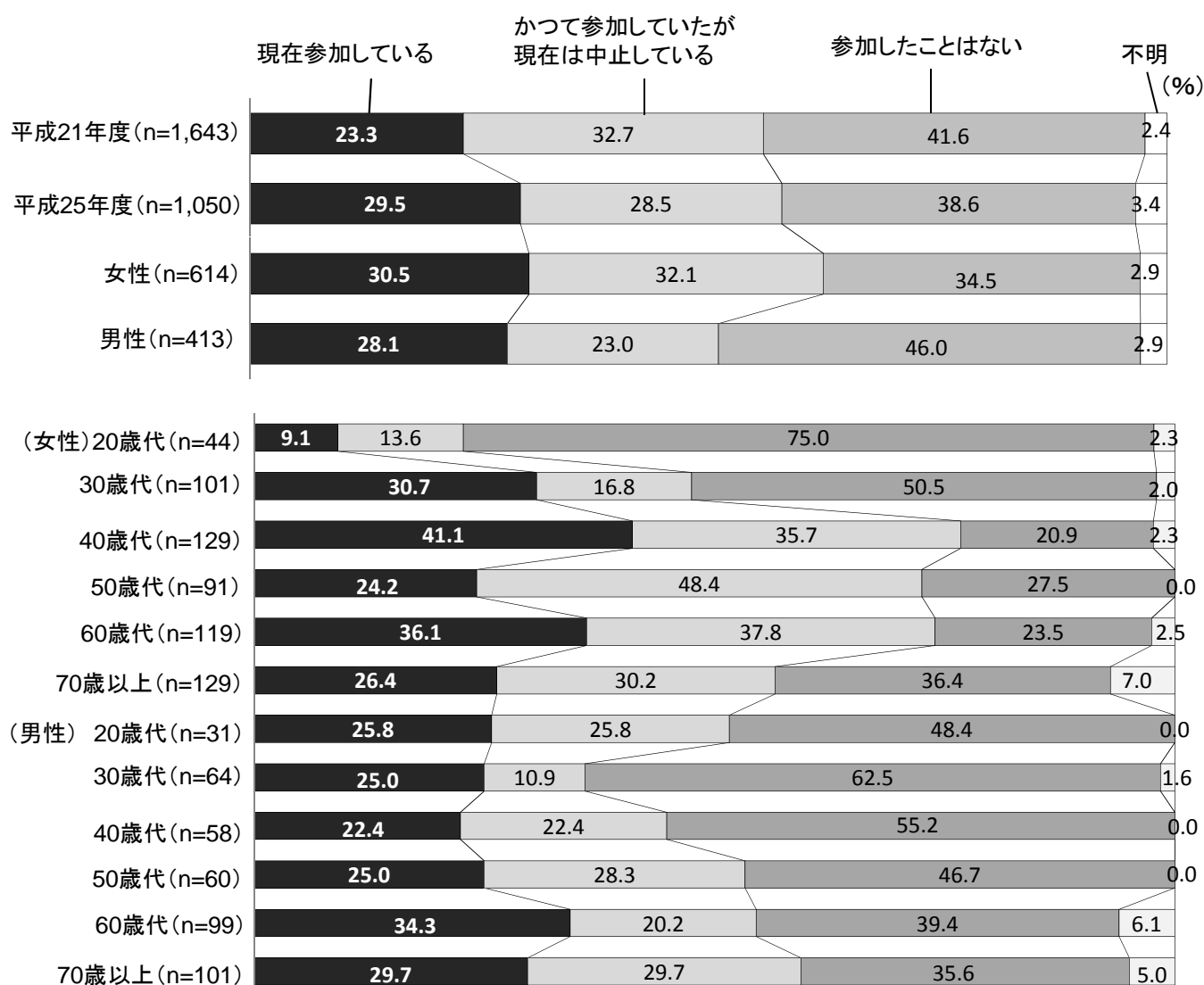


図10 仕事、家庭生活、地域・個人の生活への関わり方
【総数、性別、年齢別】

1-1 今後参加したい活動（複数回答）

【全体・性別】

- 「教養・趣味・スポーツのサークル」と回答した人の割合（38.0%）が最も高く、前回調査より減少している。
- 「教養・趣味・スポーツのサークル」を除く他の活動の割合は10%未満となっている。
- 「いずれも参加したくない」と回答した人の割合は24.8%で、前回調査より増加している。また、女性より男性の割合の方が高くなっている。

【性別×年齢別】

- 「教養・趣味・スポーツのサークル」と回答した人の割合は、20歳代で高く、70歳以上は低い。
- 「老人クラブなど高齢者の会」「町内会や自治会」と回答した人の割合は、70歳以上が最も高い。
- 「いずれも参加したくない」については、50歳代の割合が最も高い。

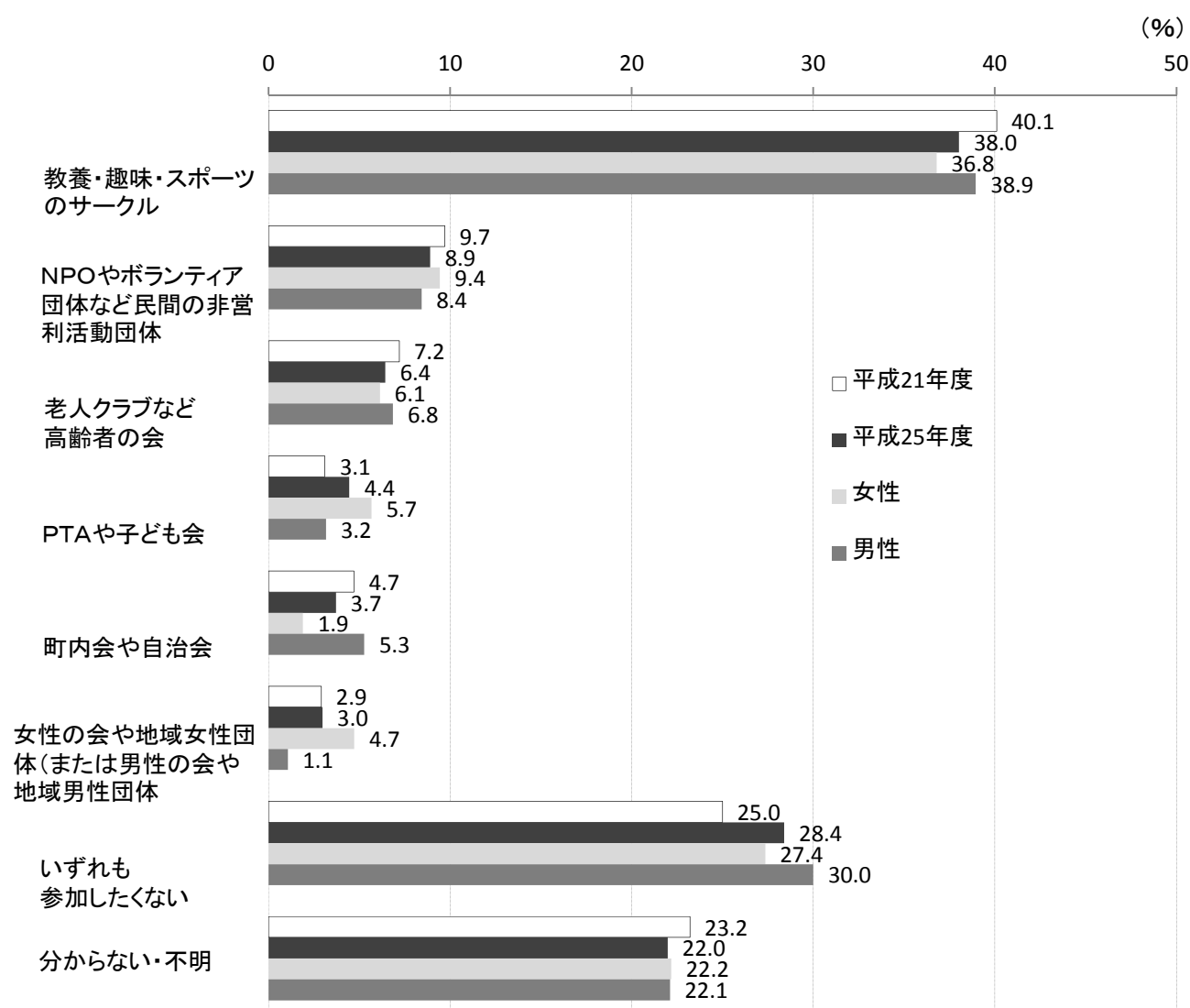


図1-1-1 今後参加したい活動 【総数、性別】

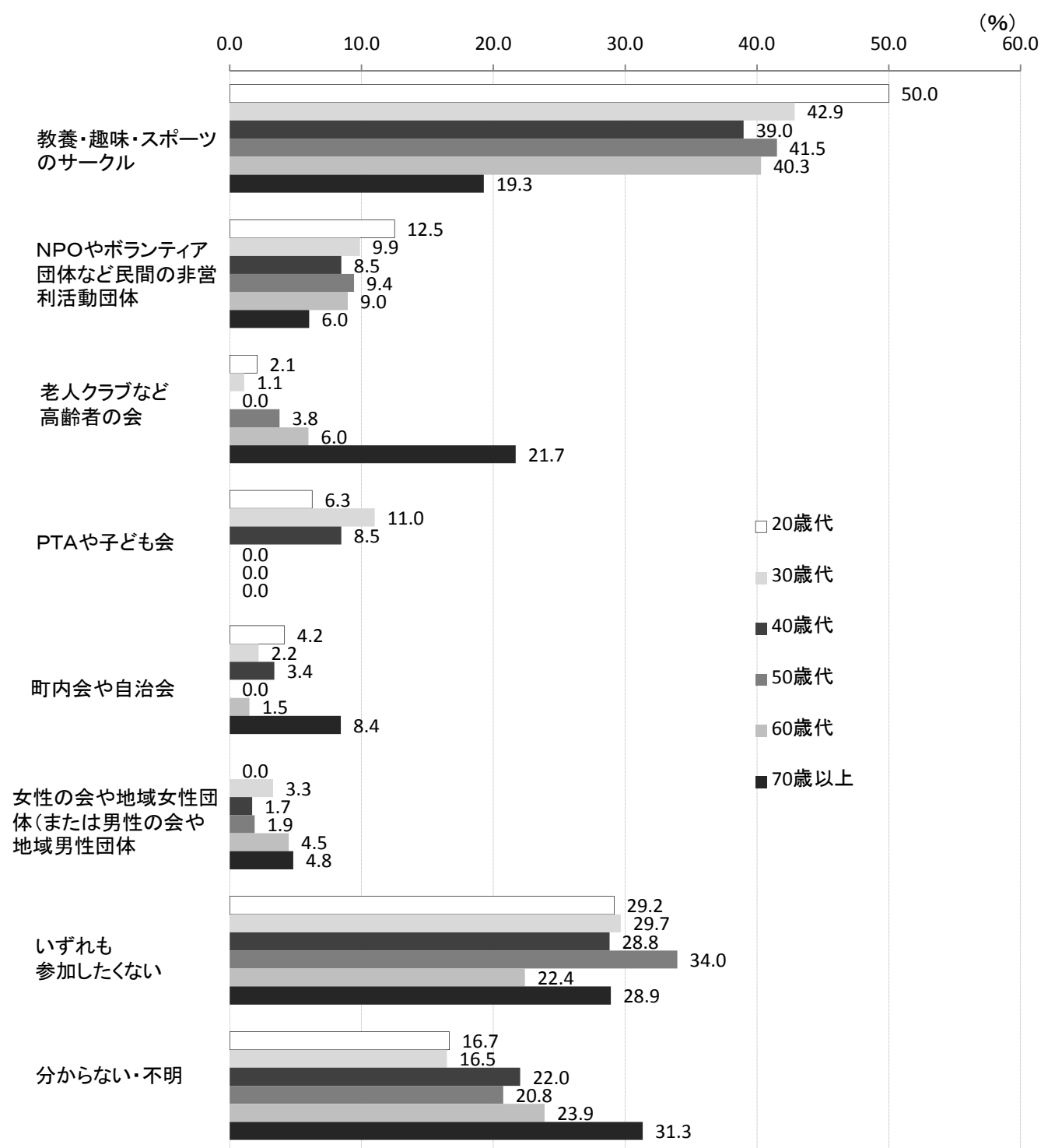


図11-2 今後参加したい活動 【年齢別】

12 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

【全体・性別】

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と回答した人の割合が59.4%と最も高く、ついで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(50.0%)となっている。前回調査と大きな差異はない。
- ほとんどの項目で、男性より女性の方が高くなっている。特に、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」では、男性より女性の方が大幅に上回っている。

【性別×年齢別】

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「労働時間短縮や休暇制度を普及させ、仕事以外の時間を多く持てるようにする」「社会の中で、男性による家事・子育て・介護・地域活動について評価を高める」と回答した人の割合は、20歳・30歳代が高くなっている。
- 「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」と回答した人の割合は、他の項目に比べ世代間において大きな差異はみられない。

【他調査との比較】

- 前回調査と比較すると大きな差異はない。
- 全国調査と比較すると、「周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する」「仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設ける」「男性が子育てや介護、地域活動を行う仲間づくりをすすめる」について、回答した人の割合は低い。

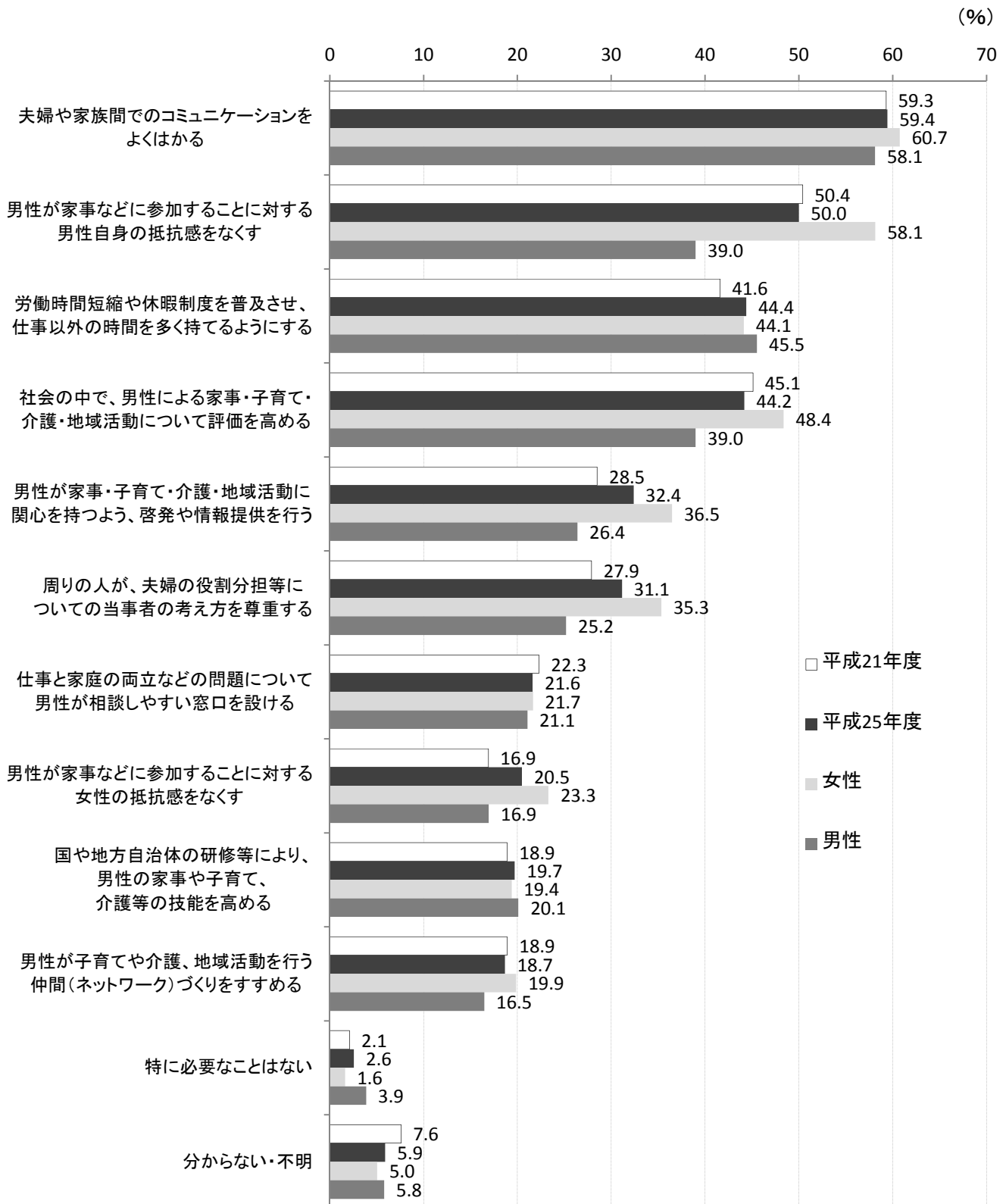


図12-1 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと 【総数、性別】

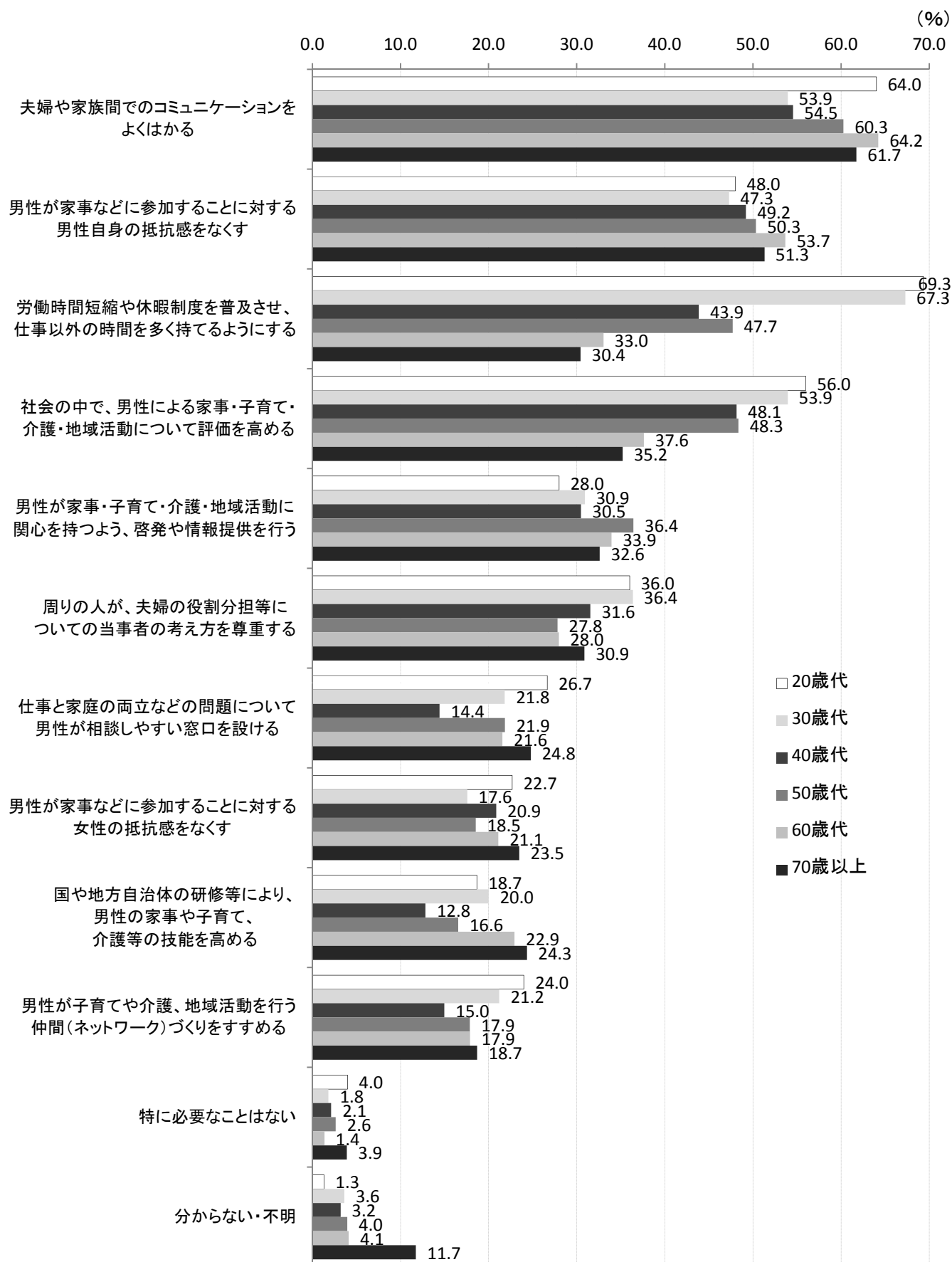


図12-2 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと 【年齢別】

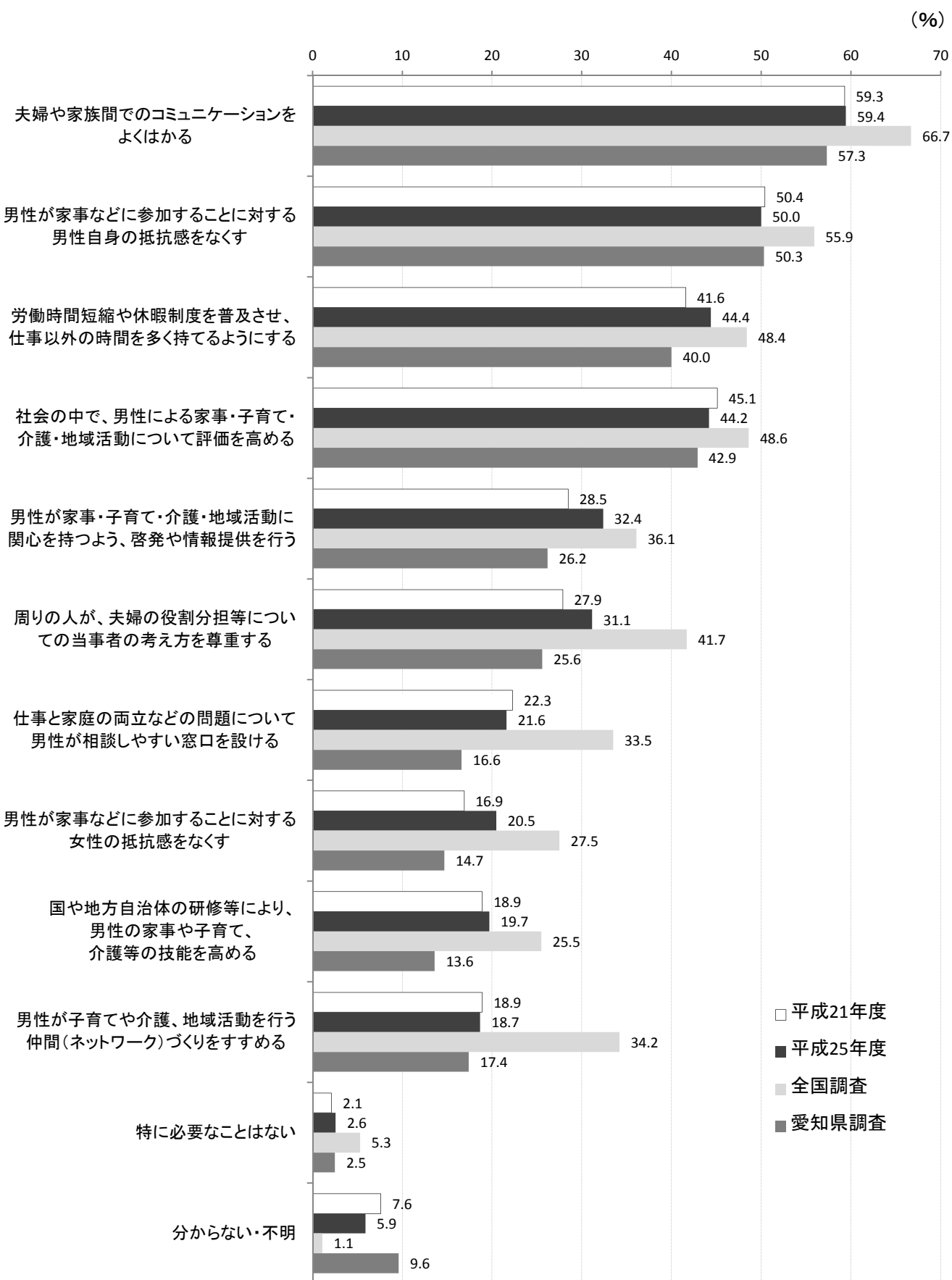


図12-3 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと 【他調査との比較】

女性の社会進出について

13 女性が増えるほうがよいと思う職業や役職

【全体・性別】

- 「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」と回答した人の割合が49.0%と最も高く、ついで「都道府県、市（区）町村の首長」（39.7%）、「企業の管理職」（39.2%）の順となっている。
- 「裁判官、検察官、弁護士」「国連などの国際機関の管理職」と回答した人の割合は、男性より女性の方が高い。一方、「自治会長、町内会長等」については女性より男性の方が大幅に上回っている。
- 「特にない」と回答した人の割合が男女ともに20%を超えている。

【性別×年齢別】

- すべての世代において「国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員」が最も高い。
- 40歳代は「都道府県、市（区）町村の首長」「企業の管理職」が同程度に高い。
- 「自治会長、町内会長等」について、70歳代が最も高い。

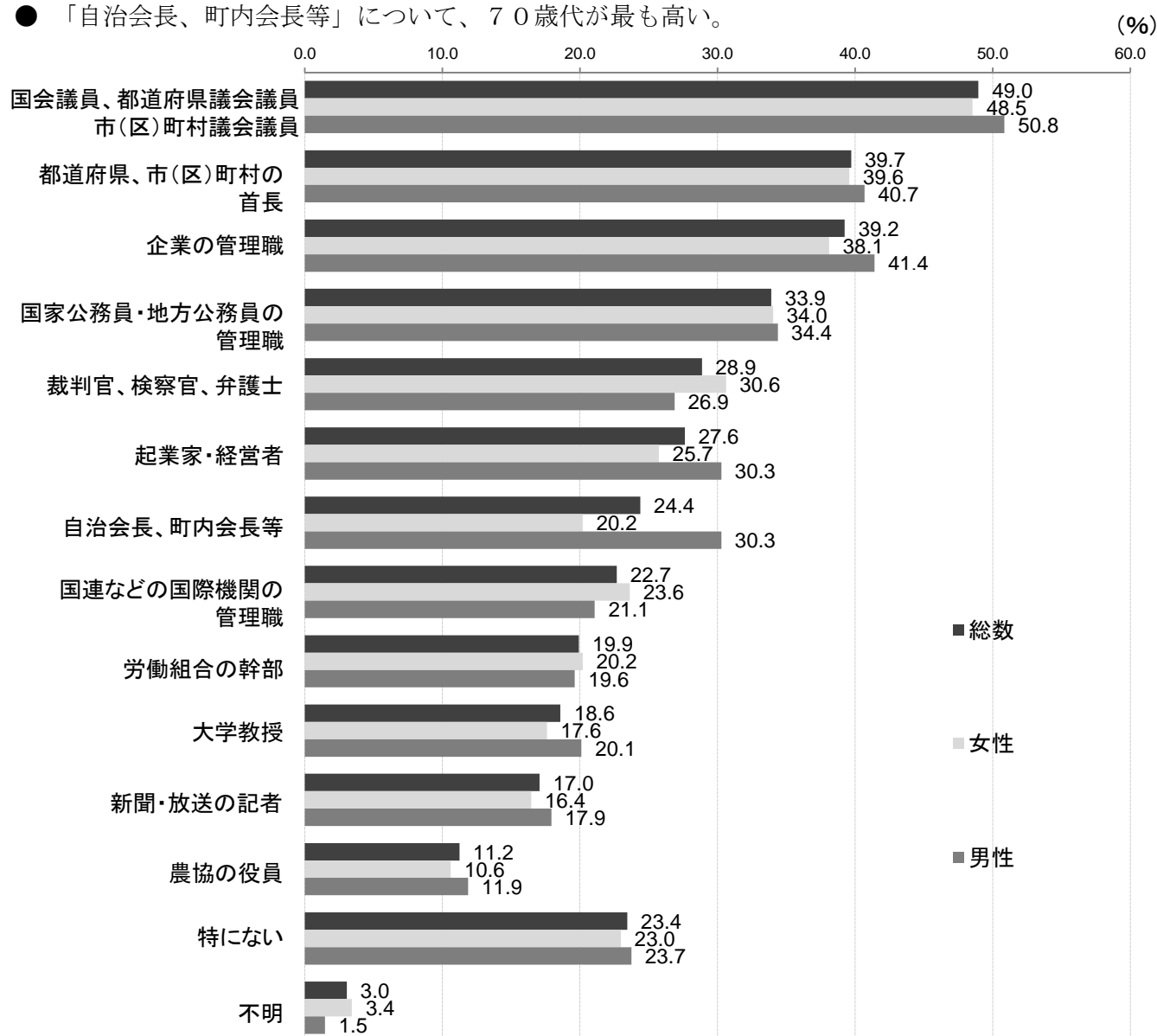


図13-1 女性が増えるほうがよいと思う職業や役職 【総数、性別】

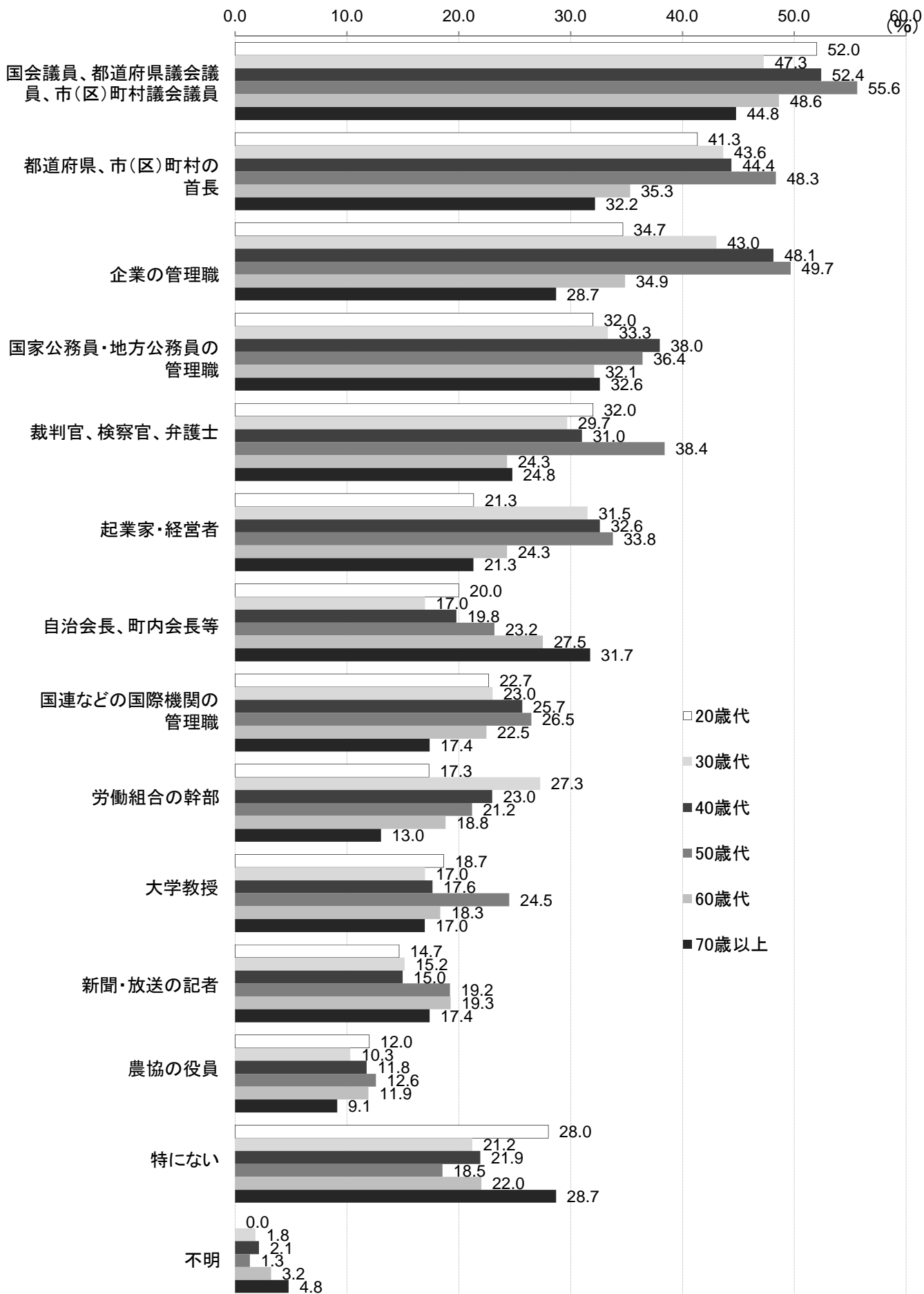


図13-2 女性が増えるほうがよいと思う職業や役割 【年齢別】

1.4 女性が職業を持つことについての考え

【全体・性別】

- 「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合が45.3%と最も高く、ついで、「ずっと職業を続けるほうがよい」が35.9%と高くなっている。
- 男女とも「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」（女性45.6%、男性45.8%）が最も高く、ついで「ずっと職業を続けるほうがよい」（女性39.1%、男性31.7%）となっており、性別による大きな差はみられない。

【性別×年齢別】

- 20歳代を除くすべての年代の男性は、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答する人の割合が最も高い。
- 30歳・40歳・50歳代の女性は、「ずっと職業を続けるほうがよい」と回答する人の割合が最も高く、同年代の男性より上回っている。
- 20歳代について、女性は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」（56.8%）が最も高い。一方、男性は「ずっと職業を続けるほうがよい」（38.7%）が最も高い。

【既婚・未婚別】

- 既婚・未婚別にみると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」「ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合は、未婚者より既婚者のほうが高くなっている。
一方、「子どもができるまでは、職業を続けるほうがよい」と回答した人の割合は、既婚者より未婚者の方が大幅に高くなっている。

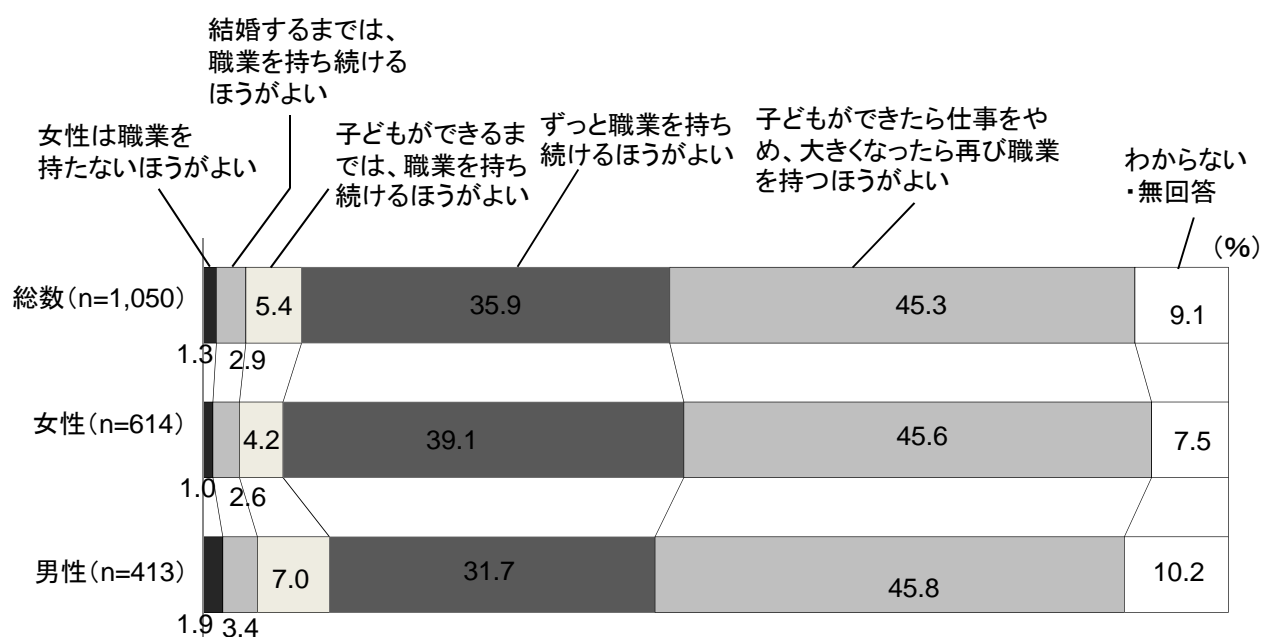


図1.4-1 女性が職業を持つことについての考え 【総数、性別】

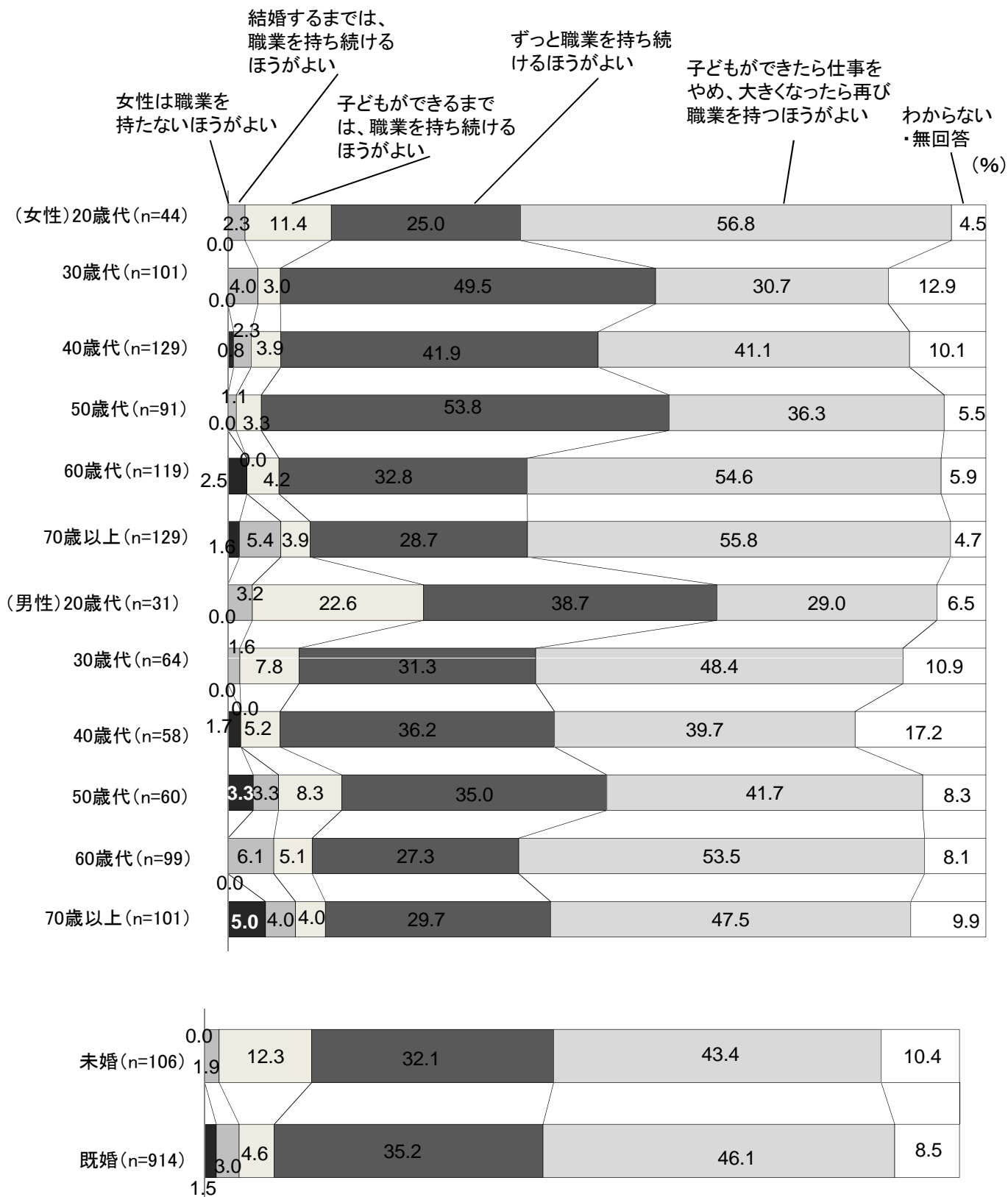


図14-2 女性が職業を持つことについての考え 【年齢別、既婚・未婚別】

【他調査との比較】

- 前回調査と大きな差異はみられないが、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した人の割合は上昇している。また、「女性は職業を持たないほうがよい」と回答した人の割合は低下している。
- 全国調査と比較すると、「ずっと職業を持ち続けるほうがよい」と回答した人の割合は低くなっており、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と回答した人の割合は高くなっている。

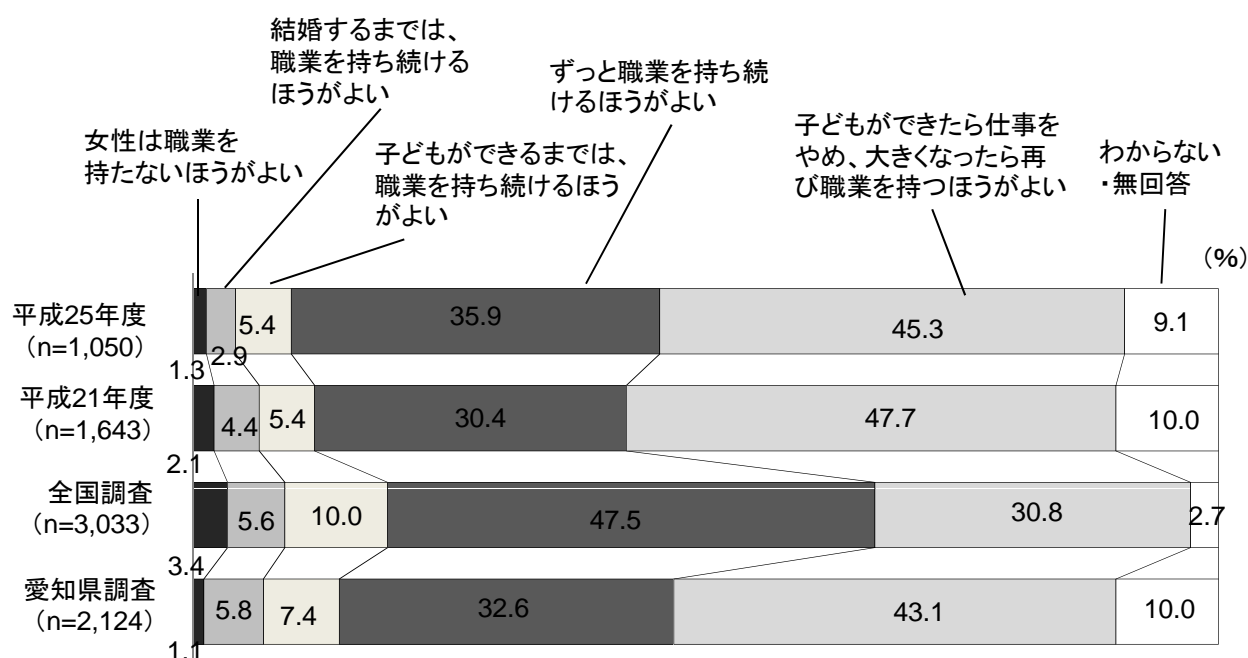


図14-3 女性が職業を持つことについての考え 【他調査との比較】

15 社会のさまざまな分野において、企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由（複数回答）

【全体・性別】

- 「男性優位な組織運営」と回答した人の割合が53.7%と最も高く、ついで「職場における性別役割分担、性差別の意識」（43.0%）、「家庭における性別役割分担、性差別の意識」（33.3%）の順となっている。
- 男女ともに「男性優位な組織運営」（女性53.9%、男性54.5%）と回答した人の割合が高い。
- 女性は、「家庭における性別役割分担、性差別の意識」「家庭の支援・協力が得られない」と回答した人の割合が高く、男性を上回っている。一方、「女性側の積極性が不十分」「女性の能力開発の機会が不十分」と回答した人の割合は女性より男性が上回っている。

【性別×年齢別】

- 「職場における性別役割分担、性差別の意識」と回答した人の割合は30歳代、40歳代で高くなっている。
- 「女性側の積極性が不十分」「女性の能力開発の機会が不十分」については、年齢が高くなるほど、割合が高くなっている。

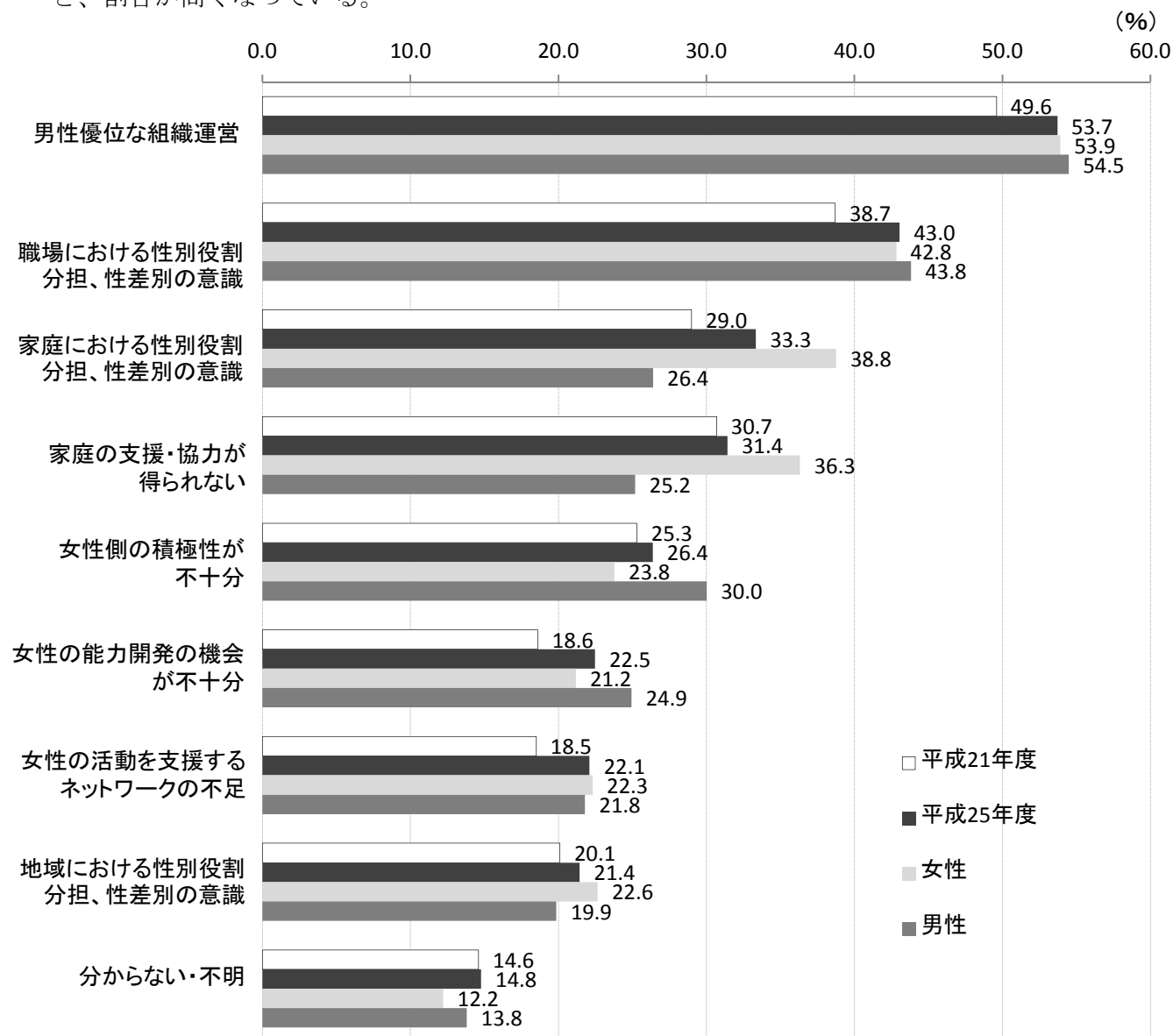


図15-1 社会のさまざまな分野において、企画や方針決定の過程に女性の参画がすすんでいない理由 【総数、性別】

(%)

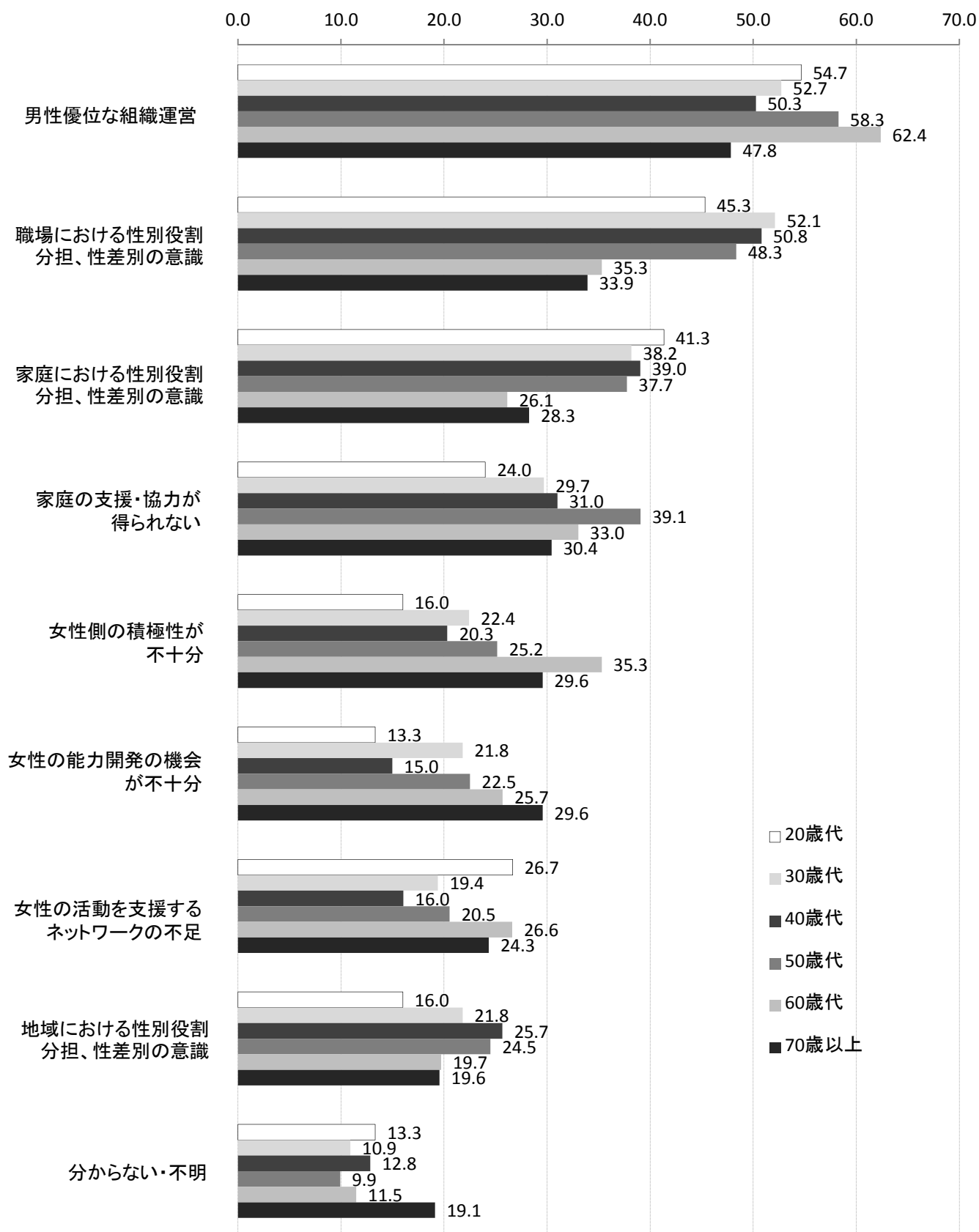


図15-2 社会のさまざまな分野において、企画や方針決定の過程に女性の参画がすすんでいない理由 【年齢別】

ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて

16 DVなどに関する認知度（複数回答）

【全体・性別】

- 男女とも、「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆるドメスティック・バイオレンス（DV）と呼ぶ」（86.6%）「主に職場において、性的な言動により他の人を不快にさせる行為をセクハラと呼ぶ」（83.0%）「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれる」（82.8%）と回答した人の割合が特に高くなっている。
- ほとんどの項目で前回調査よりも割合が増加している。
- 男女による大きな差異はみられない。
- 「DVを受けている人を発見したら、配偶者暴力相談支援センターか警察に通報するよう勤めなければならない」（37.2%）と回答した人の割合が最も低い。

【性別×年齢別】

- 30歳～50歳代において、上位3項目について知っているという回答した人の割合が高い。
- 60歳以上では、すべての項目において知っているという回答した人の割合は低くなっている。

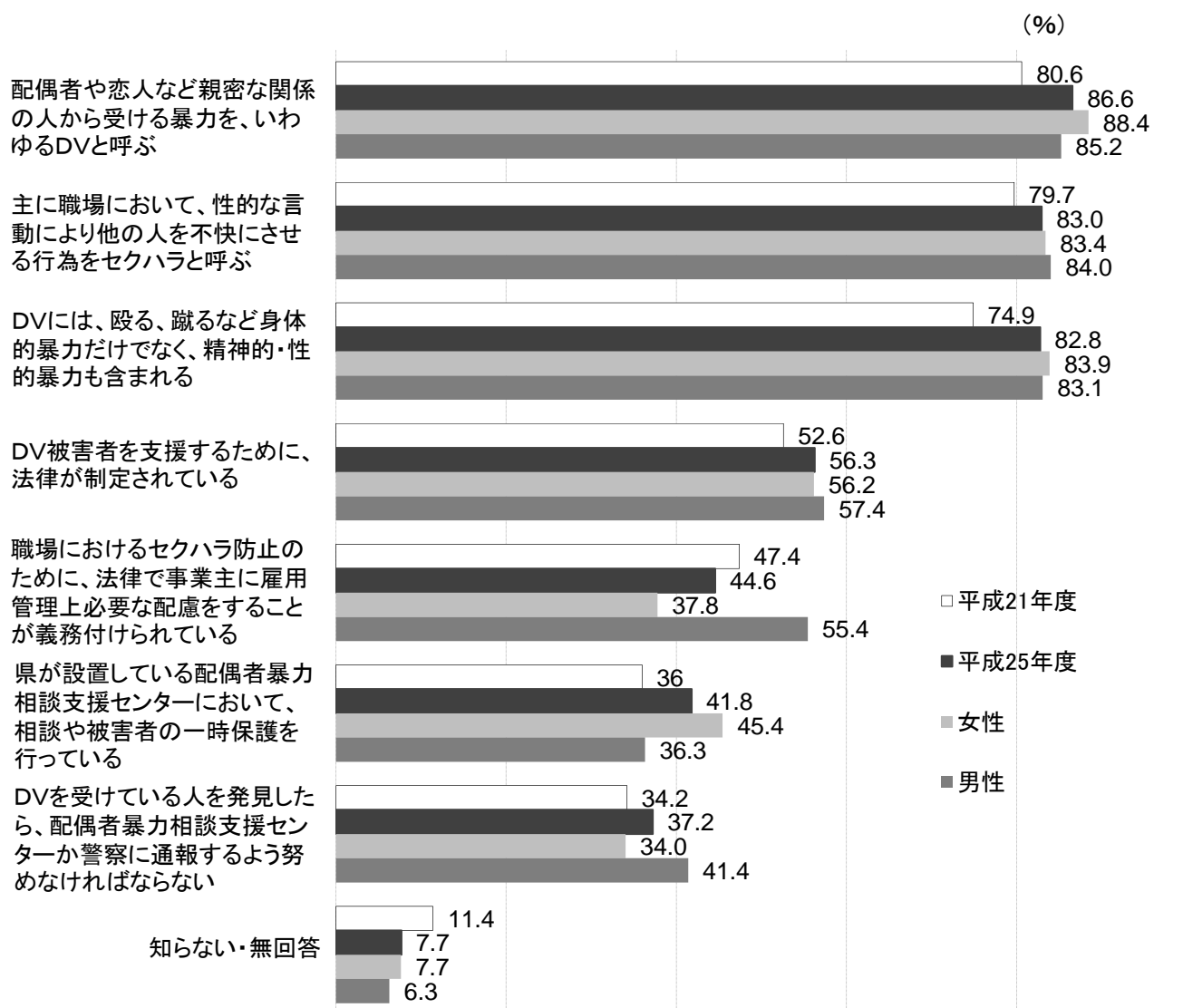


図16-1 DVなどに関する認知度 【総数、性別】

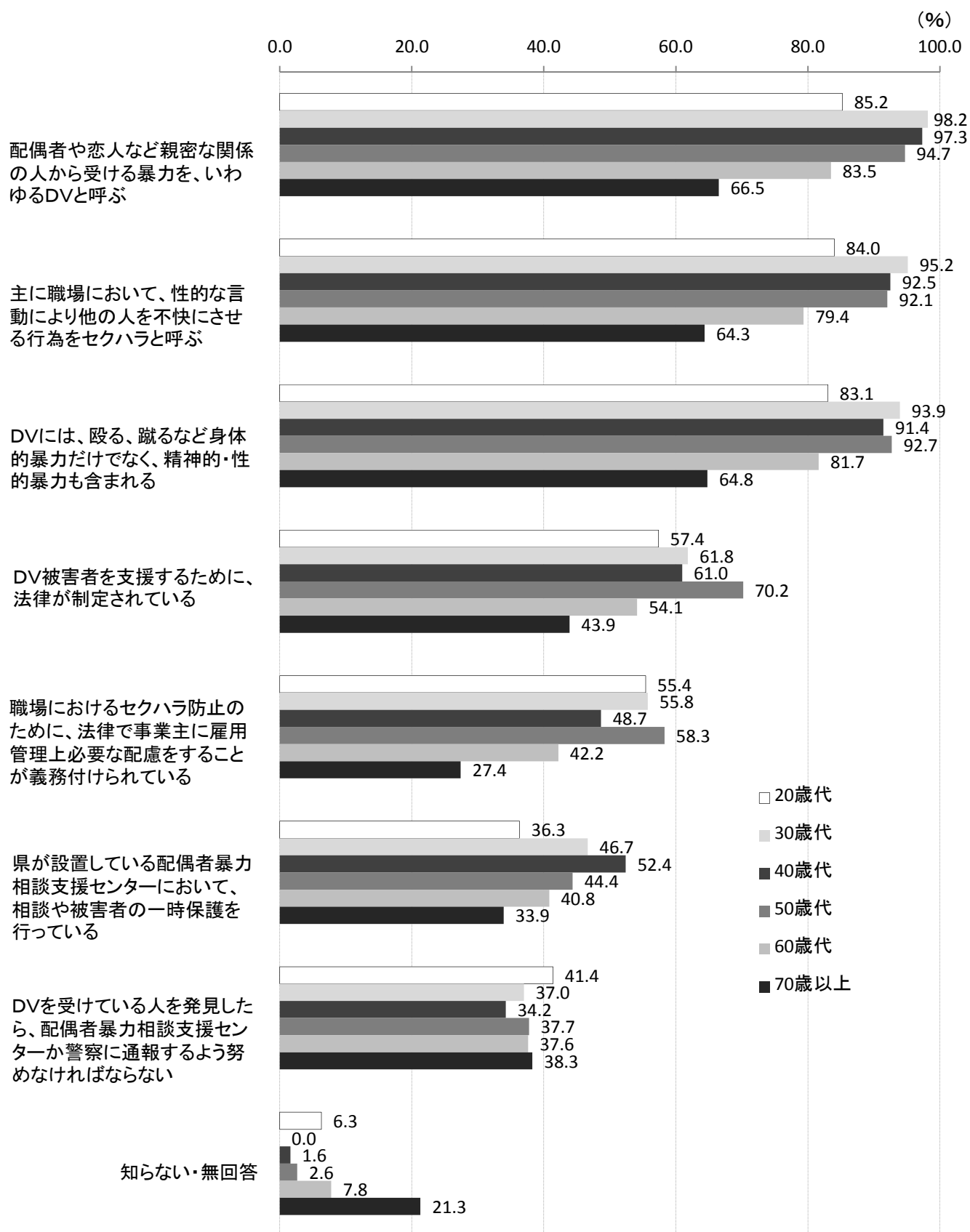


図16-2 DVなどに関する認知度 【年齢別】

17 配偶者や交際相手からの暴力を身近で見聞きしたことの有無

【全体・性別】

- 「身近で見聞きしたことはない」と回答した人の割合が71.7%で最も高く、男女ともに高くなっている。
- 「見聞きしたことがある」（「家族や知人から相談されたことがある」＋「身近に当事者がいる」＋「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」以下同じ）は男女ともに3割程度以下である。

【性別×年齢別】

- すべての年代において「身近で見聞きしたことはない」と回答した人の割合が最も高い。
- 年齢による大きな差異はみられない。

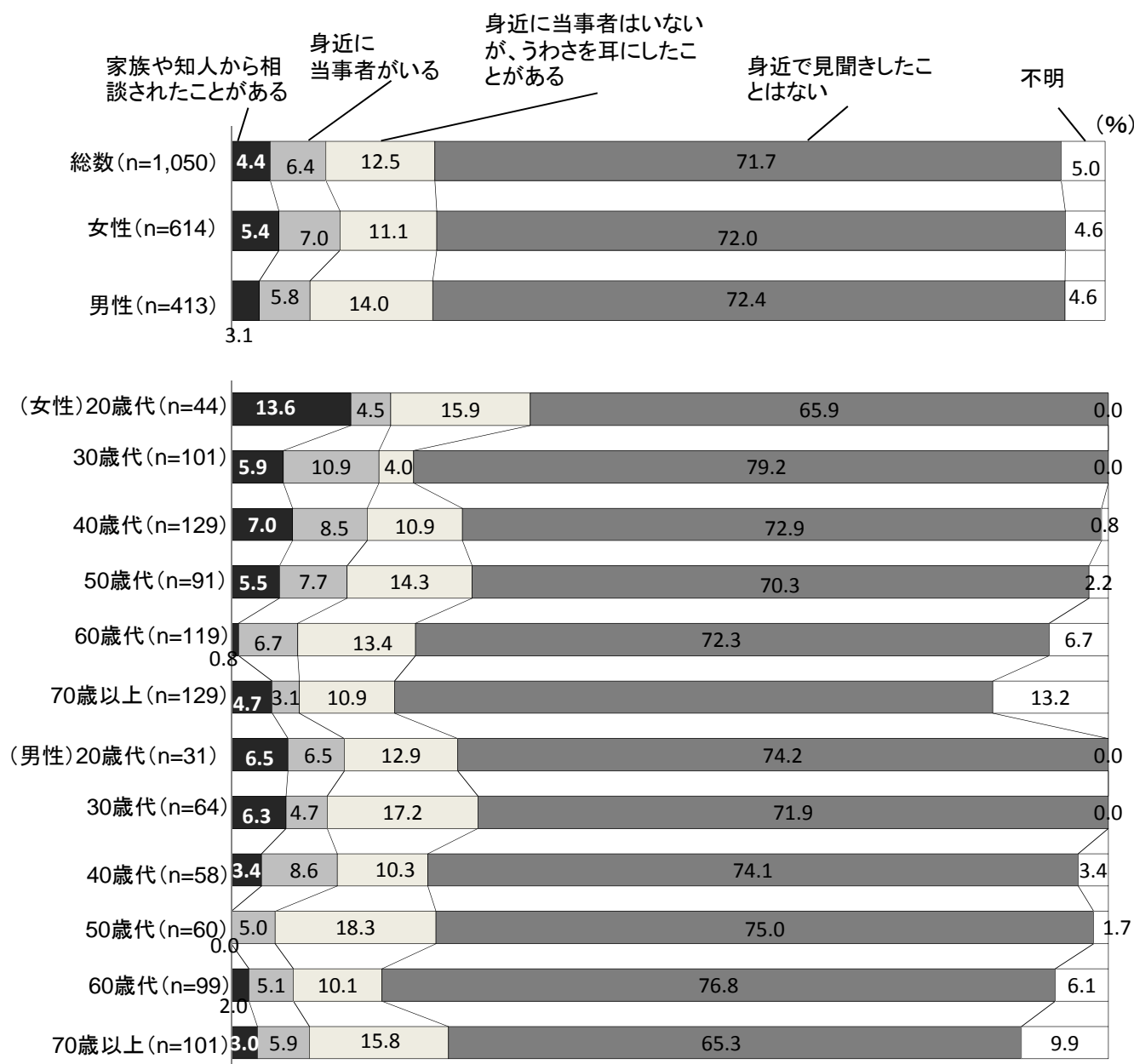


図17 配偶者や交際相手からの暴力を身近で見聞きしたことの有無
【総数、性別、年齢別】

18 DVに関する相談窓口の認知度

【全体・性別】

- 「知っている」と回答した人の割合は53.0%で、「知らない」を上回っている。また、前回調査よりも若干増加している。
- 男女による大きな差異はみられない。

【性別×年齢別】

- 20歳・30歳代の男女は、「知らない」と回答した人の割合が半数をこえ、「知っている」と回答した人の割合よりも上回っている。
- 40歳・50歳代の女性は「知っている」と回答した人の割合が高くなっている。

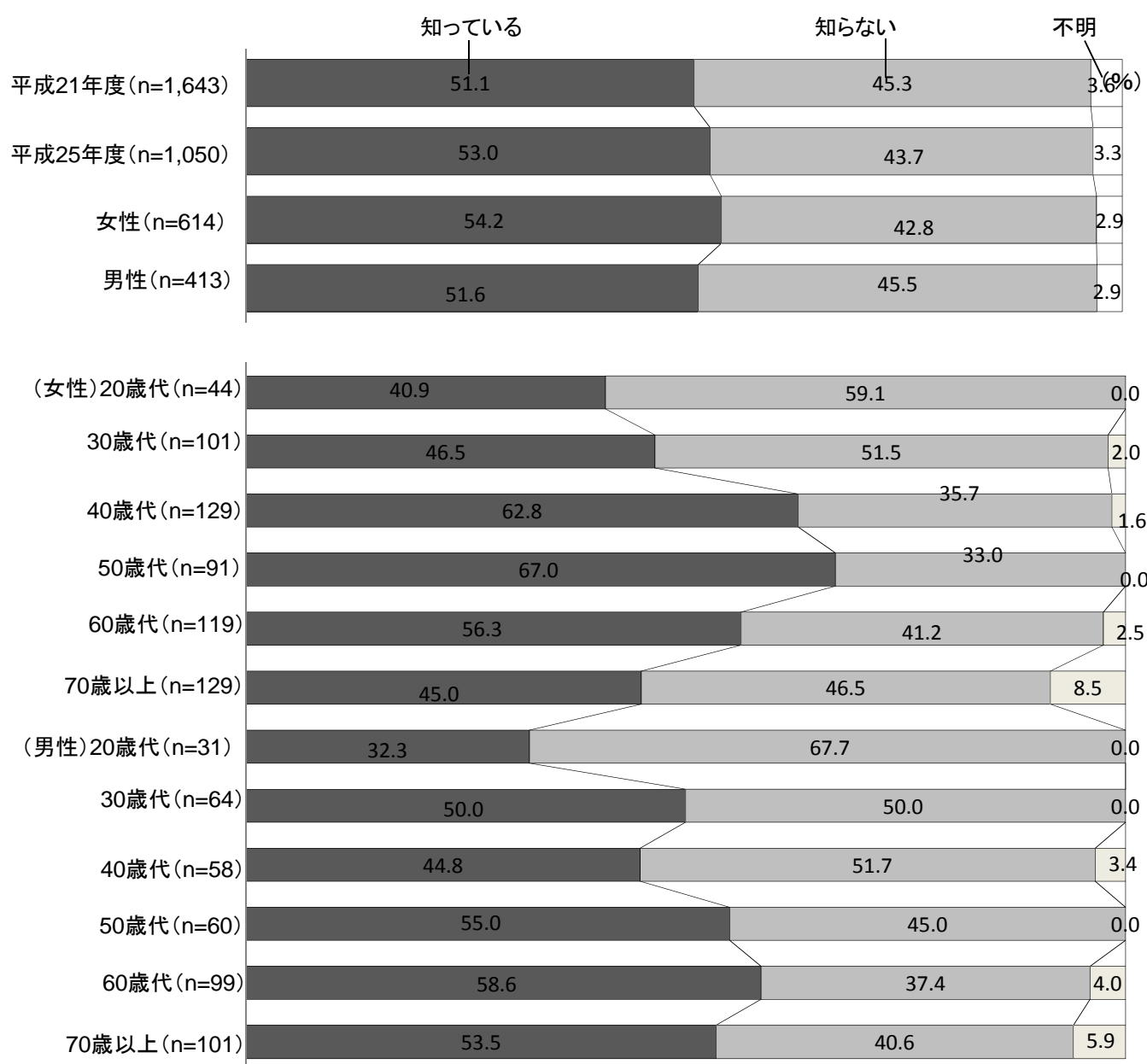


図18 DVに関する相談窓口の認知度 【総数、性別、年齢別】

19 知っている相談窓口（複数回答）

【全体・性別】

- 相談窓口を知っている人のうち、「警察」と回答した人の割合は83.3%と最も高い。また、男女ともに高くなっている。
- ほとんどの項目において女性より男性のほうが割合が高い。

【性別×年齢別】

- 「配偶者暴力相談支援センター」を知っていると回答した人の割合は、70歳以上が最も高い。一方、40歳代は最も低くなっている。
- 20歳代を除く世代において、「民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）を知っていると回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて低くなっている。

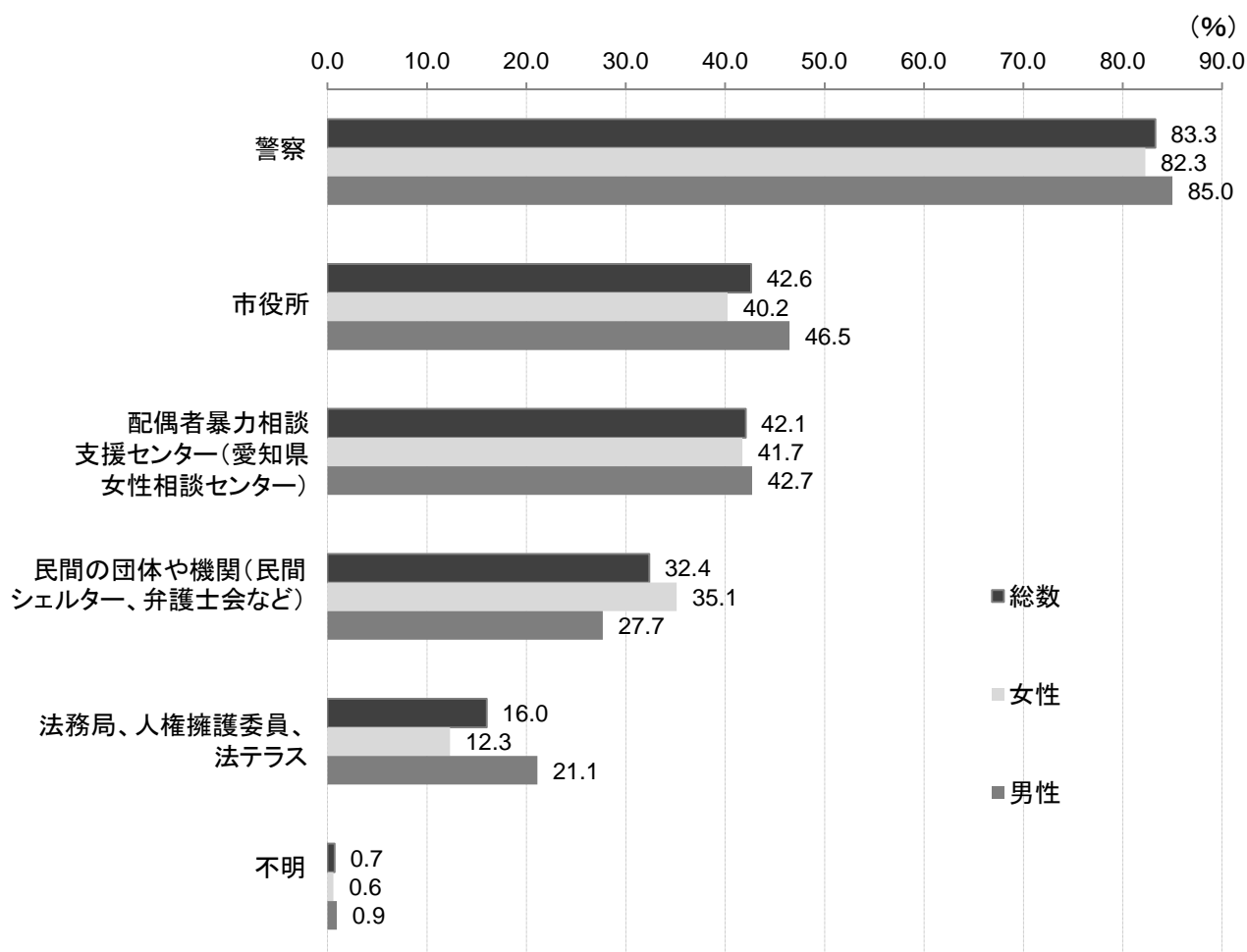


図19-1 知っている相談窓口 【総数、性別】

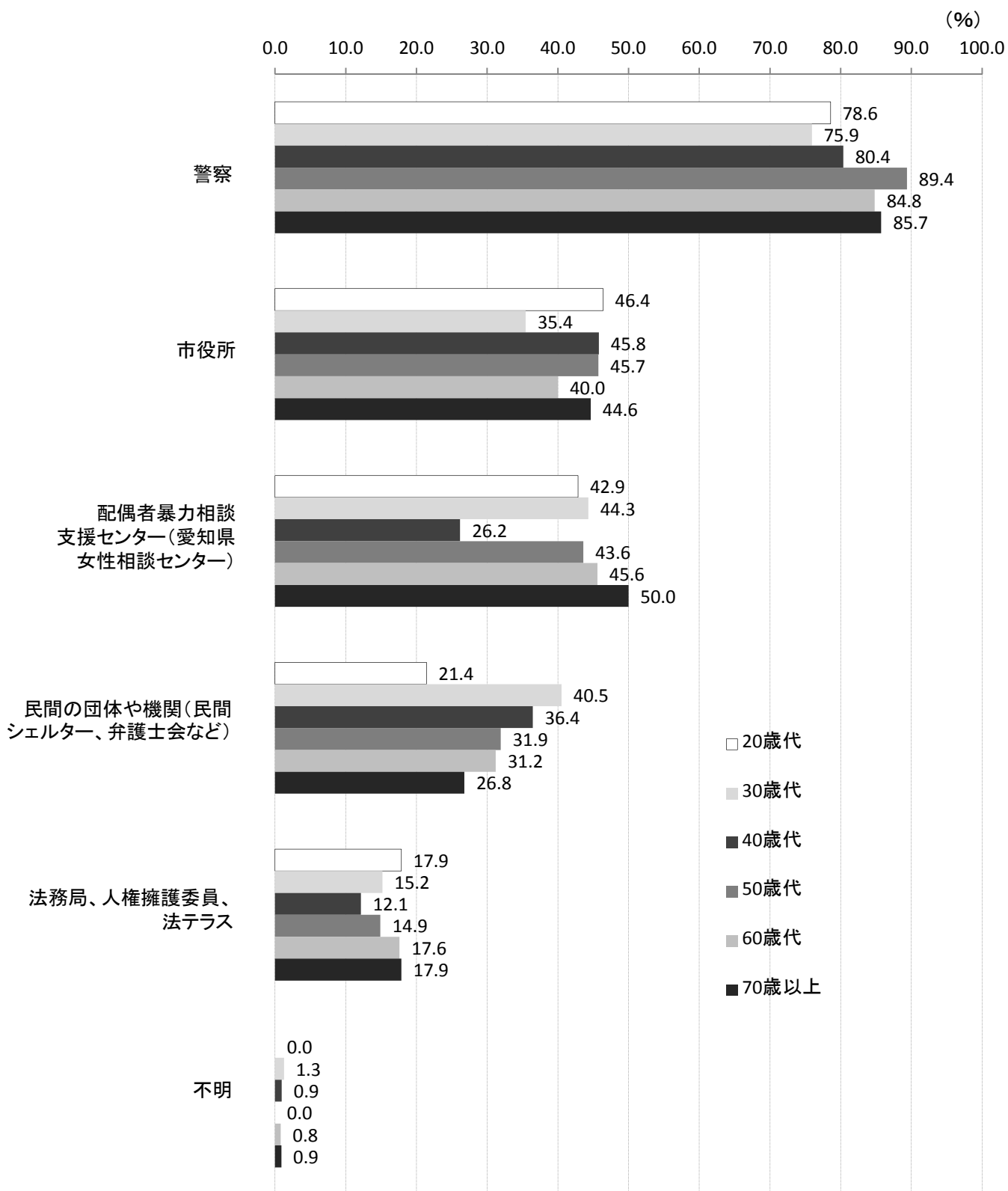


図19-2 知っている相談窓口 【年齢別】

男女共同参画社会について

20 男女共同参画社会に関する用語の認知度（複数回答）

【全体・性別】

- 「男女雇用機会均等法」を知っていると回答した人の割合は52.6%と最も高く、ついで「男女共同参画」と回答した人が36.4%となっている。2項目ともに割合が前回調査より若干減少している。また、2項目ともに、回答した人の割合は、女性より男性の方が高くなっている。
- 「知らない」と回答した人の割合は、36.5%と比較的高く、前回調査よりも上昇している。また、「知らない」と回答した女性の割合が40.7%と高くなっている。

【性別×年齢別】

- 「男女雇用機会均等法」「男女共同参画」「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」を知っていると回答した人の割合は、他の年齢層に比べ20歳代で高くなっている。

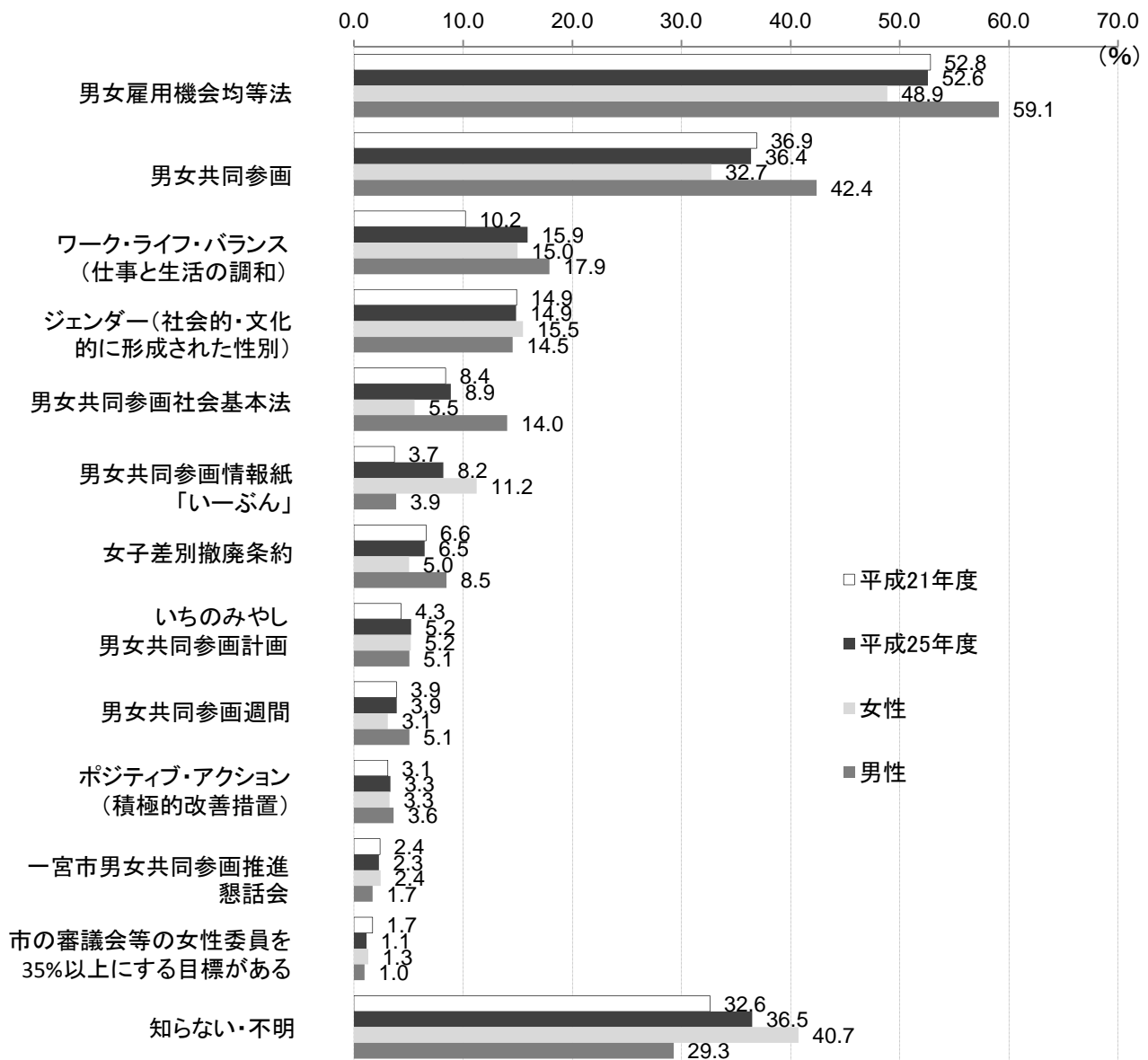


図20-1 男女共同参画に関する用語の認知度 【総数、性別】

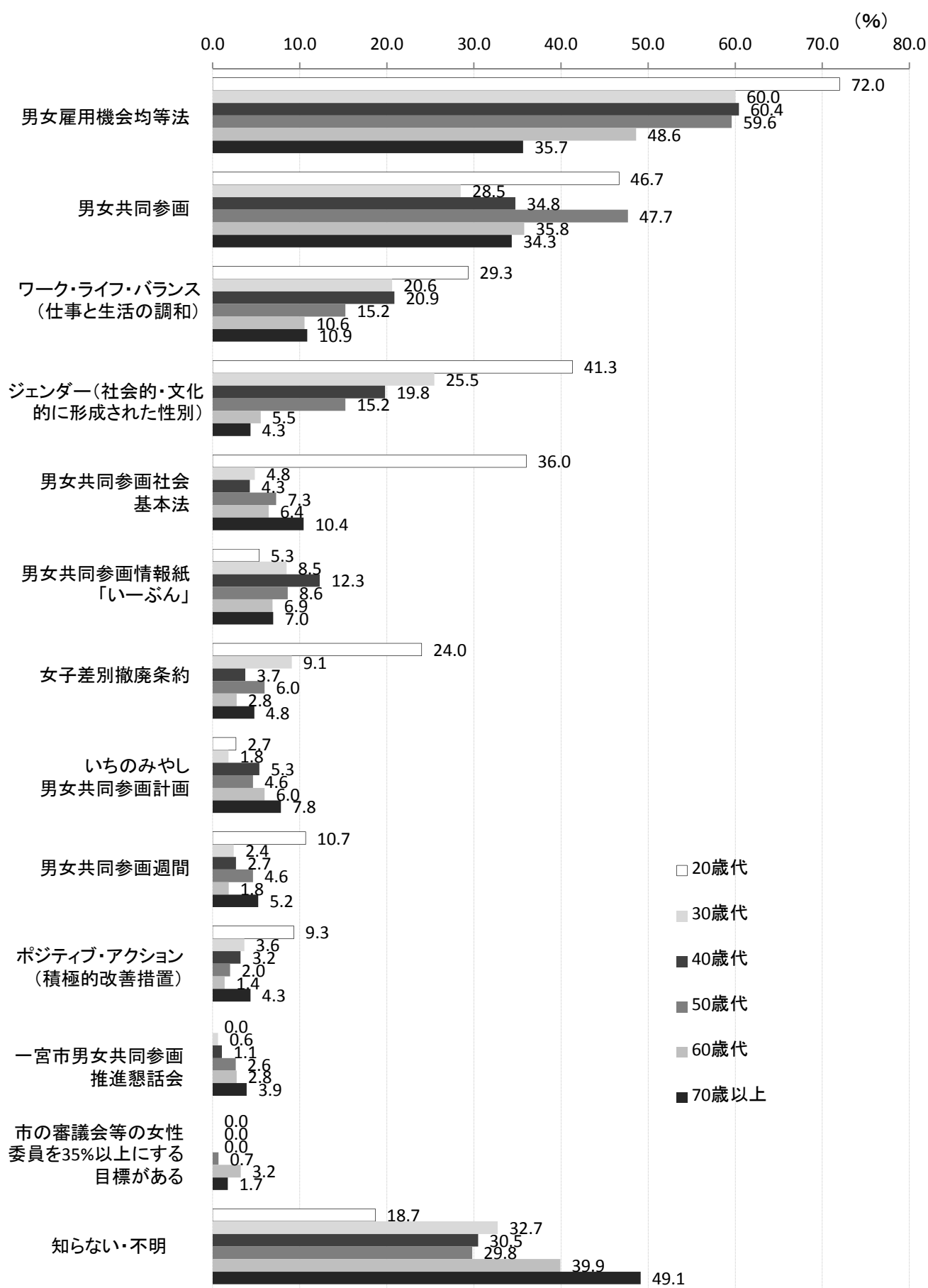


図20-2 男女共同参画に関する用語の認知度【年齢別】

21 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割（複数回答）

【全体・性別】

- 「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」と回答した人割合が57.9%で最も高い。また、回答した人の割合（女性60.4%、男性55.7%）は、男性より女性の方が高くなっている。
- 「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」と回答した人の割合は、男性より女性が上回っている。
- すべての項目において、前回調査より同程度以上となっている。
- 「法律・制度の面で見直しを行う」（女性26.5%、男性33.2%）では、女性より男性の方が高い。

【性別×年齢別】

- 「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する」「職場における男女の均等な取扱いの周知徹底が図られるよう企業等に働きかける」「法律・制度の面で見直しを行う」と回答した人の割合は、特に20歳代が他の世代より高くなっている。
- 「労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度、男性も含めた働き方の見直しを進める」については、20歳～50歳代は高く、60歳以上は低くなっている。
- 「広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」「女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する」は、高い年代ほど割合が高くなる傾向がみられる。

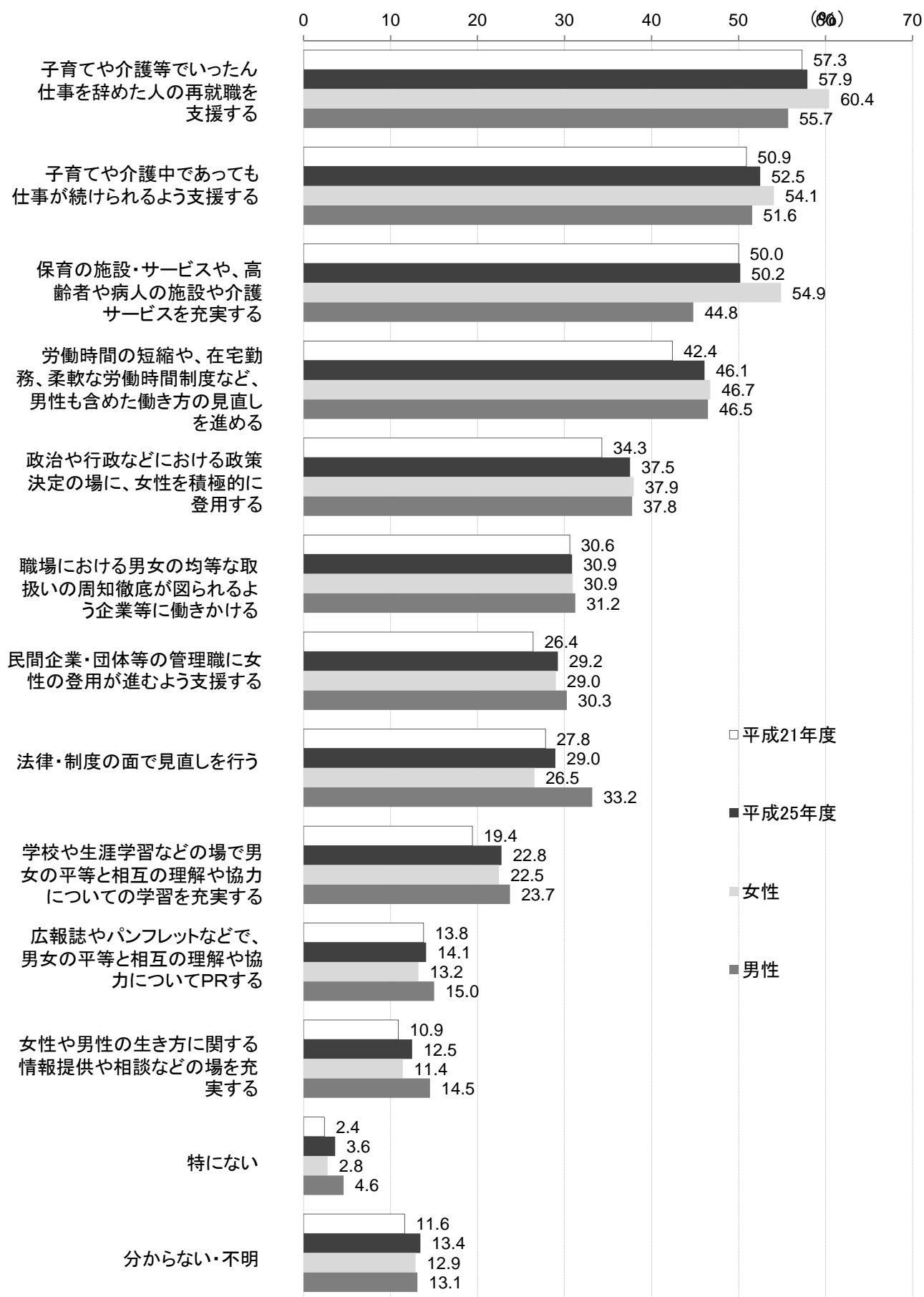


図21-1 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割【総数、性別】

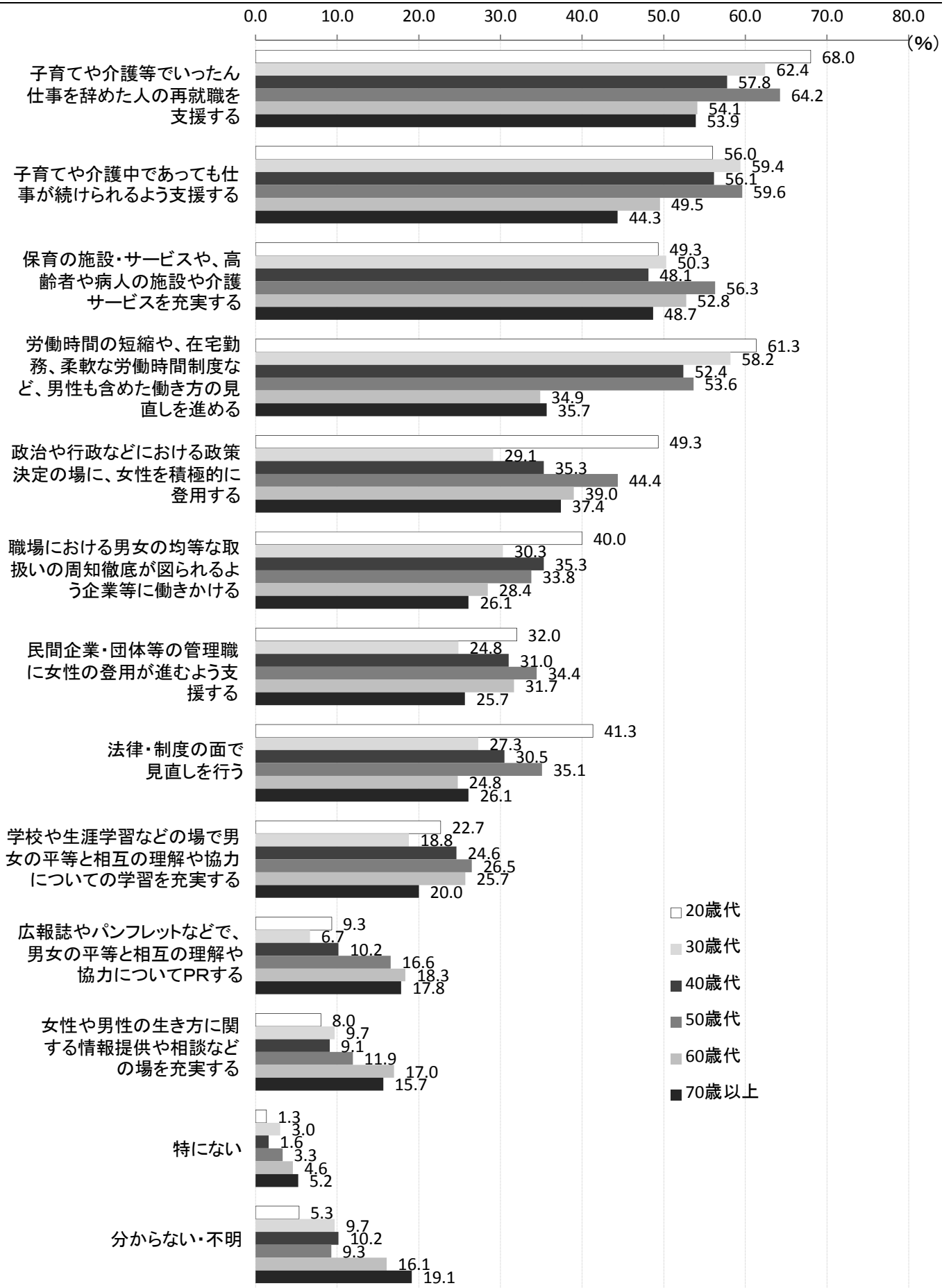


図21-2 男女共同参画社会を推進していくために、行政に期待する役割【年齢別】

V 男女共同参画についての自由意見

回答者から男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についての意見として、154件が寄せられました。そのうち、「男女平等」や「男女共同参画」に関する部分を抜粋または要約し掲載しています。

【男女共同参画全般について】

1. 一宮市の男女共同参画の具体的内容がわからない。[20歳代 女性]
2. 若い世代ほど男女平等という考え方が浸透しつつあると思う。しかし社会的に見れば、子育てと家事は女性の仕事という固定観念は根強いので、両性で協力していくのがスタンダードであるという認識を社会全体で持てるよう、いろいろなPR活動をして下さい。少しずつ女性も活やくできる社会になっていくと良いと思います。[20歳代 女性]
3. それぞれの家庭にさまざまな事情があると思うので、積極的に男女共同参画社会を推進する必要はないと私は思います。[20歳代 女性]
4. 支援をするより、根本的に労働環境が改善されないと意味がないと思います。[20歳代 女性]
5. 平等であることは大切なことだと思うが、そのような社会が実現された時に、そうではない生き方もできる社会であってほしいと思っています。[30歳代 女性]
6. 長い年月をかけないと進まないと感じているので、次世代の子どもたちが少しでもよくなるように継続してほしい。[30歳代 女性]
7. 男女が全く平等であると大変だと感じる女性も多いと思う。[30歳代 女性]
8. 男女平等は確かに必要ですが、生理だからと会社を平気で休むなど、女性だけの体や特長を利用する女性が多すぎる。甘えてるとも言える。本当に男性と同等にと言うなら、女だと言う甘えも口にはいけない。政治家のはでな化粧やスーツやアクセサリ等、政治をする為に議員になったのかわからない。不愉快な女性議員が多すぎる。働く事も大事です。でも女性として子を産み社会に迷惑をかけない。次世代の人間を育てる事は社会に出て、男性と平等と言うより大事では？男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事をお互いに尊重してはじめて平等だと思う。形だけ男女平等になってる今の世の中は破滅すると思う。男性が弱くなり、女性ばかりが強くなり行きすぎてる気が女性として思います。[40歳代 女性]
9. 女性は結婚、子育てが人生のどの位置で体験していくのかで生活パターンが大きくかわることが多いので、その都度大きくかわらなくてもすむように、女性の助けになることができる施策をお願いしたいです。[40歳代 女性]
10. 男女の参画と聞くと、男と女を同じようにしようとしているかのイメージがつかまとう。女性と男性ではまったく質が違うのだから、平等といっても全然違うものになると思うし、女性は男性よりも多様な生活スタイルがある。そういう意味で自由に選べるからこそ、個々の考えも変わってくると思います。が、私のように古典的な家父長制社会を好むものとしては、男女の差、違いをはっきり認識し、女性が守られる社会が理想です。現実には男女による差別を感じたことは特にありませんし、不自由もないので自分自身も他者（男性）も尊重しあえている社会ができていると思っています。[40歳代 女性]
11. 私は子どもが家庭で安心して過ごせることが一番大事だと思います。親から愛情を感じられるように女性が子育てもできて、社会の一員として仕事を持てればいいと思います。（早朝や深夜まで働き、子供をどこかに預けるのはあまり好みません。）[40歳代 女性]

12. 男女共同参画を推進するにあたり、すべて（介護してる人、子育てしている人、障害者の人たちとか）の立場の人たちから意見をきいてほしい。頭でっかちのキャリアの人たちがいくら考えてもかわらないと思う。男女共同といってもできるもの、できないもの必ずあるのだから、すべて男女共同でと思わなくてもいいのでは。とも思いますが……。[40歳代 女性]
13. 過ごしやすい環境づくりを企画して下さり、ありがとうございます。私の年代は夫が協力してくれ、共働きしやすい人も多くなってきていますが、育った環境や時間のゆとり、子育てを考えると女性が社会で働くという事はとても負担がありました。かと言って男性が育児休暇をとったり介護休暇をとったりして実際に会社で通用するとは思えません。個人の権利ばかり主張して、やるべき事をしないという事も出てきます。私の職場では女性の管理職も増え始めていますが、家事の負担は多く睡眠時間が少ないです。友人は課長クラスでいますが、子供の参観や学校行事には一度も行った事がないそうです。でも30代の方は男女共に家事・育児は平等にと言われます。年代世代によって考え方が変わってきています。幼い頃からの習慣・環境で変わってきますので、あきらめず続けていただきたいと思います。[40歳代 女性]
14. 市議会議員等でも、女性が多くなる日が来たら、男女平等に近い社会に近づくのではないかと思います。[40歳代 女性]
15. まだまだ職場では男性の方が言動や態度がおうへい。もっと女性にあたたかい、居心地のいい社会を作ってほしい。[40歳代 女性]
16. 筋力の差がある以上、完全な男女平等は難しいのが現状だと理解しています。しかし、筋力を必要としない仕事では男女平等であるべきではないかと思うので、事務職・営業職 etc では能力給などで平等制を持たせるべきだと思います。男性側の意識改革を求めます。[40歳代 女性]
17. 男女平等の点は理解できます。でも男女それぞれの特性の上に立った平等が必要と考えています。すべての事項において平等をめざしていくのではなく当人が望む型で生活できていくことこそ大切だと思います。自治会においても、もっと色々な立場の方々の話を聞くことができればおのずと、考え方も方向性も生まれてくるのではないのでしょうか。[50歳代 女性]
18. 社会全体が、夫も妻も両方が協力して子育てができるように制度等をつくり、利用するのが当たり前になってほしい。子どもを10ヶ月から保育園に預かってもらい3人の子を育ててきました。祖父母が近くにいる、夫も積極的に子育てに関わってくれたので、何とかここまでできました。しかし、これから介護のことを考えると不安です。子育て、介護、どちらにも安心して携わることができるよう雇用主に制度として義務化してほしい。国に働きかけてほしい。今も制度はできてはいますが、男性はもちろん女性も取りにくいです。福祉制度とも密接に結びついていると思います。自助・互助・共助・公助です。最も改善してほしいのはワークシェアで労働時間の短縮を、深夜労働は女性に負担大きすぎる。真の男女平等というなら、性差を考えた労働にしてほしい。子どもにとっても、今の働き方はひどすぎる!!子育て中の方は、子どもと生活（夕食一緒に）ができるような時間にしてほしいです。私は何とか、ここまで働いてきましたが、ワークライフバランスはひどいもの。自由時間ないです。[50歳代 女性]
19. あいち国際女性映画祭の会場にぜひ一宮市もなって下さい。ウイルあいちの相談センターでずいぶん助けられたことがあります。女性専用の相談室の充実と存在の広報の徹底を希望します。[50歳代 女性]
20. 私自身が共同参画をよく知る事が出来ていない職業であったので、老後の勉強としてまず地域の事を知る事から考えたい。[60歳代 女性]

21. これからの若い女の人には結婚し、子供を産んでもフルタイムで働ける環境づくりをしていかななくては将来が心配。今のお年寄りの様に年金が貰える訳もないので、自分の将来の生活の為にはしっかり働きつづける事が大事だと常々子供たちにはいってあります。世の中がどうなるのかわからないから将来の為には夫婦で仕事を分担しあい働くことが大事だと思います。家では子供たちは子育て等はできる限り協力しています。私も働きながら、現在家を守ってくれているお嫁さんを少しでも助けようと働いています。お嫁さんも働き出した時、子育て支援等を利用したり、私がみたりしていきたくと思っています。[50歳代 女性]
22. 配偶者のいる男性の中には、家の中のことが何もできない、どうしていいのかわからない方が多数いらっしゃるので、子供の時から家の手伝いなどさせるとかしていかないと、女性が家にしばられ、外で活動できる世の中にはならないと思う。[50歳代 女性]
23. 男性、女性は根本的に（身体等）ちがいがあります。女性ががんばって勝ち取った？男女雇用機会均等法が逆に負担になって女性が働きにくくなっている気がします。子供を産んで職場に復活しても男女均等が重荷になる事があります。独身、結婚しても子供がない女性は、女性であっても男性と同じに働けますが、それで女性？はあたりまえですが、私はそれが女性？と思います。我が家は娘が子供を産んでから同居しました。現実には小さい子供は預かってもらえませんでした。研修、泊等も平等になってます。[60歳代 女性]
24. 正直私もよくはわかりませんが、一昔前は女が女だてらにと偏見の目で見られ、今では女性が社会進出する時代です。大いに平等に対等に話し合い、活動して頂く事に対して色々な場所、地域、社会で後押しして行きたいです。[60歳代 女性]
25. 市民が安心して元気に暮らせる様をお願いします。[60歳代 女性]
26. 自分に合った生き方（仕事）無理せず働いて自分の力でできる所から始めて生きて行ってほしいと思う。[60歳代 女性]
27. 個々の意見の尊重（他人の話をよく聞くこと）[60歳代 女性]
28. 基本的には男子が働いて女子が家庭をみると思って生きて（今まで生活）きました。そのうえで生活が大変な場合は二人で話し合っているいろいろ決めていけばいいと思います。小さい子ども達も親に育てられる幸せはないと思っています。性がちがったりすると将来大変なことは計りしれません。時間がある時は家族、夫婦、子どもが町内、社会に協力して行ってほしいと思っています。[60歳代 女性]
29. 一宮市は女性登用が進んできているのが近頃目に見えて進んで来ている。今後も能力のある人は男女とわず登用されることを望みます。[60歳代 女性]
30. 「一宮市に住むと、男女共に生活しやすくなる」と評判になり、若い世代が移り住む、老人にも便利に心地良く住める、そんな社会になれば良いのですが。一宮市の活動を報道し（宣伝？）続ける事が大事なのではと思います。[60歳代 女性]
31. 問21など質問内容の変問にこまる所がありました。別、もっと一宮市の伝統を守っていかないと、市は発展していかないと。青少年達をもっと市町村で守り、愛して育てていった方が良く思います。[60歳代 女性]
32. 女性は社会での意識向上の少なさもあります。この事も考え直す必要があると思います。[60歳代 女性]
33. 自分自身もう年なので、子どもたちは男女平等に仕事が出来ると良いと思います。[60歳代 女性]

34. 女性が社会に出るのは良いが、まず自分の子供の教育、良い事、悪い事、あいさつ等、当り前のしつけを両親協力してきびしくやさしく育てることが第一と考えます。相手の親と自分の親を大事にするのも大事です。今はこういった事が一番だめだと思います。[60歳代 女性]
35. 私達の時代と今は違って来ましたが、今は良い事と悪い事の判断力を持つようにして欲しいです。今は自分達だけの各家族になったからいけないと思います。[60歳代 女性]
36. 私共、高齢者にはどこ迄が上限かわからないので、その点よろしくお願い致します。[70歳以上 女性]
37. 町内会長等に女性がなっても良いと思います。[70歳以上 女性]
38. 男女平等について法律、国、公共の援助ばかりでなく、男性、女性自身特に女性が自覚を持ち、積極的に自身で働きかけることが重要だと思います。[70歳以上 女性]
39. 子育ては終り、今は息子夫婦の気持で書きました。でも昔と比べると男女の件では良くなった様な気がします。[70歳以上 女性]
40. いろいろあるが公務員の考えでは実行出来ない。[70歳以上 女性]
41. まず上層部の男性の意識が変わってほしい。(役所など)と共に、女性自身が男性にへつらうことなく、しっかりとした意見(思いつきではなく)を持つことが、大切なのではないかと思う。[70歳以上 女性]
42. 一宮市の男女共同参画はむつかしくてわからない。私はハタヤ娘3人でした母その時は6人、末娘にムコさんもらって7人娘も女3人、仕事を続けるために別居して会社の近へ行きました。[70歳以上 女性]
43. 私の時代は終わりました。自分が男だったらと何度も思う時がありました。これからの時代に期待したいです。次に生まれた時も女でよかったと思える様な。[70歳以上 女性]
44. 問20の市に関する言葉をあまり知らなかったので、私の広報の読み方が浅いのかと反省しました。もっとスローガン式で駅、市役所、いたる所に目に止まる様にして下さい。私の知っている言葉は新聞、テレビ放送等でえたものです。[70歳以上 女性]
45. とても良い試みだと思います。今後も手助けできる際は手助けしたいです。[20歳代 男性]
46. 男女差別は法律の問題より個人の根強い歴史に裏付けされた意識にあると思います。教育の場で理解を深める施策があるといいと思います。[20歳代 男性]
47. 管理者における女性への価値観を変えなければならない。「これだから女性は・・・」などその人の長所、短所があるべきで人として捉えなければならない、と思います。[20歳代 男性]
48. 単身世帯であるせいか情報が全く届かない。(一宮市の男女共同参画に関する情報)制度も大切だが、まわりの人間の意識が何より重要。→意識の高い人と低い人で差がある。意識、関心の低い人にどうアプローチするかが大切。[20歳代 男性]
49. 働きたい女性が働けるように企業は努力すべきであると思う。「管理職の何%以上は女性にしなければならない。」という政策、考えはすべきでないと思う。(その人の能力を評価すべきであると思う。)[20歳代 男性]
50. 夫婦でいっしょに参加できる企画や大会があると少しずつ身近になるのではないのでしょうか。[30歳代 男性]
51. そういった情報等を知らない方が多く在していると思うので、もっとそういった情報等を見られる様にすると良いかと思います。[30歳代 男性]

52. 特にありませんが、法律などで義務的にさせても良い結果が出るとは思えません。ただ、男女共同参画がしやすい環境をするためにスタッフや取りまとめする人を女性中心にしてみるなどすれば女性が参画しやすいものとなると思います。[30歳代 男性]
53. 法律面や意識改革よりも、まず実行性が高い子供を預けられる施設を増やすべきだと思います。女性が働ける時間が増える事で、自然と意識改革が進むと思われる。また収入も増え、意識も地位も向上すると思われる。[30歳代 男性]
54. 男女共同参画に積極的な女性の方が少ないと思います。(社会進出の意味で) 強制的、義務的な共同参画にしても意味がないので選べる形にすべきかなと思います。ただ、このアンケート、論点がバラバラで、一宮市が共同参画に対して何をしたいのか、これで方向性がみえますか?一宮市としてはこうしたいけど、どう思うか?というアンケートにしないと得られるメリットは少ないと思いますが。[30歳代 男性]
55. 全てに女性が進出する必要があるのでしょうか?女性特有の悩みもあるのでそれを踏まえて女性も進出できるか否かを見極める必要があると思う。また女性が社会に進出すると子供の世話がおろそかにならないようもっと大きな視野をもって女性の進出を検討してほしい。[30歳代 男性]
56. 支援という受動的な考え方を改め、能力を高め平等に男女を競わせることがないかぎり、差別・区別はなくなる。[30歳代 男性]
57. 子どもを育てるに当って、祖父母の協力が得られやすい環境や、社会通念になると、女性の社会進出が増えるかもしれないと思う。[30歳代 男性]
58. 現在の制度は女性優遇の方向性が強く、とりあえず女性を役職に多数登用すれば良い、などの様な感じにとれます。無理に平等をめざすのではなく、おたがいに男性と女性がたがいの立場を尊重し、真に共同参画できる社会を目指してもらいたいです。[30歳代 男性]
59. 共同参画という言葉自体存在しないと思います。女性に対して甘すぎたり、守りすぎな面も多々あり。子育てしたい男性も多いと思うが、事実法で定めてくれなければ無理な面もある。私もよめが金目的で子供を無理矢理つれさられ調停中。しかも子供は肉体的虐待を受けていて、今も精神的に虐待を受け続けている。そしてうつになりかけている。助けたくても国が作る法がじゃまをして助けられない。[30歳代 男性]
60. 男女それぞれの意識改革が必須だと思う。上記と逆行する意見と思うが、現実問題として小さな子供を幼稚園に通わせながら、パート・アルバイトをする際に融通の利く職務形態の確立と周知をお願いします。[30歳代 男性]
61. 市がどんな活動をしているのか知らない。男女平等は大事だが、本来の男性・女性が持つ性質などそれを生かすことも大切なのは。子作りのためだけの性別ではないはず。何でも同じにすればいいとは思わない。男女共参と関係ないかもしれないが、妻が言うには、一宮市は他市に比べワクチンの補助や子どもの医りょう保障、保育費など支援がおそい。少ない。共参の前に未来の宝を守る支援をお願いしたい。[30歳代 男性]
62. 小学生のような小さい時から始めるべきだと思う。ひとつ気がかりは女性が強くなりすぎて男性が弱くなりすぎてしまい、すぐ離婚などしすぎる社会にはして欲しくない。もっと「人」として大切な事をおしえるべきでは?教育で人は変わると思うから。[40歳代 男性]
63. あまり知らないです。もっとPRを。[40歳代 男性]
64. 一宮市にまかせます。但し、条例等の経過報告を望みます。[40歳代 男性]
65. 共同参画が女性優遇になってしまっている感じがしている。[40歳代 男性]

66. 少子高齢化が進む社会で労働力を確保するため、女性の「社会（＝外部労働市場）」進出は重要です。意欲、能力のある女性が家庭外で働きやすい環境を整えることは、自治体にとっても取り組むべき課題の一つだと思います。一方で、専業主婦を「社会」から疎外したものと捉えて、家庭から無理に引っ張り出そうとする考え方には違和感を抱きます。専業主婦は外部労働に参加していないだけで、社会の一員であることに間違いありません。専業主婦が家庭にいる男性は安心して仕事に打ち込むことができます。仕事を持つ一部の女性が専業主婦に対して抱く不公平感こそ問題だと思います。[30 歳代 男性]
67. できる事は少ないですが、男女共同参画社会になれば良いと思っていますので活動を応援しています。[30 歳代 男性]
68. 一宮市は市川房枝氏の出身地であり、市政に女性の意見を取り入れたり、女性の参画を進める施策を取ることは、よいことだと思います。[40 歳代 男性]
69. 男女共同参画の推進、H25.6 月までなにもしていない一宮市です。何にもしない市なので、このままで良いのでは？何か問題ありますか。一宮市、男女差別を良しとしている様なアンケートの内容だった。なさない。[40 歳代 男性]
70. 推進するほどの施策ではないと思います。なぜなら専業主婦を否定、排除し、家族の絆を破壊しようとする基本計画の性格から来ている為です。専業主婦、子育て世代の主婦が「私は主婦です」と堂々と胸を張って言える社会、主婦が社会的に尊重され尊敬される社会、家族の絆がしっかりと結ばれた家庭が社会の基礎だと思う。男女共同参画に市民の税金を使うのは反対です。[40 歳代 男性]
71. あまり過剰に敏感にすすめていく必要はないのではないかとと思う。権利意識が各人強すぎると思われる。もっと行政としてやるべきことがあるのではないかと。優先順位は低いと思われる。[40 歳代 男性]
72. 未来に希望が持てる様次世代の子供達にさまざまな方面での選択が出来る市にして欲しいと願います。[40 歳代 男性]
73. 何か 1 つでも施策を実施し、トライする事が大事。良い事はすぐやる、悪ければすぐやめる！！[40 歳代 男性]
74. 男女平等はいいが、男と女は別の生物。なかなか平等にはできない。[40 歳代 男性]
75. ぜひとも女性ももっと社会に参画できるように働きかけしてほしい。[40 歳代 男性]
76. 男女平等というが性差があることを理解した平等として下さい。ただ不平等だからといって叫んでいる方が多すぎ。できるだけ問題を明確にして「あるべき姿」を示してめざせば良いのでは。[40 歳代 男性]
77. 議員の 3 割以上を女性にすべき！男性だけでは考え方が片寄る。[50 歳代 男性]
78. 生活形態、制度、風習、等々が前例主義で有り、男性中心の構造になっているため、根本の理念を広めないと進んでいかないとされます。現実の状況の中で、女性の比率を上げるための指標で推進すれば、女性に重荷を負わせるだけで、女性本人のストレス、体調不良が増したり、家庭・家族への弊害が多すぎます。[50 歳代 男性]
79. 基本男性は男性！！女性は女性の本質が基本ではないかと思えます。古い考え方かもしれませんが…。現代社会は基本が忘れていていると思えます。[50 歳代 男性]
80. 更なる取り組みを宜しく願います。[50 歳代 男性]

81. よく分かりませんが、今企業には積極的に実践しておられるところも多くあると聞いております。その様な企業の担当者の方々と意見なども参考に聞かれては如何でしょうか。実際に具体的な取組み型がわかるのではないのでしょうか？[50 歳代 男性]
82. とつぜんの事でわからない部分が多かったです。もっと市の方でも PR 等あった方が良くと思います。男女平等はもちろんですが、先日 TV で放送されました。以前から知ってはいましたが！！母子家庭は優遇されてますが父子家庭の方は？男性の方が収入等あるとの理由らしいですが、今の不況では？平等には？以上。思いつくまま記入致しました。追伸、娘が市内でみかけ「あっ谷さんだ」と市長と話した事があると言っていました。好印象の感じに思いました。長く一宮市長をやって下さるよう伝えて下さい。[50 歳代 男性]
83. 私は 63 才です。私達の年齢層では今でも仕事、社会、家庭では男が中心になっていると思います。20 才～40 才の年齢の方はそれほど男女の差は無いように思います。男女共同参画への参加は高齢者の意識改革が必に思います。高齢者をターゲットにしてはどうでしょうか？(50 才以上)[60 歳代 男性]
84. 男女共同参画について、不勉強であったと感じています。もう少し情報を集めて、知識を広げていきたいと思えます。情報をもっと豊富にあったら良いと思えます。[60 歳代 男性]
85. 個々の生活がゆとりある生活が出来ていないと、回りの人の事まで気が回らないと思えます。特に、心のゆとりが必要と思っています。私には精神的にも物質的にもゆとりが無く、回りの事まで考へる事まで出来ませんでした。これからは家族、町内、国～世界の事まで考へられる心がほしいです。[60 歳代 男性]
86. 行政から地域社会にわたって縦割社会(行政)の弊害が男女共同参画社会推進を阻んでいるように思えます。知らないと損をする、前に進めないようなことがあってはならないと思えます。ひとつの届け出でさまざまな支援サービスなどがあることを知ることができる。行政内の情報の共有と地域への情報提供が円滑に行われるシステムづくりをしていただきたい。私もこれを機会に家庭内から男女共同参画へ見直したいと思えます。[60 歳代 男性]
87. 男には男として出来ることがある。女性には女として出来ることがある。それを全部男女平等と言うのはどうかな？[60 歳代 男性]
88. 長い時間を経て今だにうまく行ってない男女共同参画については、どこかで法律の強制力で進める時期か。(労働問題も労働関係諸法で一応の形になってきている→あくまで形式の部分が主だが)(公務員(全般)の管理者を男女半々と法律で決めるなど、行政側から積極的に施行していくように。)[60 歳代 男性]
89. 小さなネットワーク(町内、子供会)と大きなネットワーク(市、県、国)創り。慣行を変えていくことが必要。例えばソフトボール、サッカー等も男女でチームをつくることなど。[60 歳代 男性]
90. 男女共同参画や男女共同参画社会についてよく知りました。[60 歳代 男性]
91. 共同参画が不明[70 歳以上 男性]
92. 「男女共同参画」はいわゆる役所言葉になっており、親しみやすい表現に変更すべきでは？[70 歳以上 男性]
93. 男女平等もよいがもっと男はしっかりやり女性より努力して家庭を守るような社会が長い目で見たらよいと思う。男性ども、もっと頑張れ[70 歳以上 男性]

94. 男女共同参画、女性の管理職積極登用 etc、賛成ではあるが、これは女性に男性と同レベルの能力と意欲があることが必要条件である。もし女性積極登用の謳い文句だけで、能力・意欲が男性と同じレベルでない女性を登用すれば、行政は混乱、会社は行き詰まる。長年の会社勤務の経験から見て、女性社員で能力・意欲が十分ある or 身につけようとしているのは残念ながらごく少数派であるのが現実。最も重要なことの1つは、女性の意識改革、男性と同レベルの能力と意欲を身につけようと努力することであり、それらを支援することも必要であろう。このアンケートの設問を作った人の意識にも、これらが十分あるのかどうか？[70歳以上 男性]
95. 管理職への女性の登用[70歳以上 男性]
96. 一宮市の共同参画等資料PRして下さい。[70歳以上 男性]

【仕事・家庭・子育てについて】

97. 子どもについて。就学前の子どもがいます。一時保育や託児のシステムはあっても金額が高すぎる。少し用事があってあずけたくてもあんなにお金を取られたらかせぎの全くない主婦にはツライ。とゆうかムリ。実家が遠く、旦那も仕事、たよる人がいない。ストレスばかりがたまるのにあずける所は高いお金をとる。少くから自由な時間がほしい…という息ぬきすらできない主婦は多い。私の友達もそうって悩んでいる人が多い。保育所や支援ネットワークには「ママ友」とゆうめんどくさいつきあいがいるから行きたくない人もたくさんいる。なんとかなりませんか？おねがいします。[20歳代 女性]
98. 母子家庭というだけで世間の目が違う。仕事も限られてしまう。もっと働きやすい社会にしてほしいです。[20歳代 女性]
99. 小さな子供を持つ母親にとって、社会に出たくても条件があわず、子供を優先に考えるとなかなか難しい。仕事に就けない。もっと子供を持つ女性が少しでも働ける環境を作って頂けるとありがたいです。[30歳代 女性]
100. 男性の親離れ、マザコンも大きな原因かと思います。子育て親の古い考えから見なおして欲しいものです。[30歳代 女性]
101. 女性は働くにあたって病気をした子供がいる時、長期に休みづらい職場環境が多い。夫婦で交代で休むことに夫の会社が理解あれば助かるが、今の現状、男性が休むことに対し困難な職場（中小企業は特に）が多いと思う。市の病後児保育は一ヶ所のみ、しかも木曽川にしかないで、そういった施設（病児保育なども）がせめてもう一ヶ所増えるともっとよい市（働きやすい環境）となるのではないか。病気の時、傍にいてあげたい気持ちは母親として一番。サポートが大切な部分だと思う。[30歳代 女性]
102. 一宮市の、ということではないですが。子供が0歳と2歳です。どんなささいな成長も見逃したくないので、預けて働きに出ることは考えていません。なので、保育園の充実という話もピンときません。働くのは好きなので幼稚園に入ったら働きたいと思っていますが、幼稚園や学校から帰ってくる時間には家で迎えたいと思います。子供が大きくなるにつれて、働く時間を長くしていけたらいいなとは思っていますが、持病もあり、親の介護が必要になってくる可能性もあるので退職しなくてはいけなくなる場合もあると思います。家庭を第一に考えて臨機応変に働いていけたら、自分にとってのベストな働き方かな、と思います。そういった働き方の変更がスムーズにいく社会になるならウレシイです。[30歳代 女性]

- 103.私が勤めている会社では同じ能力でも男性の給料の方が優遇されています。男性は家計を支えなければいけないという理由のようですが、やはり納得できません。こういった事が改善されるととてもうれしいです。[30歳代 女性]
- 104.職場は多くが女性で上司も女性であるので、それほど男女格差を感じたことがない。[30歳代 女性]
- 105.子供ができて仕事は続けたいが続けられる仕事かどうか悩みます。高齢になるし自分の体力と仕事、子育てが両立できるか・・・etc[30歳代 女性]
- 106.子育て中に退職した場合、やはり子どもが大きくなったら同じように常勤で働けるようにしてほしい。子育てに不安を感じても再就職が容易でないため、やめることができない。[30歳代 女性]
- 107.今の一宮市の保育園の状態では、女性が男性と同じ様に働くというのは無理な話です。仕事復帰時の保育園の体制がもう少しどうにかなると、安心して子供が産め、仕事もつづけられる街になると思います。[30歳代 女性]
- 108.私の職場では産後の労働時間の短縮が法で認められているので、取得するのは可能なのですが、忙しさを理由に同じ職場への復帰を拒まれる（時短可能な職場へ移動させ、新しく人員補充）ケースがありますし、子供の3歳の誕生日まで取得可能なはずが期間を限定され、出来ないと同じケースになります。企業側はもっと積極的にこの件に働き、復帰する者もすでに働いている者も働きやすい職場にするために幹部（上司）に働きかけてほしいです。まずは何事も幹部（上司）が（例えば男性育児休暇など）取得しない限り社員は取得出来ない状況にあるでしょう。→女性が家事、育児全般になるでしょう。[30歳代 女性]
- 109.勤めていると土日しかゆっくりする時間がありません。土日に色々な企画があると嬉しく思います。[30歳代 女性]
- 110.保育料が他の市町村と比べ高いと思う。保育料が高いため働きに出るのをあきらめている女性もいると思う。延長保育のある保育園を増やしたり、病後時保育の施設を増やし女性が子供をあずけて働きに出ることのできる環境を整備してほしい。子供の予防接種の公費負担も他市町村より遅れているし、子育て世代が住みよい一宮市にしていきたい。[30歳代 女性]
- 111.子供が学校に行っている時間帯のパートが少ない。[40歳代 女性]
- 112.男性と女性は同性ではないので全く同じ仕事を要求する必要はないと思います。しかし、働きたい女性が家庭であっても働ける環境整備をすることは行政として、していただきたいと思います。（保育施設など）[40歳代 女性]
- 113.いつも私達市民のためにありがとうございます。私事ですが、結婚、出産、離婚と人生を振り返る中、一番大変だった事は病気になり子供が保育園から帰される時など「病後保育」などの制度があると助かるのに、とよく思いました。その子供達も成長し、家族3人仲良く暮らす事ができましたのは、皆様に助けて頂きながらも、仕事を続けてこられたからだと思います。家庭でも社会でも”全てが平等”というのはなかなか難しいことだと思いますが、思いやりの心を忘れず、感謝の気持ちを込め、地域の方々にも恩返ししたいと考えております。[40歳代 女性]
- 114.就労において女の子は全体的に不利です。けっきょく女の子はやめちゃうと思う企業の方の考え方をあらためてほしい。[40歳代 女性]

- 115.ほとんどの主婦は子供のために家にいたいと思う。でも生活のために働かざるを得ない。社会進出したい女性は、子供を預けられる施設を充実させて欲しいと思うだろうし、子供のために家にいたい女性はせめて子供が小学校に行くまでは、何らかの生活の援助が欲しいと思う。子供はお金がかかります。景気が悪くなれば少子化はどんどん進むでしょう。[40歳代 女性]
- 116.女性が働くのもいいですが私は日本の宝である子供を育てていく事の方が大事だと思います。働いてお金を得て男女平等の世の中…より、人間を育てる事の難しさを今痛感しています。男性にしかできない事、女性にしかできない事の役割を一人一人が考えるべきだと思います。又、女性が昔より働いているので若者の職が少なくなっているとも思います。もっと若者に職を…。[40歳代 女性]
- 117.女性も一生働きやすい社会を望みます。保育園、学校等の施設の充実も必要ですが、そこで働く女性への配慮も必要だと思います。むだな公共施設の建設（体育館、保健センター）の前に、働きやすい環境を作るべきだと思います。中保健センターに乳児、病児等の預り所の設置を希望します。駐車場も有り、常时空いている部屋はありませんか。[50歳代 女性]
- 118.妊娠、出産、子育てをしながら、女性が仕事を継続し、両立するためには男性でもできる家事や子育てを夫に協力してもらわなければ難しい。女性がほとんどやらなければいけないとストレスがたまり、子供にも悪い影響もあると思われる。私は3人の子育てのため10年間仕事はせず、主婦をしていたが、仕事をする事でやりがいや、人とのふれあいがあり、社会の中で生きている感じがする。私は看護師のためすぐ仕事もみつかったが、資格がない人では一度仕事をやめてしまうとなかなか仕事にもつけないと思う。仕事と子育てを両立するために、保育園の充実、とくに発熱等のあったときでも預けられる保育園があったら良いと思う。そうでないとフルタイムではなかなか働けない。[50歳代 女性]
- 119.女性が仕事を継続する上で育児休暇が長くとれる様になったのはいいが、早目に働く人が保育料が高かったり、保育園や幼稚園の延長があっても小学生の低学年になるとあずける場所が少なかったりする。子供の成長はあったとしても安定的に仕事が継続できるように考えてもらいたい。[50歳代 女性]
- 120.女性の過重労働は男性の比でない事である。一考を。[70歳以上 女性]
- 121.笑顔を忘れず、夫婦で健康で孫子達がたづねて来るのを楽しみに暮らしています。[70歳以上 女性]
- 122.男性が子育てを行いやすい法律や制度の見直しを積極的に行ってほしい。[40歳代 男性]
- 123.女性がフルタイムで働ける様な環境が必要だと思います。子供がいると子供中心の生活になり、フルタイムの仕事が難しくなり、パート、アルバイトになってしまいます。子供手当を増やし、男女が協力して子育てが出来る様にしてほしい。[40歳代 男性]
- 124.女性が家庭に専念できる社会環境を整えることも必要。税制度も配慮する必要がある。夫婦が働かないとまらない社会を変えないといけない。[40歳代 男性]
- 125.職場に女性の上司を多くしてほしい。女性に意見を云えるような職場にしてほしい。男性が、いばりすぎない様に、仕事ができるようにする事。[70歳以上 男性]
- 126.(女性はでも)能力次第でどんな職場でも活躍出来る。但し、社会全体で中小零細企業で就労する方が90%を占める現状では男女をとわず長期休暇をとったのち、職場復帰がむずかしい(公務員はそのかぎりでない) [70歳以上 男性]

- 127.企業規模として一定以上の企業には託児所設置の義務を課すくらい思いきった制度を導入しないと「男女平等参画社会」は単に「言葉遊び」的な意味にしかならないように思う。男は子供を産むこともできないし、母乳を与えることもできない。女性の社会進出と少子化は、ある程度リンクしているので安心して子供を産み、一定期間育てるため、在宅で活動できれば良いが、大抵仕事継続を諦め退職してしまうので、必然的に男性優位になるのでは…？ [60歳代 男性]
- 128.保育の充実で女性が仕事をやめなくても働くことができる様にする。老人が孫をみて、若夫婦が働くことができる様に老人を活用し、そのように教養するべき。又、老人も自覚すること。 [70歳以上 男性]

【アンケートについて】

- 129.このアンケートを活かし、男女共により生活しやすくなるよう期待しています。 [20歳代 女性]
- 130.一宮市としての施策や活動の範囲はどこまででしょうか？又、時々この様なアンケートをすることがありますが、これも答える側は良いとして、出す側、集計する側は税金を元に活動されている訳なので、このアンケートがどういう形で運用され活用されるのでしょうか？ [30歳代 女性]
- 131.このアンケートについて…。このアンケートの内容、量では、実際働いている人や忙しい人にとって時間がつくれず、アンケートの回収率がどのくらいになるのか、また正確な意見をあつめることができるのか、疑問です。教育の場、成人式等、若いうちから男女共同参画について考える場が必要だと思います。 [30歳代 女性]
- 132.このアンケートを行うこと自体が「男女不平等ありき」を前提にしています。また回答形式も誘導的な設問が多いように感じます。このようなアンケートがなくなった時に初めて平等を実感できるように思います。 [40歳代 女性]
- 133.特にないが、質問事項がおおまかすぎるところがある、っていうか選びにくい項目がある。 [50歳代 女性]
- 134.こんなきめ細かく市民の声を聞くアンケートが有る事に驚きました。住みよい一宮市である事を願っています。主人宛のアンケートですが今介護施設にお世話になって居ますので妻である私が代理で記入しました。 [70歳以上 女性]
- 135.このアンケートが男女を差別している質問内容が多い。 [40歳代 男性]
- 136.このくだらないアンケートが役に立つとは思えません。まずはアンケートを廃止して具体的な動きや活動を広く展開すべきでは。その際は社会を知らない社会学者などを呼ばず、子育て中の主婦らの意見を最重要視すべきかと思います。 [30歳代 男性]
- 137.このアンケートでは番号から選ぶ事になっているが番号内から選ばせているだけでは、このアンケートは無意味。自分の考えを書いてもらうスペースを作ってこそ意味があるのではないのでしょうか？これでは役所の自己満足だし、民間の企業ではこんなアンケートのやり方だと誰も興味もってくれないでしょう。興味ももってもらえるような封筒や内容、もっといろいろできるはず。 [30歳代 男性]
- 138.ひまか？用紙代がもったいない。 [40歳代 男性]

- 139.突然のアンケートで驚きでしたが、知らない所でこういった活動があった事を知り、良い事であろうと思います。出産、育児と言う女性特有の問題と、企業内の理解が一番大切だと思います。法律で強制的ではなく、柔らかく、対話によって答えが出る事を望みます。いろいろ考えられても最終的に全体的な経済が良くなると、良くなったと感じないかも知れませんね。[40歳代 男性]
- 140.今回のアンケート自体が女性をさらに優遇する為のアンケートの様に思えた。現在そんなに男女不平等なのか？男の方が肩身がせまい気がするが。[40歳代 男性]
- 141.この様なアンケートをする事が男女共同参画に偏見を持っている人が作成している様に思えます。男女共それぞれの力と能力で自然な生活が良いではありませんか。[60歳代 男性]
- 142.男性目線の質問が多いように思われます。男女半々の会議より女性の参加多くして開いた方が良いでしょう。[60歳代 男性]
- 143.このアンケートの基本は女性が差別されているという視点に立っている。いろいろなケースがあり、時には女性が過剰に優遇されているケースもある。出産、子育てを経ることは社会的にどのように対応するかということが必要である。女性の積極的な取組みが不可欠である。[70歳以上 男性]

【その他】

- 144.働く女性にとって、とにかく「夫婦別姓」を速く実現されたい。[40歳代 女性]
- 145.基本計画、自治体の男女共同参画計画→問題点に多くの方が気づき行動を起こす必要性。[40歳代 女性]
- 146.一宮駅付近少しずつ開発が進んでいるのですが、まだまだの所があり、遊べる場所、買い物の場所など、お年寄りが時間をもてあまさない所を造ってほしいと思います。それで女の人も社会に参加出来る場所も増えると思います。[50歳代 女性]
- 147.知らないので何も記入できない。[50歳代 女性]
- 148.一宮市の役所職員から、性別、年齢をこえて能力・意欲のある人材を投与、活用して行って下さい。[50歳代 女性]
- 149.若い男女の方々は昼間働いておられるので仕方がないかもしれないのですが、何と年寄り（名誉職か既得権か分かりませんが）イベント会場でも幅をきかせている地域なのだろうとがっかりしています。（特に公務員、教員を経験してきた男性の方で）ボランティア活動にしろ、役に立ちたいという若者が大勢います。しかし打ち合せ等ウィークデイでは参加できないとこぼされています。考慮して欲しいですね。[70歳以上 女性]
- 150.以前は自営でしたが、今はもう年で廃業してしまい、私は一度も外で働いた事なくて外の事は全くわかりません。[70歳以上 女性]
- 151.健康面での検査の充実。NPO 団体への備品整備等。[30歳代 男性]
- 152.よくわからない[40歳代 男性]
- 153.男女の出会いの場となるものを一宮市として企画してみてください。[40歳代 男性]
- 154.後期高齢者（イヤな言葉、もっと良いネーミングはないの）なので、余り参考にならないと思う。若い人達に頑張ってもらいたい。[70歳以上 男性]

V 調査票

男女共同参画意識に関する市民アンケート ご協力をお願い

一宮市では、市民の皆さんに市政に関するお考えやご意見をお聴きする市民アンケートを実施しています。この調査は、「男女共同参画」に関して、市民の皆さんの意識や実態を把握し、今後の市の施策を検討する上での基礎資料にするものです。

このアンケートは、一宮市内にお住まいの満20歳以上の方の中から、統計的手法で無作為に選ばせていただいた3,000人の方にアンケート用紙を郵送し、ご回答いただくものです。今回、あなた様に本アンケートへのご協力をいただきたく、突然のお願いで恐縮ですが、この趣旨をご理解いただき、ご回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。

「男女共同参画社会」とは、男性と女性がお互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会をいいます。

平成25年6月 一宮市長 谷 一夫

【ご記入にあたってのお願い】 *****

- このアンケートには、調査票をお送りした封筒に書かれたあて名のご本人がお答えください。ただし、ご本人が書くことが困難な場合には、身近な方がご本人の意見を聞きながら記入していただいても結構です。
- お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個々のご回答やプライバシーにかかわる内容が公表されることは一切ありません。

記入が終わりましたら、同封しました返信用封筒に入れて、切手を貼らずにポストへ回答期限までにご投函ください。（お答えは、直接この調査票に記入ください。）

回答期限：7月1日（月）

このアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

一宮市 企画部 企画政策課 Tel 0586-28-8952

<男女の平等について>

問1 あなたは、次にあげるAからHまでの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。AからHについて、当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

	1 る男性の方が優遇されている	2 方がどちらかといえはる男性の	3 平等	4 方がどちらかといえはる女性の	5 る女性の方が優遇されている	6 分からない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
B 職場	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
E 政治の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度	1	2	3	4	5	6
G 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
H 社会全体としてみた場合	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、上記のAからHまでの分野で、男女の地位が最も平等または不平等だと思うものはどれですか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

- ・ 最も平等だと思う (A・B・C・D・E・F・G・H)
- ・ 最も不平等だと思う (A・B・C・D・E・F・G・H)

問3 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める
2. 女性を取り巻くさまざまな偏見や、社会通念・慣習・しきたりなどを改める
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術の習得など、積極的に力の向上を図る
4. 女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
5. 行政や企業などの重要な役職に、女性を積極的に登用する制度を採用・充実する
6. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
7. 分からない

<結婚、家庭・地域生活に関する意識について>

問4 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対
4. 反対 5. 分からない

問5 あなたは、現在配偶者（またはパートナー）と暮らしていますか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 配偶者（またはパートナー）と暮らしている →問6へ
2. 配偶者（またはパートナー）と暮らしていない →問9へ

【問5で1. 配偶者（またはパートナー）と暮らしていると答えられた方に質問します】

問6 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に誰が分担していますか。AからHについて、あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

	1 夫	2 妻	3 夫婦	4 家族全員	5 家族以外の 人	6 分からない
A 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
B 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
C 掃除	1	2	3	4	5	6
D 洗濯	1	2	3	4	5	6
E 買い物	1	2	3	4	5	6
F 家計の管理	1	2	3	4	5	6

※ 子育て中、介護中の方はG、Hについてもお答えください。

G 子育て（子どもの世話・教育など）	1	2	3	4	5	6
H 介護（介護が必要な親・病人の介護など）	1	2	3	4	5	6

【問6で「G 子育て」を答えられた方に質問します】

問7 子育て経験の中で、悩んでいる、あるいは悩んだことがありますか。当てはまるものをすべてに○印をつけてください。

1. 子育てで出費がかさむ
2. 自分の自由な時間が持てない
3. 仕事や家事が十分にできない
4. 子どもとの時間が十分にとれない
5. しつけのしかたが家庭内で一致していない
6. 子どもの成長の度合いが気になる
7. 家族の理解・協力が得られない
8. 子どもの教育（学力、しつけ）に不安がある
9. 子どもの預け先がない
10. 特にない

【問6で「H 介護」を答えられた方に質問します】

問8 介護経験の中で、悩んでいる、あるいは悩んだことがありますか。
当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 食事や排泄、入浴など世話の負担が重く、十分な睡眠が取れないなど肉体的負担が大きい
2. ストレスや精神的負担が大きい
3. 家を留守にできない、自由に行動できない
4. 仕事に出られない、仕事を辞めなければならない
5. 介護に要する経済的負担が大きい
6. 適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がない
7. 介護サービスについての情報が少ない
8. 緊急の場合に対応できる病院や診療所が近くにない
9. 介護のための部屋がない、入浴しにくいなど住宅の構造に問題がある
10. 介護が必要になった家族が住みなれた自宅で生活できなくなる
11. 特にない

【すべての方に質問します】

問9 あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先していますか。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つとも大切にしている
8. 分からない

問10 あなたは、仕事以外に地域で何か活動に参加したことはありますか。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 現在参加している（例：PTA、町内会、ボランティア活動など） →問12へ
2. かつて参加していたが現在は中止している →問12へ
3. 参加したことはない →問11へ

【問10で「3.参加したことはない」と答えられた方に質問します】

問11 今後、あなたが参加したい活動はありますか。
当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. P T Aや子ども会
2. 女性の会や地域女性団体（または男性の会や地域男性団体）
3. 町内会や自治会
4. 老人クラブなど高齢者の会
5. N P Oやボランティア団体など民間の非営利活動団体
6. 教養・趣味・スポーツのサークル
7. いずれも参加したくない
8. 分からない

【すべての方に質問します】

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事・子育て・介護・地域活動について評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及させ、仕事以外の時間を多く持てるようにする
7. 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を持つよう、啓発や情報提供を行う
8. 国や地方自治体の研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行う仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
10. 仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設ける
11. 特に必要なことはない
12. 分からない

<女性の社会進出について>

問13 あなたは、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 都道府県、市（区）町村の首長
2. 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員
3. 国家公務員・地方公務員の管理職
4. 裁判官、検察官、弁護士
5. 大学教授
6. 国連などの国際機関の管理職
7. 企業の管理職
8. 起業家・経営者
9. 労働組合の幹部
10. 農協の役員
11. 新聞・放送の記者
12. 自治会長、町内会長等
13. 特にない

問14 あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。あなたの考え方に近いものを1つ選び○印をつけてください。

1. ずっと職業を持ち続けるほうがよい
2. 結婚するまでは、職業を持ち続けるほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業を持ち続けるほうがよい
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
5. 女性は職業を持たないほうがよい
6. 分からない

問15 あなたは、社会のさまざまな分野において、企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 家庭における性別役割分担、性差別の意識
2. 職場における性別役割分担、性差別の意識
3. 地域における性別役割分担、性差別の意識
4. 男性優位な組織運営
5. 家庭の支援・協力が得られない
6. 女性の能力開発の機会が不十分
7. 女性の活動を支援するネットワークの不足
8. 女性側の積極性が不十分
9. 分からない

<ドメスティック・バイオレンス（DV）などについて>

問16 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）のことを知っていますか。
知っているものすべてに○印をつけてください。

1. 配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶ
2. DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれる
3. DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されている
4. 県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っている
5. DVを受けている人を発見したら、配偶者暴力相談支援センターまたは警察に通報するよう努めなければならない
6. 主に職場において、性的な言動により他の人を不快にさせる行為を「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」と呼ぶ
7. 職場におけるセクハラを防止するために、法律（「男女雇用機会均等法」）で事業主に雇用管理上必要な配慮をすることが義務付けられている
8. 知らない

問17 あなたは、配偶者（事実婚や別居中、元配偶者も含む）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 家族や知人などから相談されたことがある
2. 身近に当事者がいる
3. 身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある
4. 身近で見聞きしたことはない

問18 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 知っている →問19へ
2. 知らない →問20へ

【問18で「1.知っている」と答えられた方に質問します】

問19 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。
知っているものすべてに○印をつけてください。

1. 配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）
2. 市役所
3. 警察
4. 民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）
5. 法務局、人権擁護委員、法テラス

【すべての方に質問します】

<男女共同参画社会について>

問20 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉を知っていますか。
知っているものすべてに○印をつけてください。

1. 男女共同参画
2. 男女共同参画週間
3. 男女共同参画社会基本法
4. いちのみやし男女共同参画計画
5. 一宮市男女共同参画推進懇話会
6. 男女共同参画情報紙「いーぶん」
7. 市の審議会等の女性委員を35%以上にする目標がある
8. 女子差別撤廃条約
9. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
10. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
11. 男女雇用機会均等法
12. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
13. 知らない

問21 あなたは、男女共同参画社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
当てはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 法律・制度の面で見直しを行う
2. 政治や行政などにおける政策決定の場に、女性を積極的に登用する
3. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
4. 職場における男女の均等な取扱いの周知徹底が図られるよう企業等に働きかける
5. 労働時間の短縮や、在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める
6. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
7. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
8. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
9. 学校や生涯学習などの場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
10. 女性や男性の生き方に関する情報提供や相談などの場を充実する
11. 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
12. 特にない
13. 分からない

● **あなたご自身のことについてお聞かせください。**

問22 性別はどちらですか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問23 満年齢は何歳ですか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳
4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70歳以上

問24 ご職業は何ですか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

自営業	1. 農林漁業 2. 商工サービス業 3. 自由業
家族従業者	4. 農林漁業 5. 商工サービス業 6. 自由業
雇用者	7. 管理職 8. 専門技術職 9. 事務職 10. 労務職
無職	11. 主婦（主夫） 12. 学生 13. その他

問25 雇用形態もお答えください。

1. 常勤（フルタイム）
2. 非常勤（パート、アルバイトなど）

問26 あなたは、結婚していますか（事実婚を含む）。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 結婚している →問27へ
2. 結婚していたが、死別・離別した →問29へ
3. 結婚していない →問29へ

【問26で「1.結婚している」と答えられた方に質問します】

問27 あなたの配偶者（夫または妻）のご職業は何ですか。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

1. 自営業
2. 家族従業者
3. 雇用者
4. 無職

問28 雇用形態もお答えください。

1. 常勤（フルタイム）
2. 非常勤（パート、アルバイトなど）

【すべての方に質問します】

問29 あなたは、未婚のお子さんがいますか(別居を含む)。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 未婚の子どもがいる | →問30へ |
| 2. 未婚の子どもはいない | →問31へ |

【問29で1.未婚の子どもがいると答えられた方に質問します】

問30 あなたのお子さんは、次のどれにあたりますか。当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。(2人以上いる場合は、それぞれ○印をつけてください)

- | | | | |
|-----------------|---------------|--------|--------|
| 1. 就学前 | 2. 小学生 | 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 短大生・大学生・大学院生 | 6. 専修学校・各種学校生 | | |
| 7. 就業している | 8. その他 | | |

【すべての方に質問します】

問31 あなたの家族構成をお答えください。
当てはまるものを1つ選び○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 単身世帯(1人) | 2. 1世代世帯(夫婦のみ) |
| 3. 2世代世帯(親と子ども) | 4. 3世代世帯(親と子どもと孫) |
| 5. その他 | |

- 最後に、一宮市の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会について、ご意見がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。多岐にわたる調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

アンケート結果につきましては、広報一宮12月号に概要をお知らせする予定です。同時に市ホームページでも掲載します。

ご記入頂いた調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒にて7月1日(月)までに投函してください。

男女共同参画意識に関する調査報告書
平成25年11月発行

一宮市企画部企画政策課
一宮市本町2丁目5番1号
電話0586-28-8952

※本報告書の内容は、インターネットでもご覧いただけます。
[http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/
kikakuseisaku/danjyo/index.html](http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/kikakuseisaku/danjyo/index.html)